

令和4年度
防災に関する県民意識調査報告書

三 重 県

目 次

第1章 調査の概要

- 1 調査目的
- 2 調査方法
- 3 本報告書における結果数値等の取扱い

第2章 調査結果

1 アンケート調査回答者の属性

- 1-1 住所
- 1-2 性別
- 1-3 年齢
- 1-4 家族構成
- 1-5 職業

2 地震・津波対策について

- 2-1 今後10年間における大規模地震発生の認識
- 2-2 自宅付近における地震被害想定への認知度
- 2-3 東日本大震災後の防災意識の移り変わり
- 2-4 地震に対する避難行動のきっかけ
- 2-5 大地震が発生しても「避難しようと思わない」理由
- 2-6 南海トラフ臨時情報の認知度

3 風水害対策について

- 3-1 自宅付近における風水害の危険性の認知度
- 3-2 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり
- 3-3 避難情報（警戒レベル）の認知度
- 3-4 風水害に対する避難行動のきっかけ
- 3-5 被害の発生が予測されるような大雨でも「避難しようと思わない」理由

4 災害時の情報収集について

- 4-1 災害時に知りたい情報
- 4-2 気象・災害情報の入手先
- 4-3 県ホームページ「防災みえ.jp」の認知度
- 4-4 県ホームページ「防災みえ.jp」で見た情報
- 4-5 県ホームページ「防災みえ.jp」を利用しない理由
- 4-6 「防災みえメール配信サービス」の認知度
- 4-7 「防災みえTwitter、LINE」の認知度

5 避難場所・避難所について

- 5-1 自宅付近の避難場所・避難所の認知度
- 5-2 避難場所・避難所を知ったきっかけ

- 5-3 避難場所・避難所までの経路についての認知度
- 5-4 夜間など避難が困難な状況での避難に対する認識
- 5-5 土地鑑のない場所での避難

6 日頃の防災対策について

- 6-1 家庭での防災対策の状況
- 6-2 自宅における家具等固定の状況
- 6-3 自宅において家具等固定をしない理由

7 地域・職場での防災活動について

- 7-1 地域の防災活動への参加意識
- 7-2 地域や職場における防災活動への参加状況
- 7-3 地域の防災活動へ参加したきっかけ
- 7-4 参加した地域・職場の防災活動の内容
- 7-5 地域・職場の防災活動に参加しなかった理由
- 7-6 住んでいる地域における自主防災組織の有無と活動状況
- 7-7 地域・職場で必要だと思ふ防災活動
- 7-8 地域の企業・事業所に期待する防災活動・防災対策
- 7-9 消防団への参加状況
- 7-10 消防団に参加したきっかけ
- 7-11 消防団に参加しない理由

8 学校の防災教育について

- 8-1 学校において特に力を入れて取り組むことが必要だと思ふ防災教育
- 8-2 家庭での防災ノートの活用状況

9 お住まいの耐震化について

- 9-1 住まいの状況
- 9-2 住宅耐震化に向けた補助制度の認知度
- 9-3 耐震診断の受診有無と診断結果
- 9-4 耐震補強が必要な場合における補強工事の実施状況
- 9-5 耐震補強工事実施の際における補助制度の活用有無
- 9-6 補助制度を活用せずに耐震補強を実施した際の工事内容
- 9-7 実施した耐震補強工事の工事費
- 9-8 耐震補強を実施しない理由
- 9-9 耐震補強工事にあたって許容できる自己負担額
- 9-10 耐震補強工事の一部実施

資料

- ・津波危険地域一覧
- ・令和4年度防災に関する県民意識調査 調査票

第1章 調査の概要

1 調査目的

県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

2 調査方法

県内の18歳以上の方にアンケート調査票を郵送する方法で実施しました。

(1) 調査対象

県内全市町の18歳以上の5,000人

- ・調査対象は、各市町の選挙人名簿から無作為抽出
- ・各市町の対象者数は、市町別推計人口の比率を参考に割り当て

(2) 調査期間：令和4年10月11日から令和4年10月26日まで

(3) 回収率：53.8% (2,692人/5,000人)

(4) 設問数：50問(枝間含む)

3 本報告書における結果数値等の取扱い

(1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。

(2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント(%)値で表記しています。(% 値の母数は、その質問項目の該当標本数(有効回答数))

(3) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。したがって、合計が必ずしも100%とならない場合(99.9%または100.1%など)があります。

同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。

(4) 図中の「n」は、各設問の有効回答数を表しています。

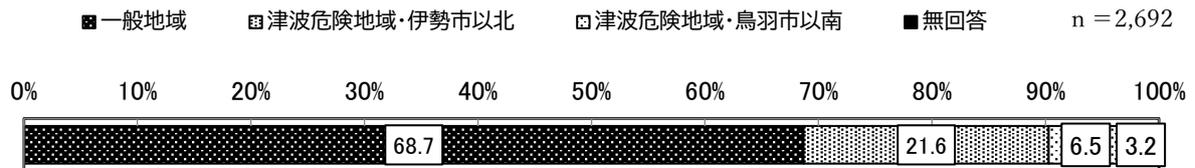
第2章 調査結果

1 アンケート調査回答者の属性

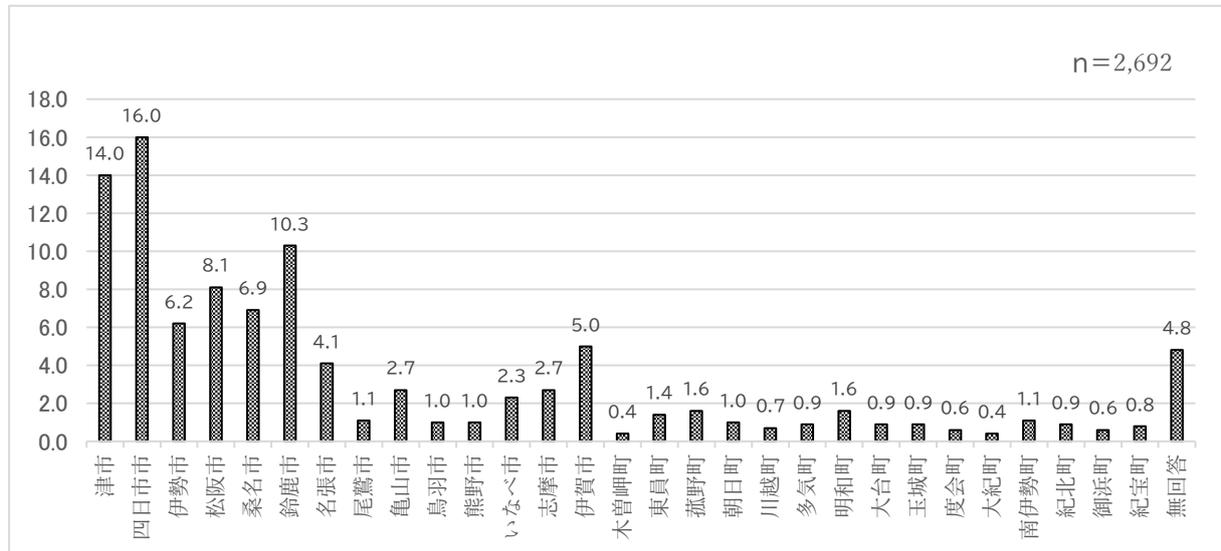
1-1 住所

F1 ご自宅のある市町は

(1) 地域



(2) 市町



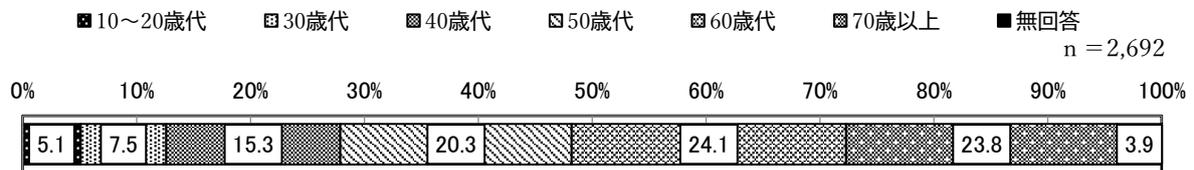
1-2 性別

F2 あなたの性別は



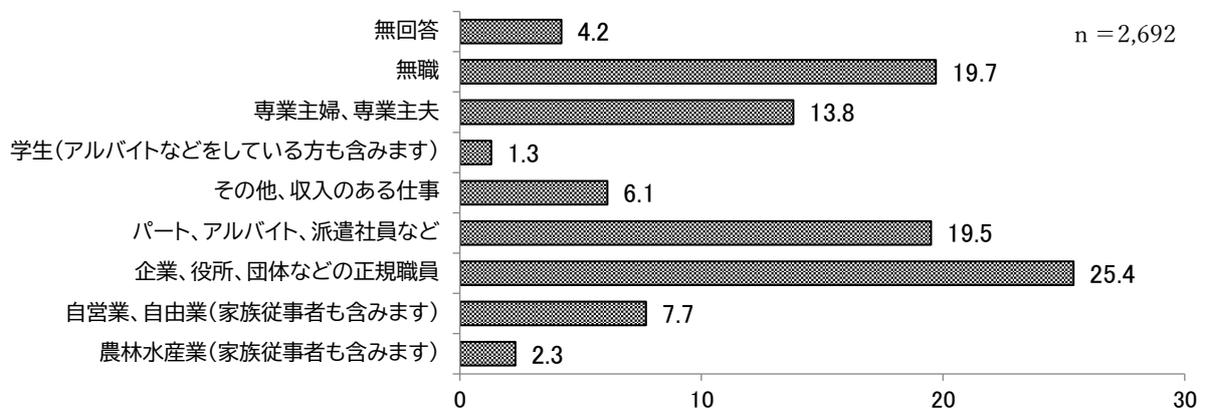
1-3 年齢

F3 お年は



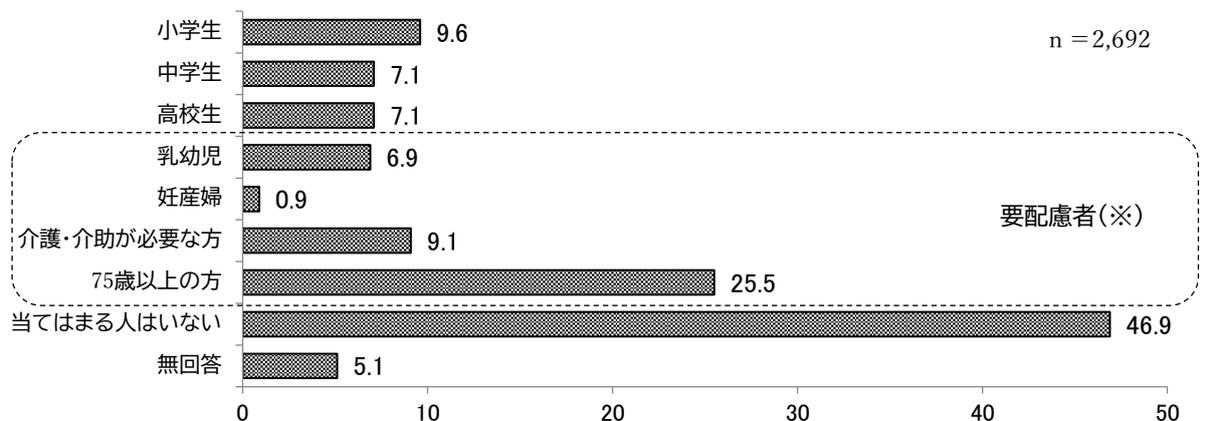
1-4 職業

F4 あなたの主な職業は何ですか。



1-5 家族構成

F5 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。



※要配慮者とは

要配慮者とは、災害対策基本法第8条第2項第15号で「高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」とされています。本調査では、「乳幼児、妊産婦、海保・介助が必要な方、75歳以上の方」を要配慮者としています。

2 地震・津波対策について

2-1 今後10年間における大規模地震発生の認識

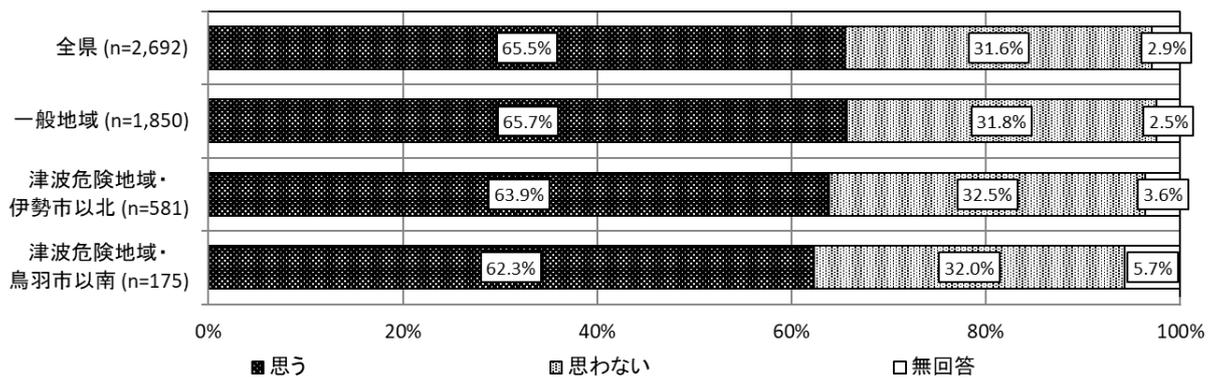
【問1】 あなたの住んでいる地域で、今後10年程度の間で大規模な地震が起こると思いますか。(一つだけ○)

1. 思う
2. 思わない

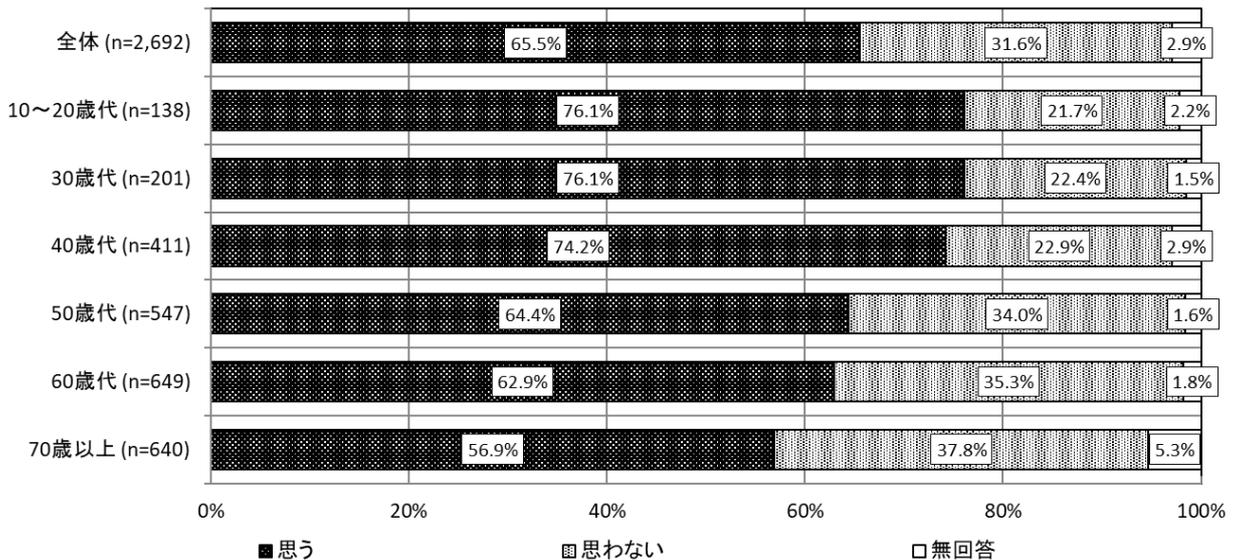
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



- 今後10年程度の間に大規模地震が発生すると「思う」と回答した方は65.5%となっています。
- 地域別には大きな差はありませんが、年齢別に見ると、年代が高くなるにつれて「思わない」と回答した方の割合が増加しています。

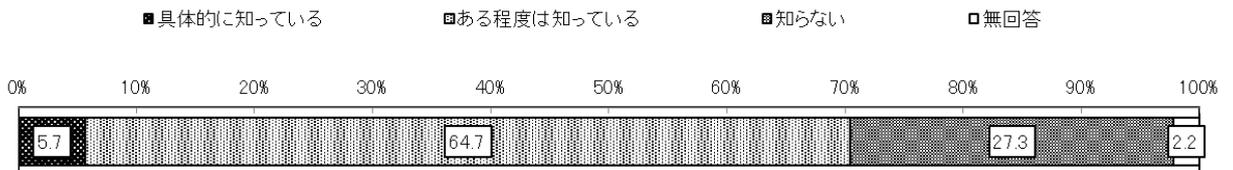
2-2 自宅付近における地震被害想定認知度

【問2】 三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、あなたは、お住いの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。(一つだけ○)

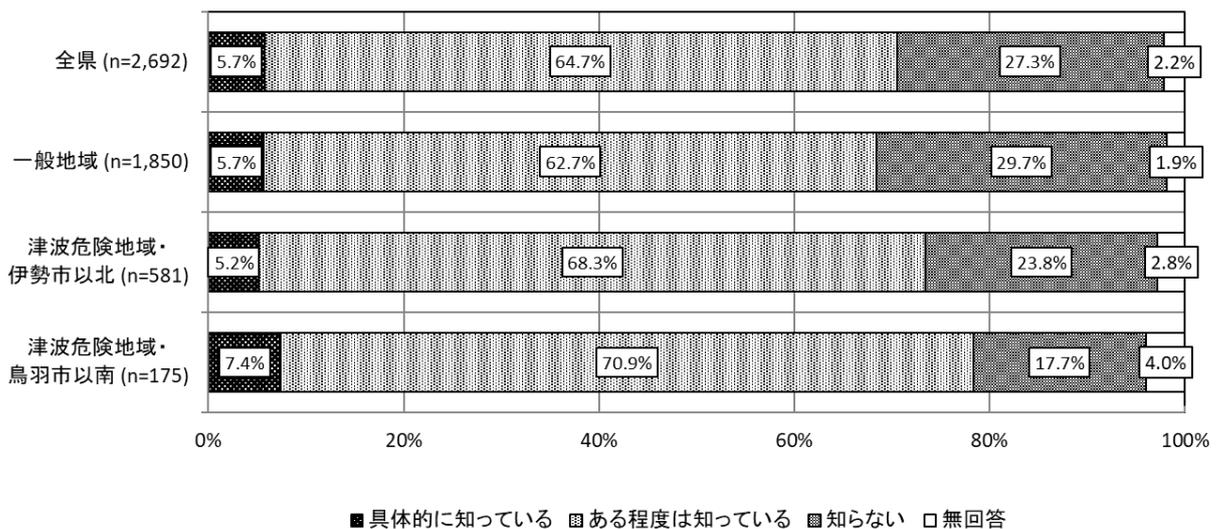
1. 具体的に知っている
2. ある程度は知っている
3. 知らない

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

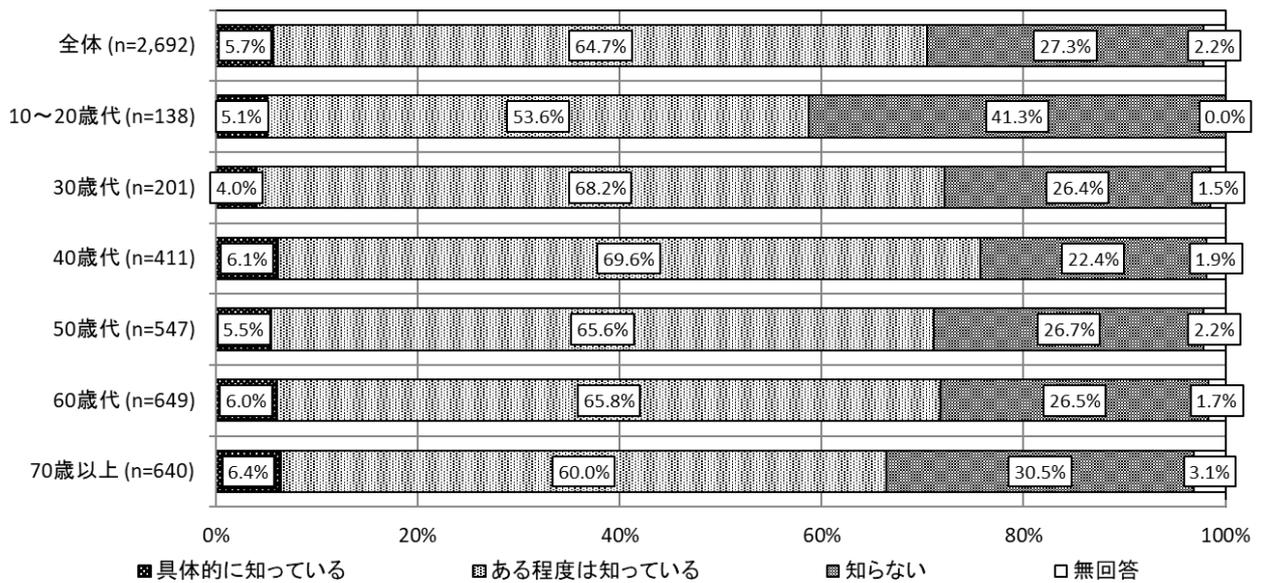
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



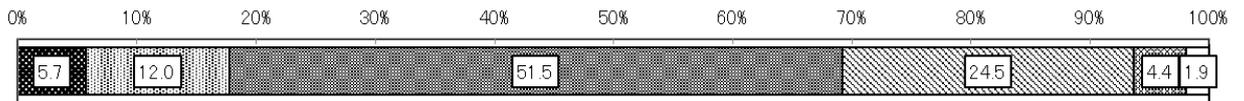
- 自宅付近の地震被害想定について、「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」と回答した方はあわせて70.4%、「知らない」と回答した方は27.3%となっています。
- 地域別には大きな差はありませんが、年齢別を見ると、10～20歳代について「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」があわせて53.6%、「知らない」が41.3%と、地震被害想定認知度が他年代と比べて低い状況となっています。

2-3 東日本大震災後の防災意識の移り変わり

【問3】 平成23年の東日本大震災の発生から10年あまりが経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

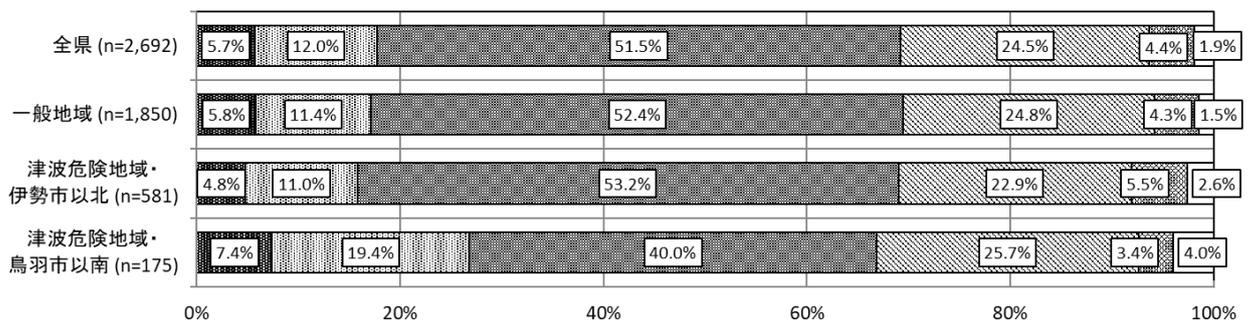
1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している (またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった

(1) 集計結果



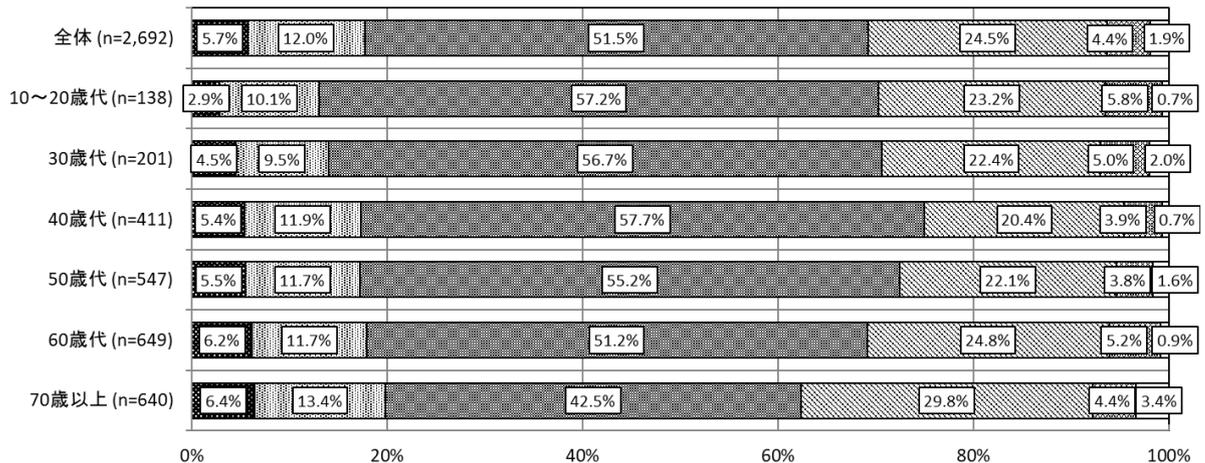
- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
- ▣ 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
- ▨ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
- ▧ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- ▩ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(2) 地域別



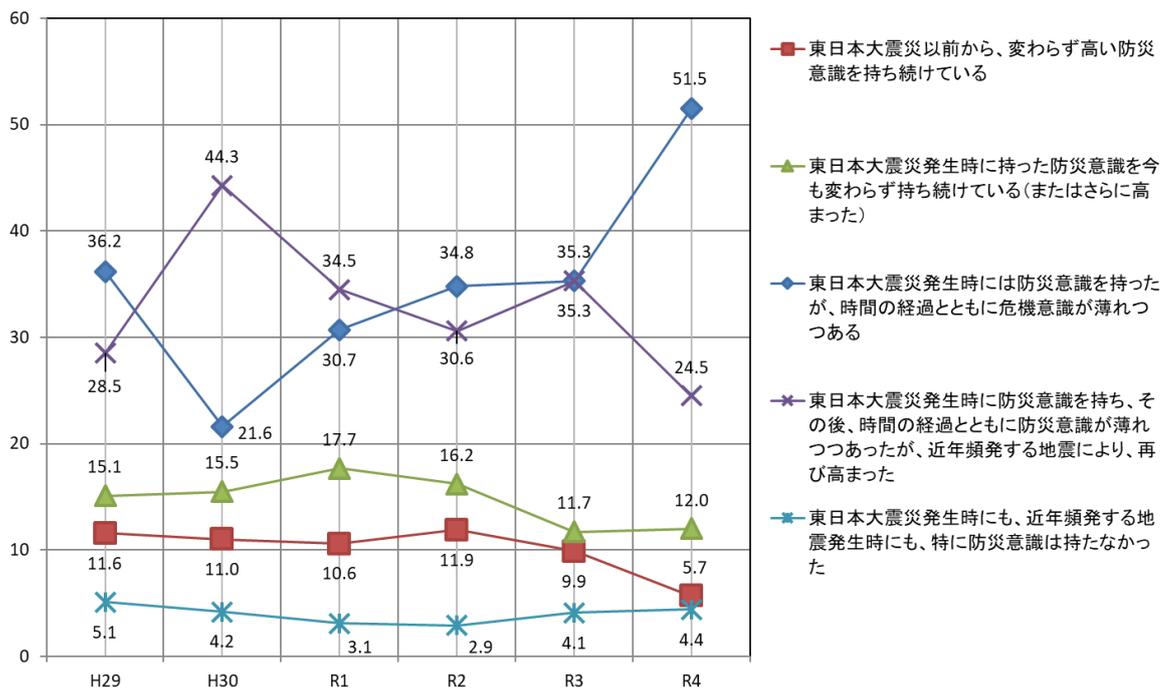
- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
- ▣ 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
- ▨ 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
- ▧ 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- ▩ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった
- 無回答

(3) 年齢別



- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
- ▣ 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
- ▨ 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
- ▧ 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- ▩ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった
- 無回答

(4) 経年変化



○ 「東日本大震災以前から変わらず高い防災意識を維持している」、「東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している」と回答した方はあわせて 17.7%となっている一方で、東日本大震災発生時に持った防災意識が「時間の経過とともに薄れつつある」と回答した方は 51.5%になっています。

また、経年変化を見ると、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合は増加傾向にあるとともに、「東日本大震災以前から変わらず高い防災意識を維持している」、「東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している」、「再び高まった」と答えた方の割合は令和2年度以降減少傾向にあります。

○ 地域別に見ると、「東日本大震災以前から変わらず高い防災意識を維持している」、「東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している」と回答した方の割合が最も高かったのは鳥羽市以南の津波危険地域（26.8%）、「時間の経過とともに薄れつつある」と回答した方の割合が最も低かったのも鳥羽市以南の津波危険地域（40.0%）となっています。

○ 年齢別に見ると、東日本大震災以前から変わらず高い防災意識を維持している、「東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している」と回答した方は年代が上がるにつれて増加傾向にあります。「時間の経過とともに薄れつつある」と回答した方の割合は 40 歳代が最も高く（57.7%）、70 歳以上が最も低く（42.5%）となっています。

2-4 地震に対する避難行動のきっかけ

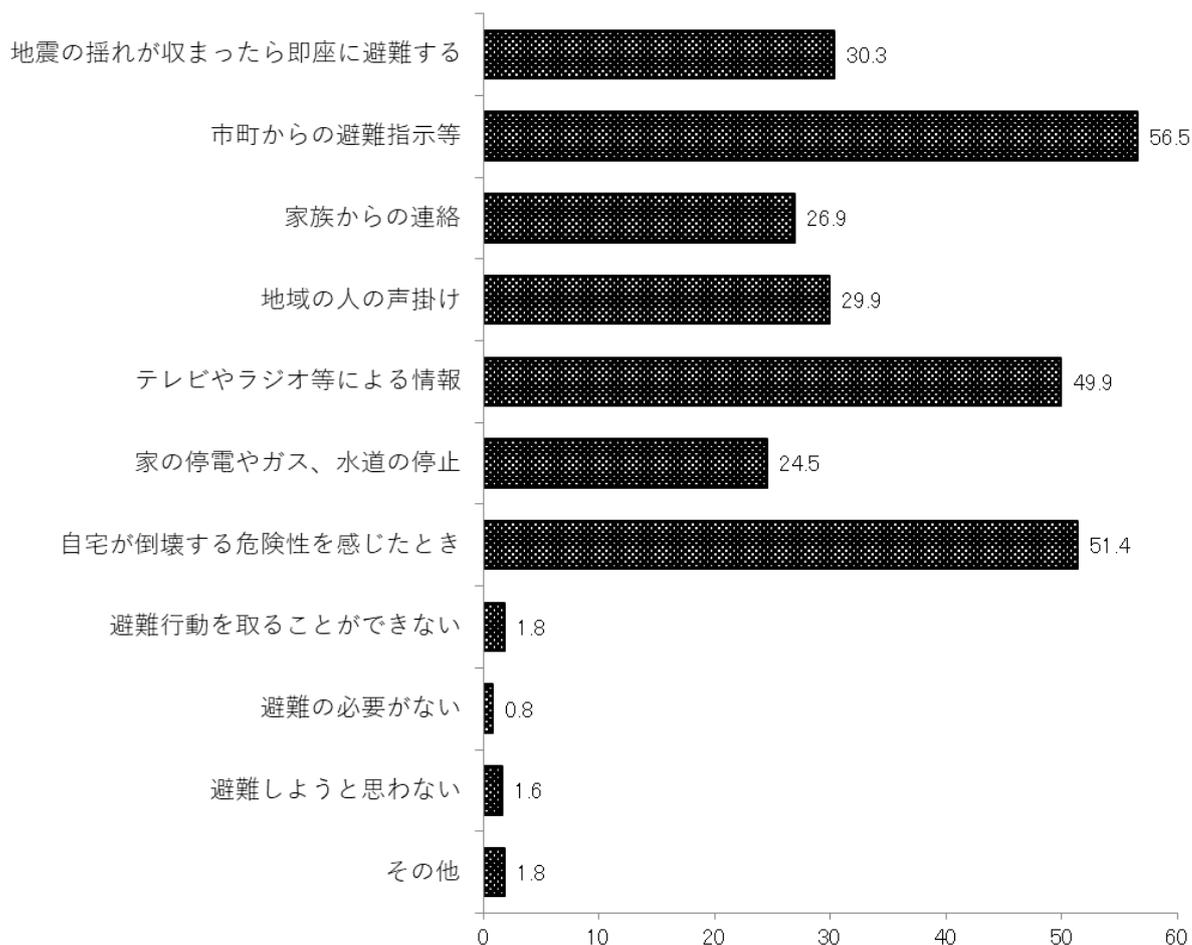
【問 4-1】 大きな地震が発生した場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。
(いくつでも○)

1. 地震の揺れが収まったら即座に避難する	
2. 市町からの避難指示等	
3. 家族からの連絡	
4. 地域の人の声掛け	
5. テレビやラジオ等による情報	
6. 家の停電やガス、水道の停止	
7. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき	
8. 避難行動を取ることができない (理由:)	
9. 避難の必要がない (理由:)	

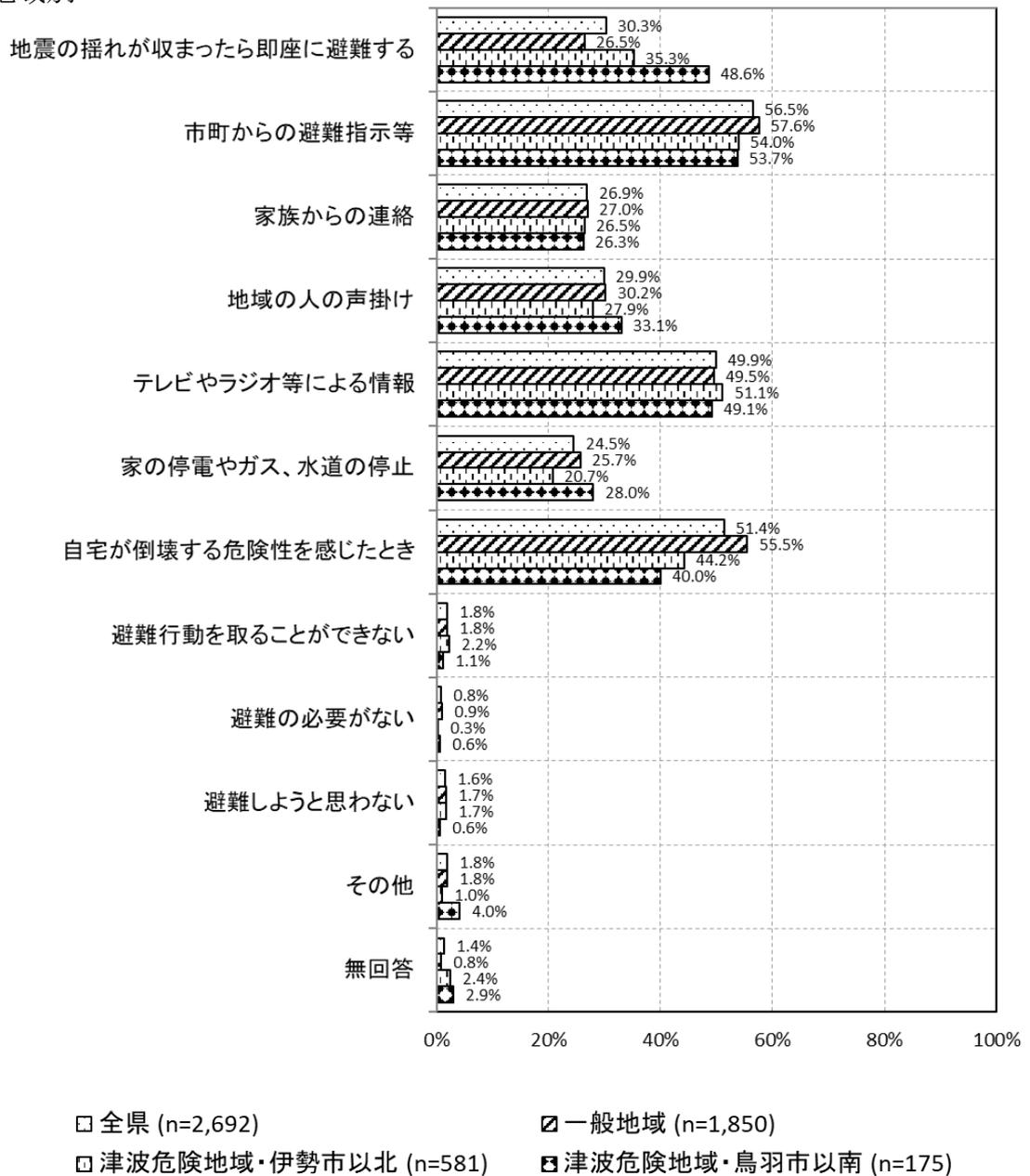
10. 避難しようと思わない	

11. その他 具体的に:	

(1) 集計結果

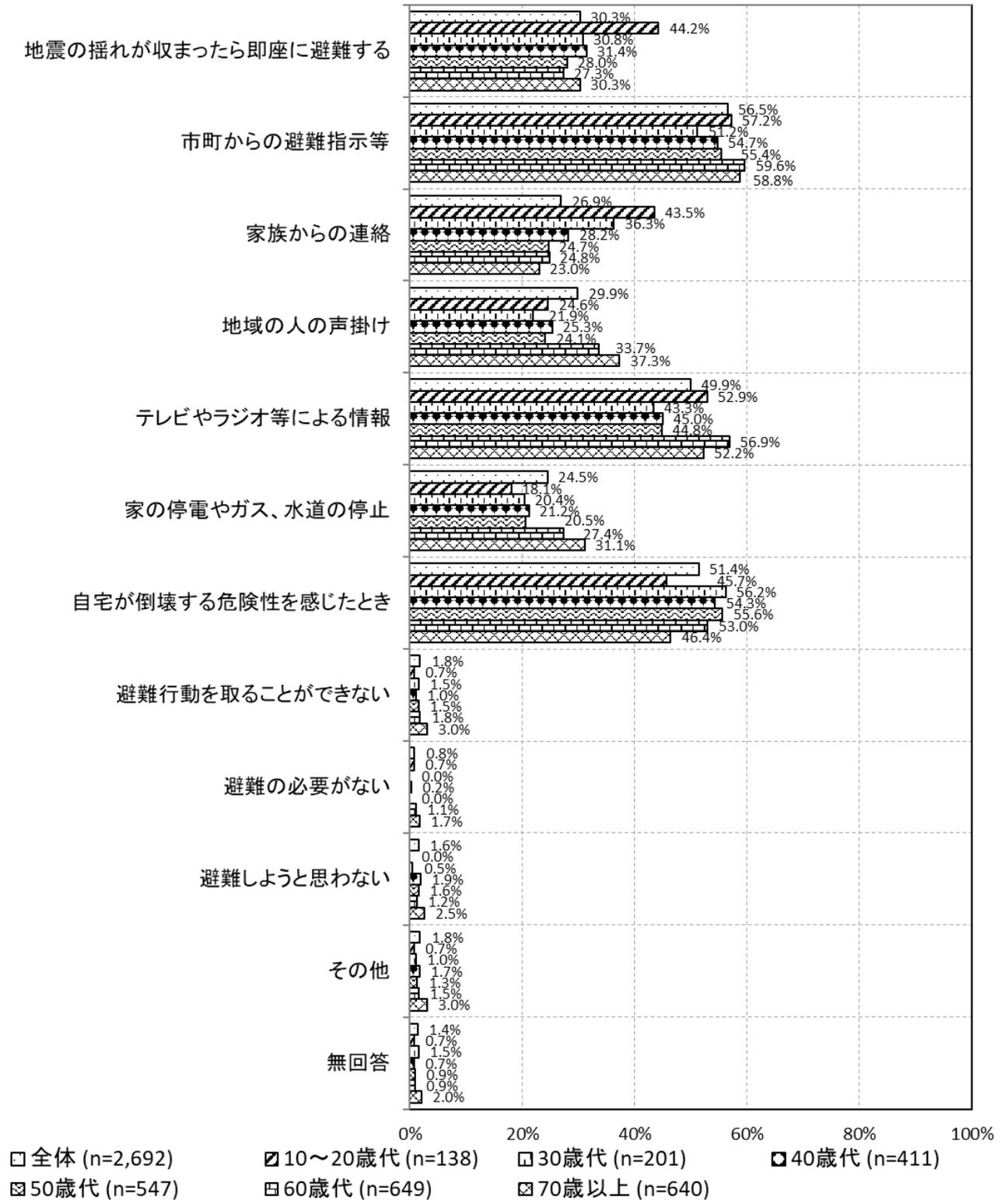


(2) 地域別



- 大地震が発生した際の避難行動のきっかけについて、「市町からの避難指示等」が56.5%と最も高く、次いで「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」が51.4%、「テレビやラジオ等による情報」が49.9%となっています。
- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において「地震の揺れが収まったら即座に避難する」と回答した方の割合（48.6%）が他地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、10～20歳代、30歳代で「家族からの連絡」と回答した方の割合が他年代に比べて高く、60歳代、70歳以上で「地域の人の声かけ」と回答した方の割合が他年代に比べて高くなっています。

【参考】年齢別



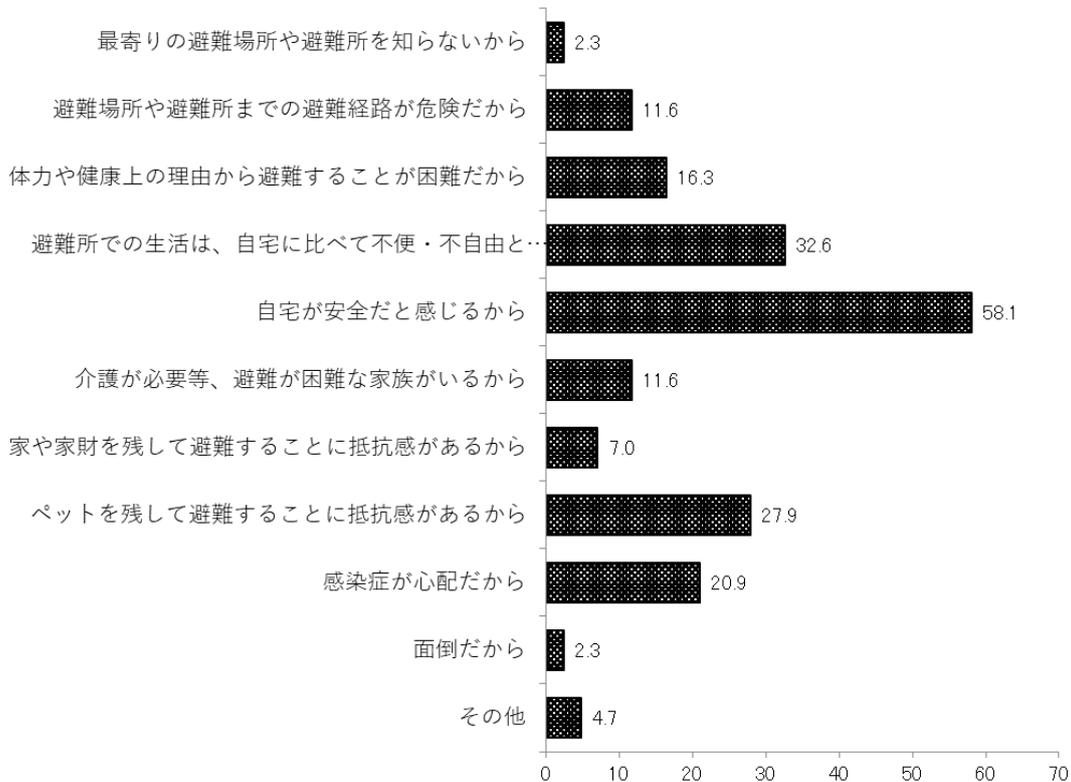
2-5 大地震が発生しても「避難しようと思わない」理由

【問 4-2】 問 4-1 で「10. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由は何ですか。(いくつでも○)

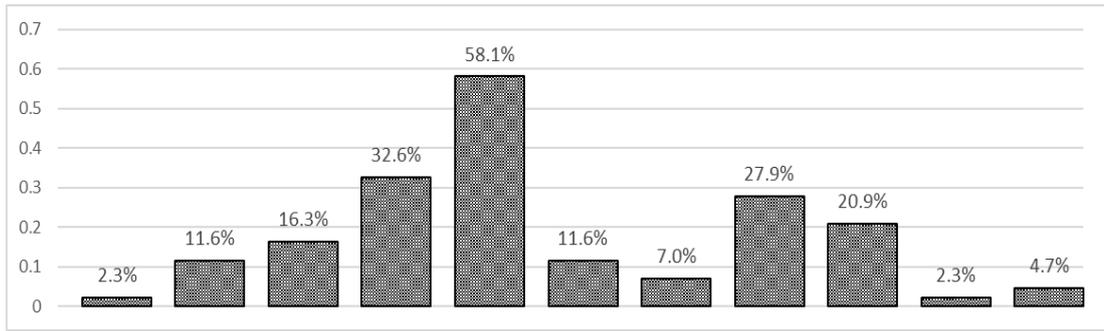
1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 自宅が安全だと感じるから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 感染症が心配だから
10. 面倒だから
11. その他 具体的に：

※ 避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
※ 避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物（避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。）

(1) 集計結果



(3) 要配慮者の有無別



	全体	最寄りの避難場所や避難所を知らないから	避難場所や避難場所までの避難経路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから	自宅が安全だと感じるから	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	ペットを残して避難することに抵抗があるから	感染症が心配だから	面倒だから	その他
全体	n=43	2.3%	11.6%	16.3%	32.6%	58.1%	11.6%	7.0%	27.9%	20.9%	2.3%	4.7%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=28	3.6%	3.6%	7.1%	42.9%	53.6%	3.6%	3.6%	25.0%	21.4%	0.0%	3.6%
要配慮者が同居家族にいる	n=14	0.0%	28.6%	35.7%	28.6%	64.3%	28.6%	14.3%	35.7%	21.4%	7.1%	7.1%

- 大地震が発生しても避難しない理由について、「自宅が安全だと感じる」が58.1%と最も多く、次いで「避難所での生活が自宅に比べて不便・不自由と感じる」が32.6%、「ペットを残して避難することに抵抗がある」が27.9%となっています。
- 同居家族中に要配慮者がいる方の場合においても、「自宅が安全だと感じる」(64.3%)、「避難所での生活が自宅に比べて不便・不自由と感じる」(28.6%)、「ペットを残して避難することに抵抗がある」(35.7%)が回答の多い項目となっていますが、これらに加えて、「体力や健康上の理由から避難することが困難」(35.7%)や「避難場所や避難場所までの避難経路が危険」(28.6%)、「介護が必要等、避難が困難な家族がいる」(28.6%)の項目の回答が同居家族に要配慮者がいない方と比べて高くなっています。

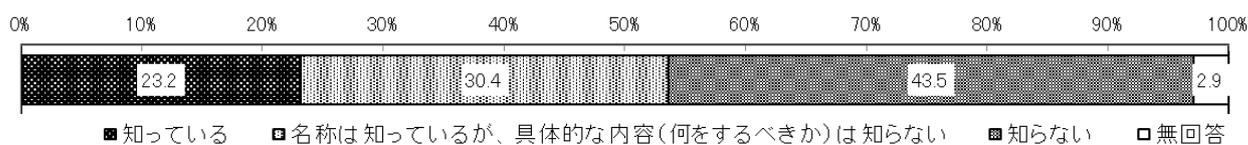
2-6 南海トラフ臨時情報の認知度

【問5】 南海トラフ地震臨時情報について、地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することとなっていますが、このことを知っていますか。(一つだけ○)

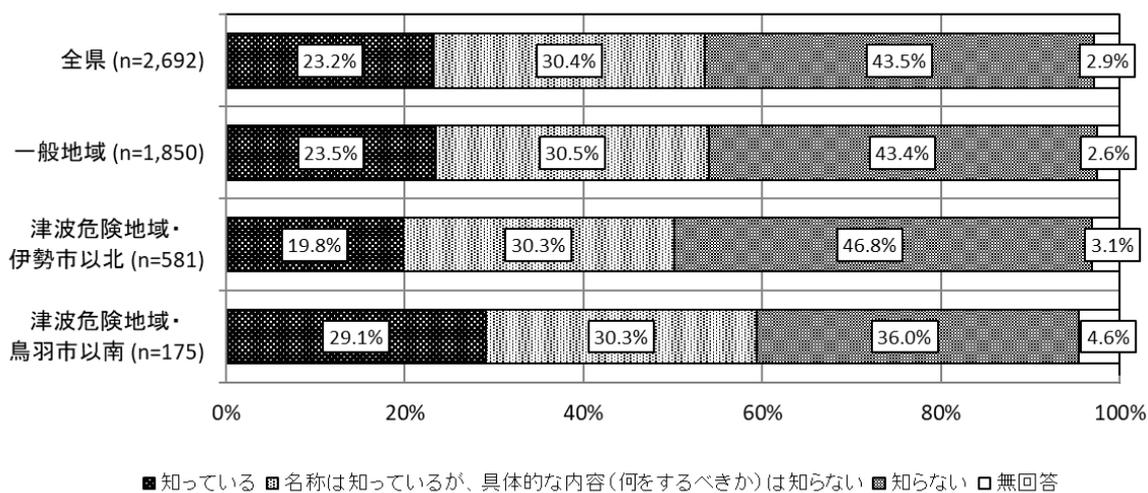
1. 知っている
2. 名称は知っているが、具体的な内容(何をすべきか)は知らない
3. 知らない

※ 「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするものです。

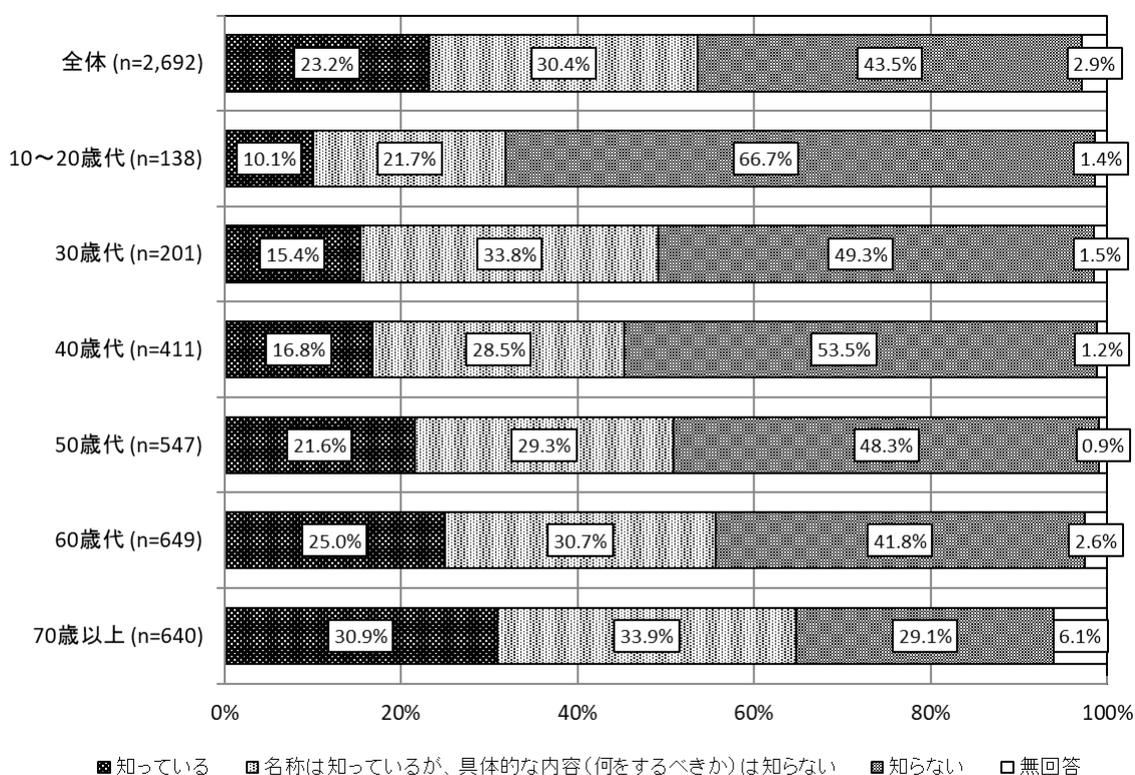
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



- 南海トラフ臨時情報の認知度について、「知っている」と回答した方は23.2%、「名称は知っているが具体的な内容（何をすべきか）は知らない」は30.4%、「知らない」は43.5%でした。
- 地域別に見ると、「知らない」と回答した方は伊勢市以北の津波危険地域で46.8%、鳥羽市以南の津波危険地域で36.0%と10ポイント以上の差となっています。
- 年齢別に見ると、年代が上がるにつれて「知っている」と回答した方の割合が高くなっています。10～20歳代の3分の2が「知らない」と回答（66.7%）しています。

3 風水害対策について

3-1 自宅付近における風水害の危険性の認知度

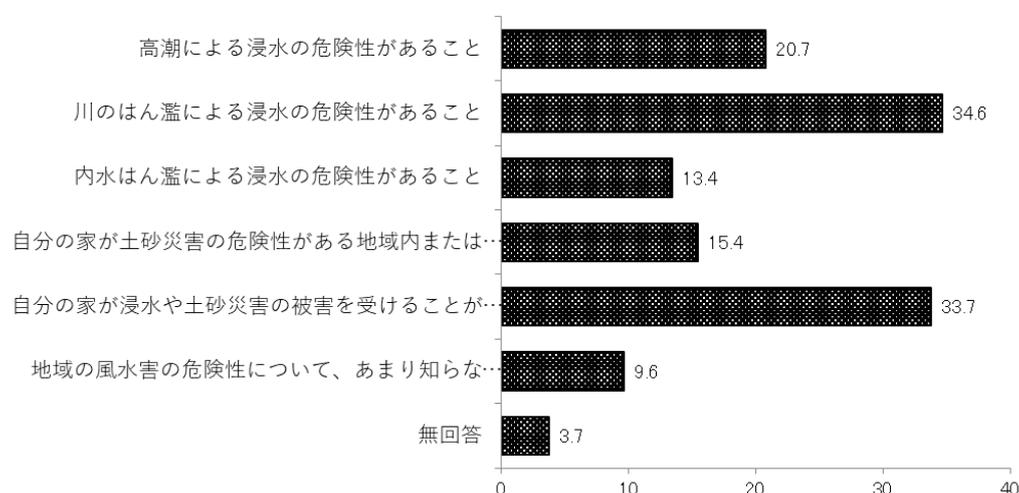
【問6】 あなたのお住いの周辺における風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度把握されていますか。（いくつでも○）

1. 高潮による浸水の危険性があること
2. 川のはん濫による浸水の危険性があること
3. 内水はん濫による浸水の危険性があること
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあること
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

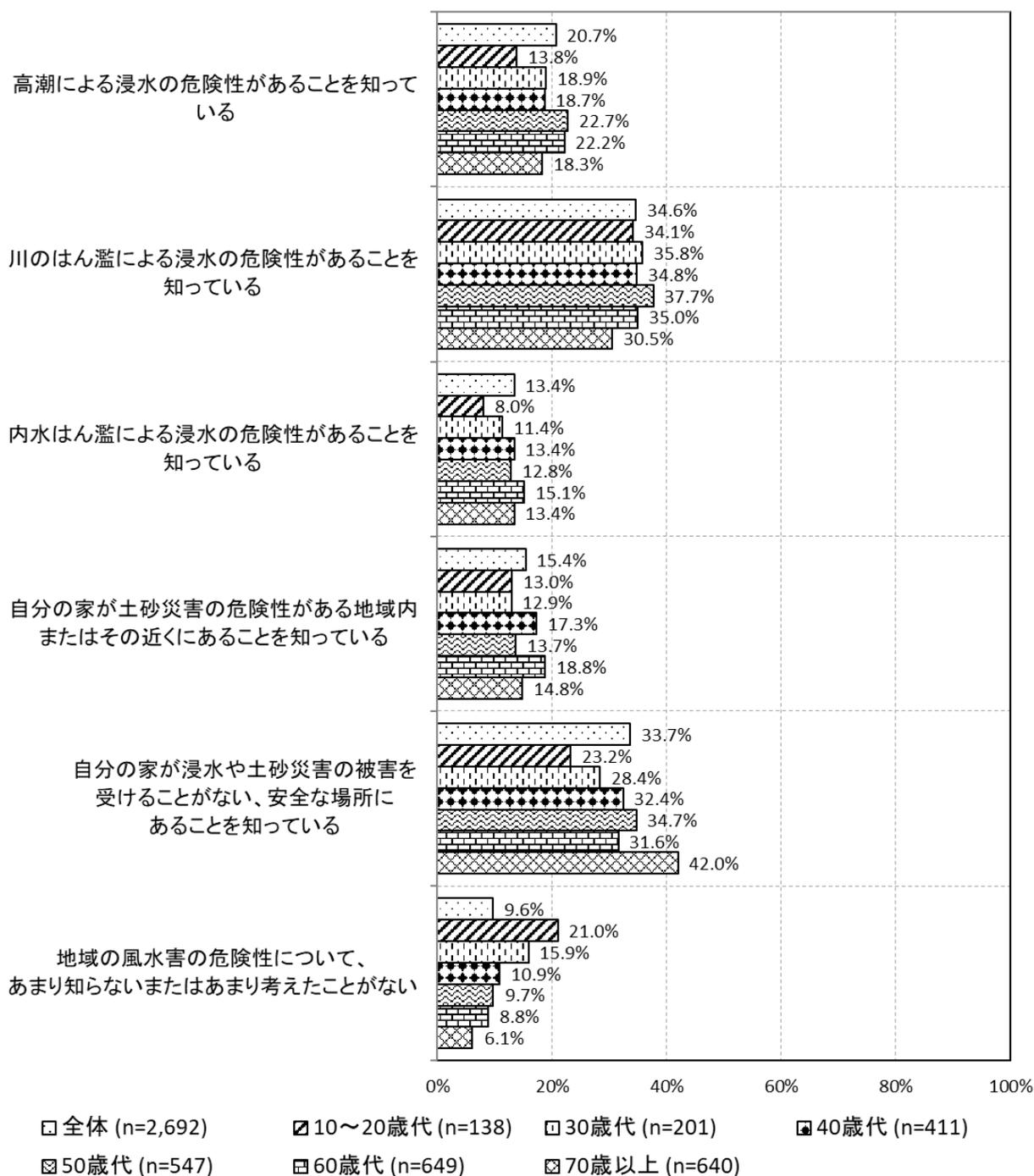
※ 内水はん濫：

局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

(1) 集計結果



(2) 年齢別



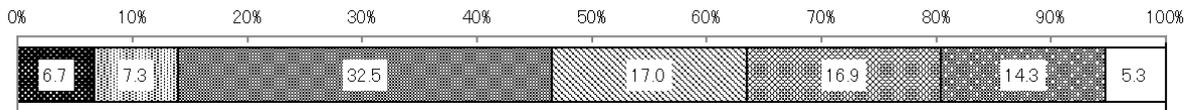
- 自宅付近の風水害の危険性の認知度について、「川のはん濫による浸水の危険性」が34.6%と最も回答が多く、次いで「高潮による浸水の危険性」が20.7%となっています。また、「風水害の危険性についてあまり知らない」が9.6%と約1割となっています。
- 年齢別に見ると、年代が低くなるにつれて「風水害の危険性についてあまり知らない」と回答した方の割合が高くなっています。

3-2 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり

【問7】 平成23年の紀伊半島大水害の発生から10年あまりが経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

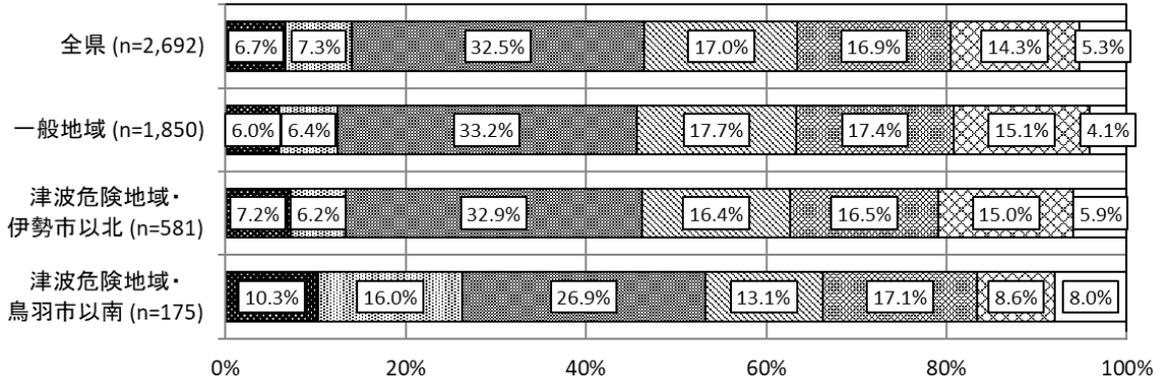
1. 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
2. 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらずもち続けている(またはさらに高まった)
3. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
6. 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった

(1) 集計結果



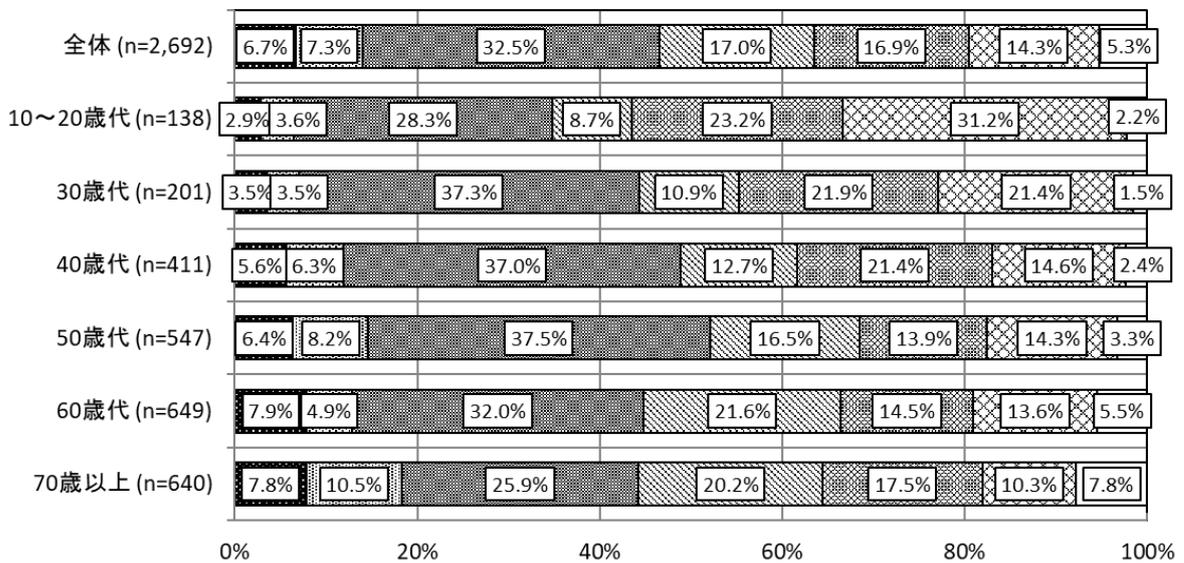
- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらずもち続けている(またはさらに高まった)
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(2) 地域別



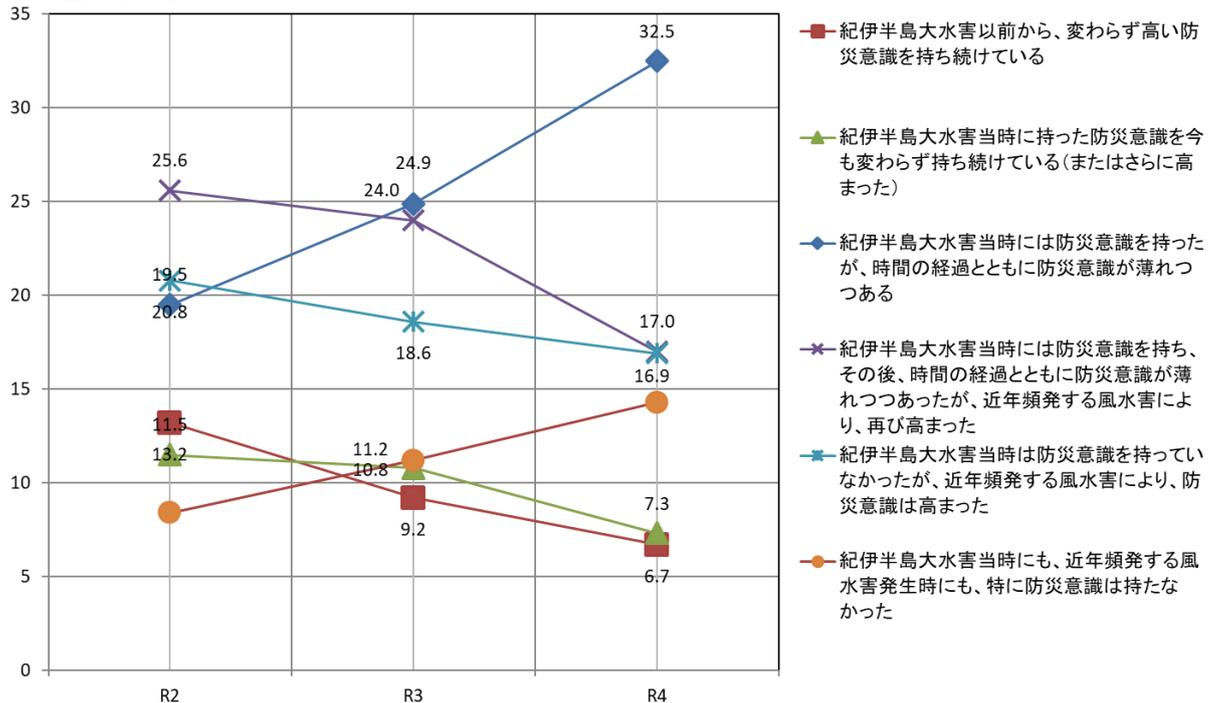
- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- ▣ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- ▧ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- ▦ 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(3) 年齢別



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- ▣ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- ▧ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- ▦ 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(4) 経年変化



- 「紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている」、「防災意識は薄れつつあったが、近年頻発する風水害により再び高まった」、「近年頻発する風水害により高まった」と回答した方はあわせて 47.9%となっている一方で、紀伊半島大水害当時の防災意識が「時間の経過とともに薄れつつある」と回答した方は 32.5%、「特に防災意識は持たなかった」と回答した方は 14.3%となっています。

また、経年変化を見ると、「時間の経過とともに移れつつある」と答えた方の割合は令和2年度以降の3年間で増加傾向にあるとともに、「高い防災意識・危機意識を持ち続けている」、「最近再び高まった」と答えた方の割合は令和2年度以降減少傾向にあります。

- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域における「紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている」と回答した方はあわせて 26.3%と、他地域よりも高い数値となっています。
- 年齢別に見ると、年代が上がるにつれて、「紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」、「紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている」と回答した方の割合が増加傾向にあるとともに、「特に防災意識は持たなかった」と回答した方の割合は減少傾向にあります。また、「時間の経過とともに薄れつつある」と回答した方の割合は 50 歳代で最も高く (37.5%)、70 歳以上が最も低く (25.9%) となっていますが、70 歳以上の方でも約 4 分の 1 (25.9%) が時間の経過とともに防災意識が薄れつつあると回答しています。

3-3 避難情報（警戒レベル）の認知度

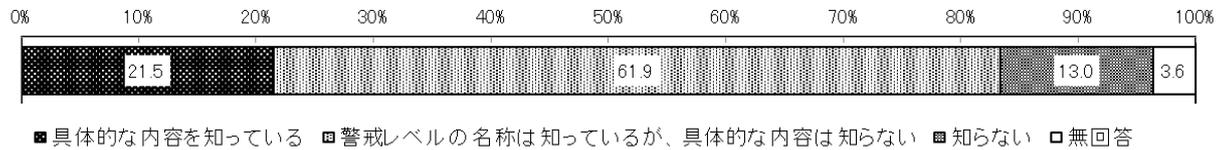
【問8】 市町が発令する避難情報に5段階の警戒レベルを用いて伝達することになっていますが、この警戒レベルを知っていますか。（一つだけ○）

1. 具体的な内容を知っている
2. 警戒レベルの名称は知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

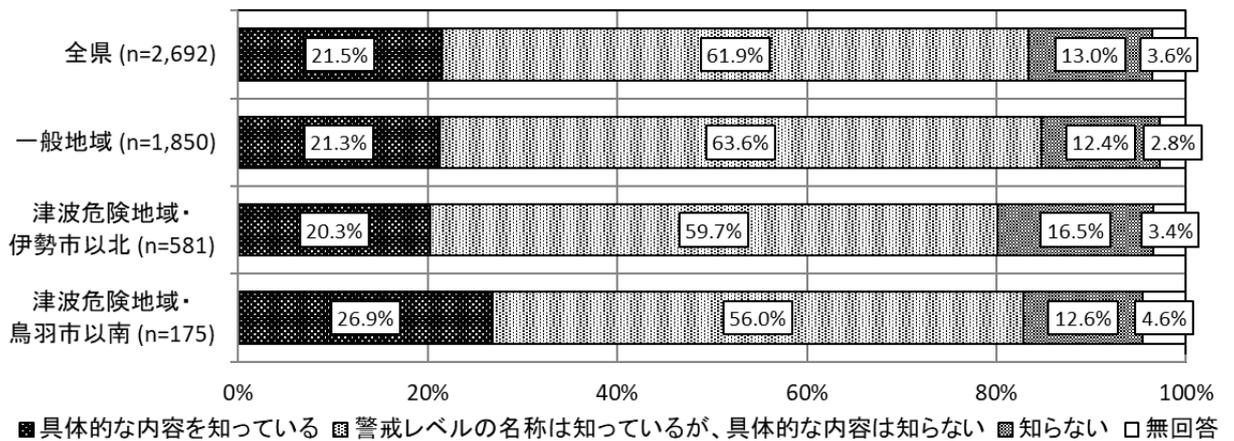
※ 警戒レベル：

災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「難」を「避」けるため「自らの命は自らが守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。

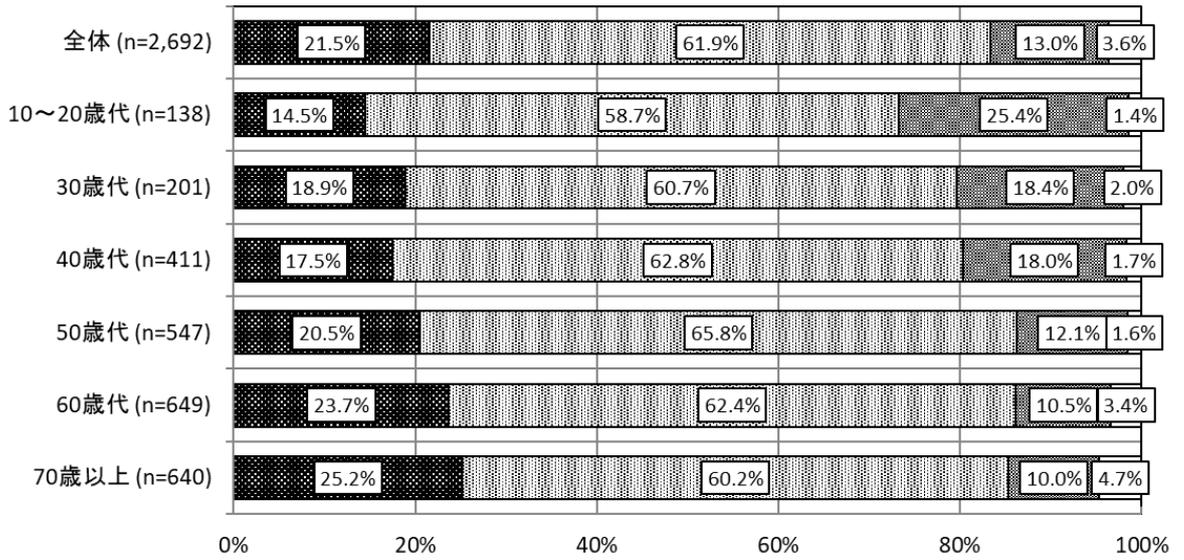
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



■ 具体的な内容を知っている ■ 警戒レベルの名称は知っているが、具体的な内容は知らない ■ 知らない □ 無回答

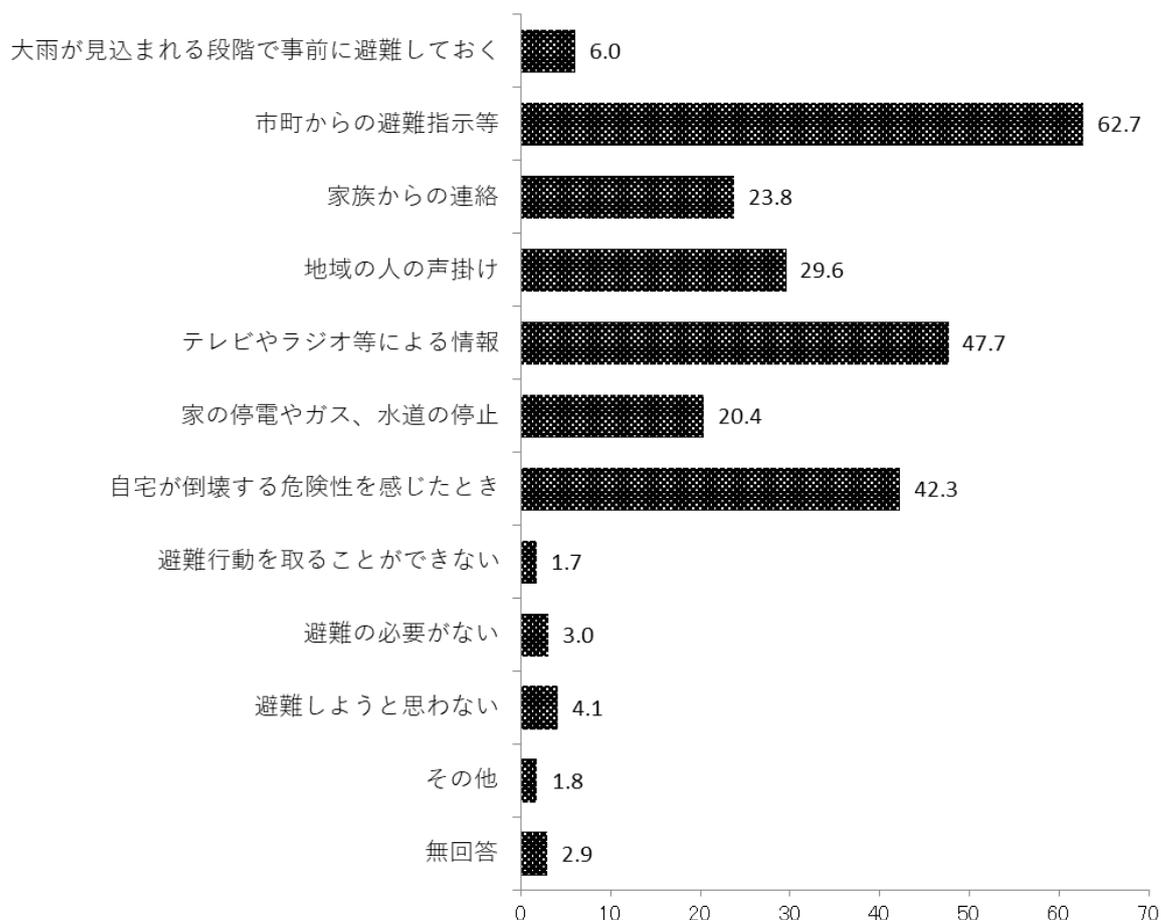
- 市町が発令する避難情報（警戒レベル）について、「具体的な内容を知っている」と回答した方は21.5%、「名称は知っているが、具体的な内容は知らない」、「知らない」と回答した方はあわせて74.9%となっています。
- 年齢別に見ると、年代が上がるにつれて、「具体的な内容を知っている」と回答した方の割合が高くなるとともに、「知らない」と回答した方の割合が低くなっています。

3-4 風水害に対する避難行動のきっかけ

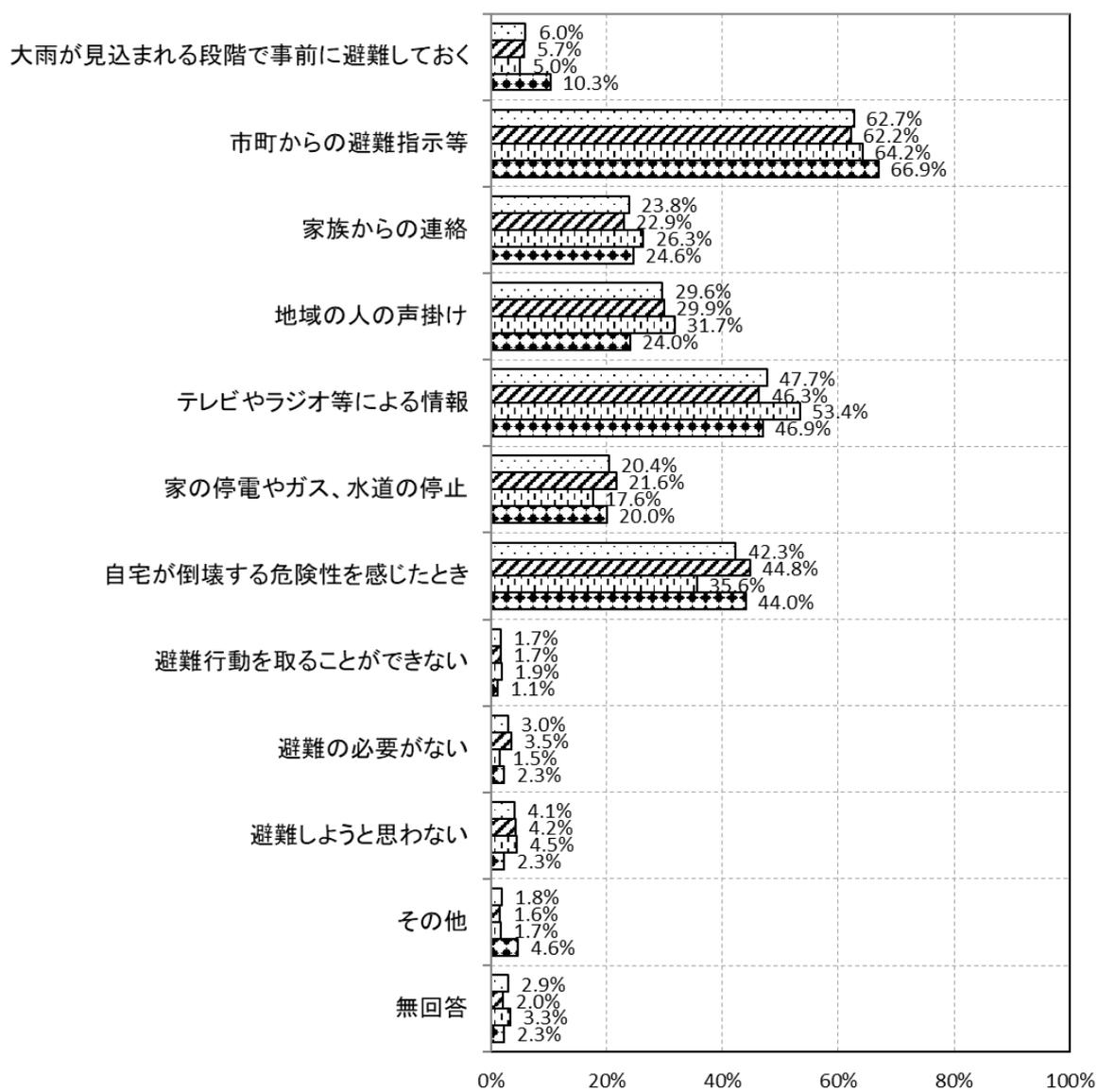
【問 9-1】 被害の発生が予測されるような大雨が降っている場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。(いくつでも○)

1. 大雨が見込まれる段階で事前に避難しておく
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 家の停電やガス、水道の停止
7. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
8. 避難行動を取ることができない(理由:)
9. 避難の必要がない(理由:)
10. 避難しようと思わない
11. その他 具体的に:

(1) 集計結果



(2) 地域別



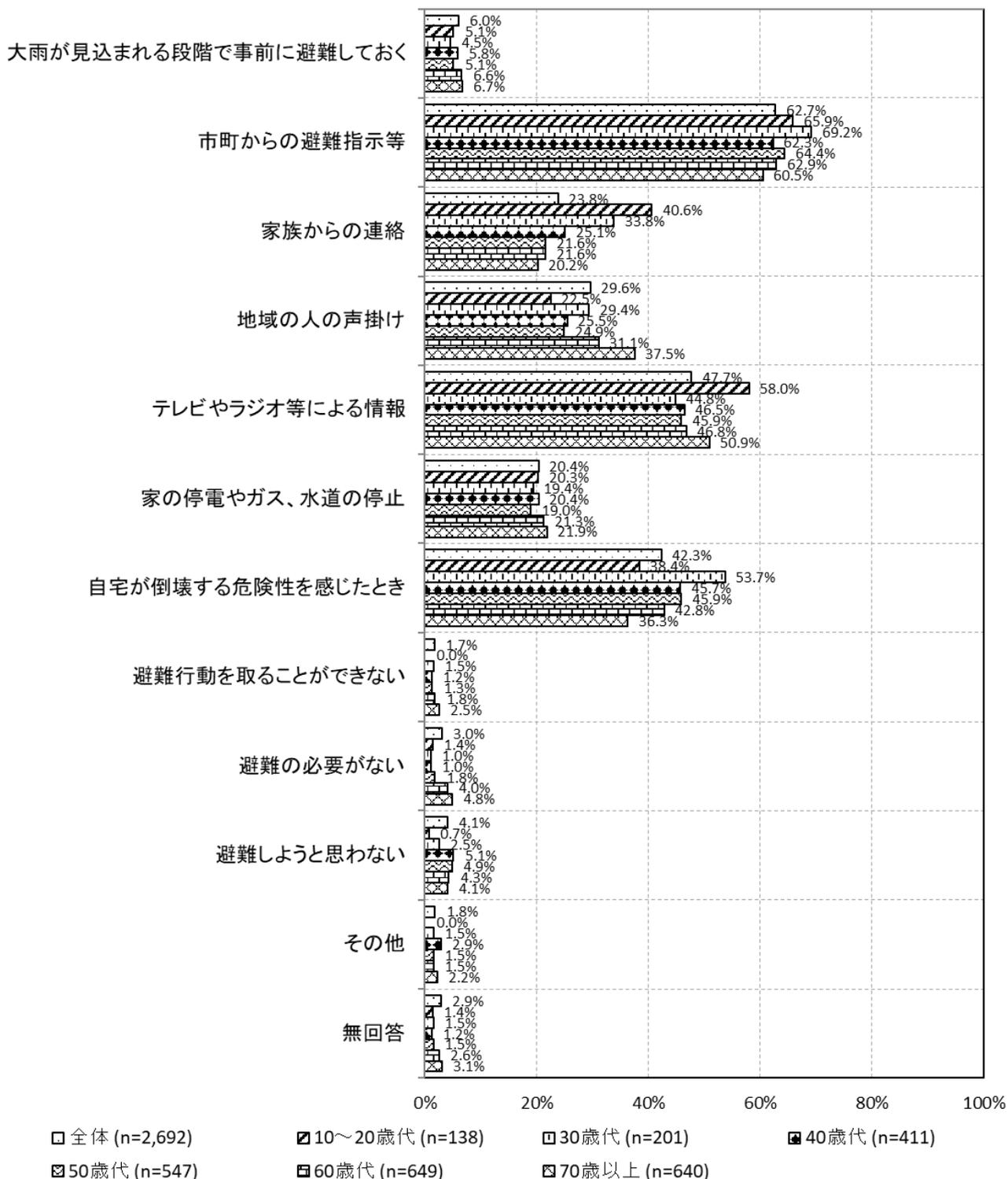
□ 全県 (n=2,692)

▨ 一般地域 (n=1,850)

▤ 津波危険地域・伊勢市以北 (n=581)

● 津波危険地域・鳥羽市以南 (n=175)

(3) 年齢別



- 風水害が発生した際の避難行動のきっかけについて、「市町からの避難指示等」が62.7%と最も高く、次いで「テレビやラジオ等による情報」(47.7%)、「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」(42.3%)が高くなっています。
- 地域別には各地域に大きな差はありません。年齢別に見ると、10~20歳代、30歳代で「家族からの連絡」と回答した方の割合が他年代に比べて高く、70歳以上で「地域の人声掛け」が他年代に比べて高くなっています。

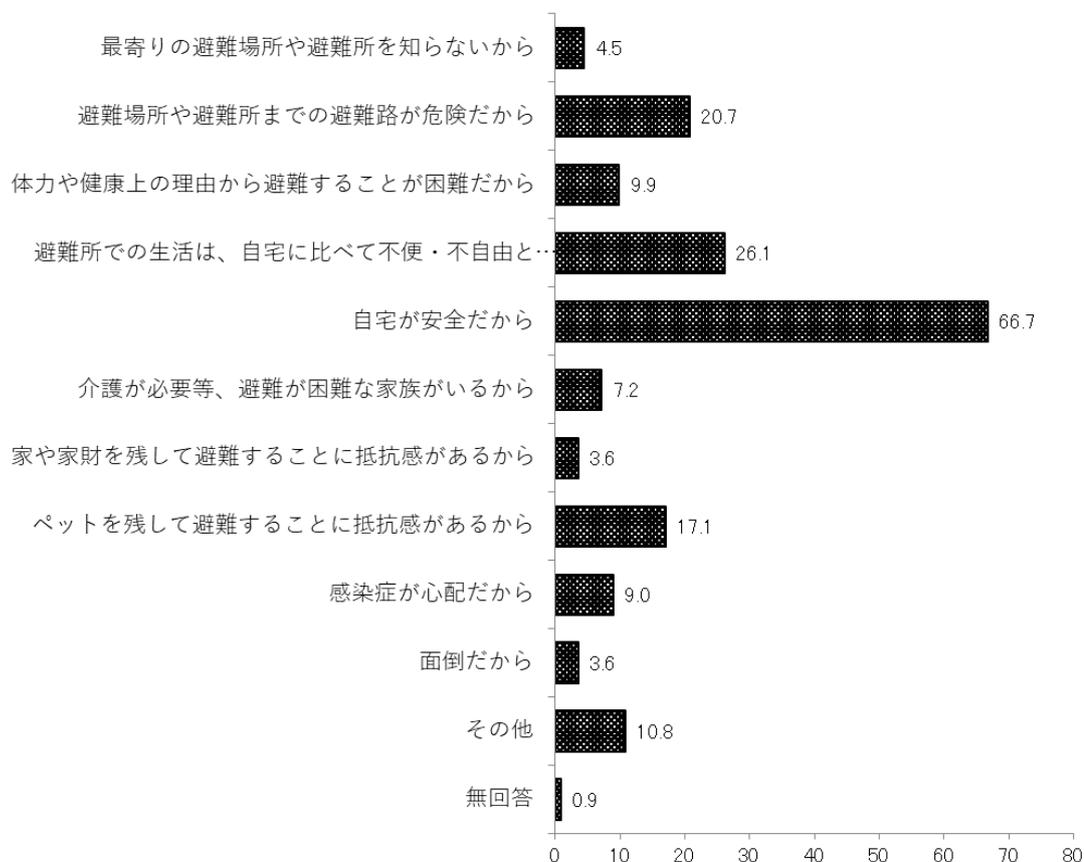
3-5 被害の発生が予測されるような大雨でも「避難しようと思わない」理由

【問 9-2】 問 9-1 で「10. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由は何ですか。(いくつでも○)

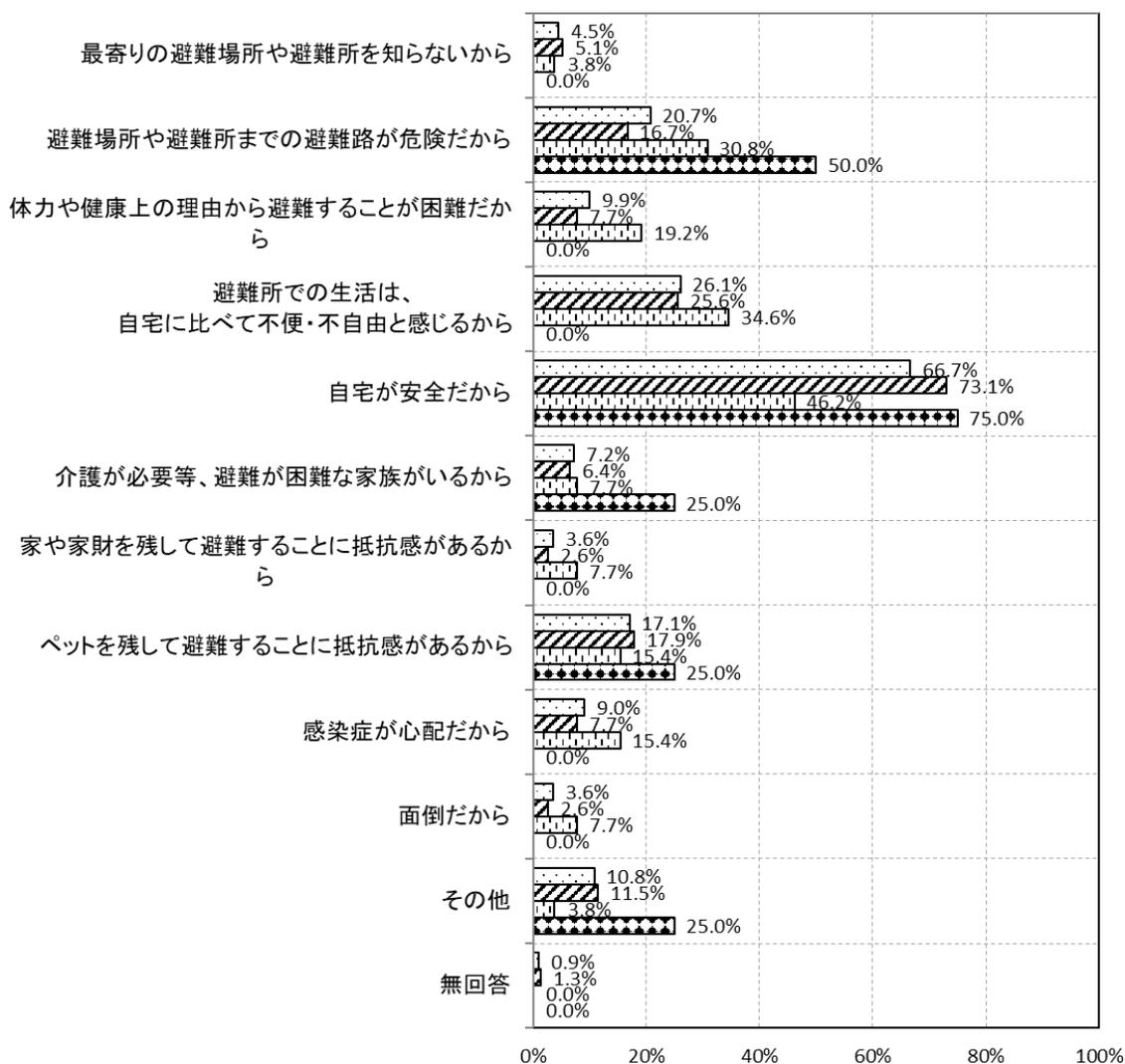
1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 自宅が安全だから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 感染症が心配だから
10. 面倒だから
11. その他 具体的に：

※ 避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
 ※ 避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

(1) 集計結果

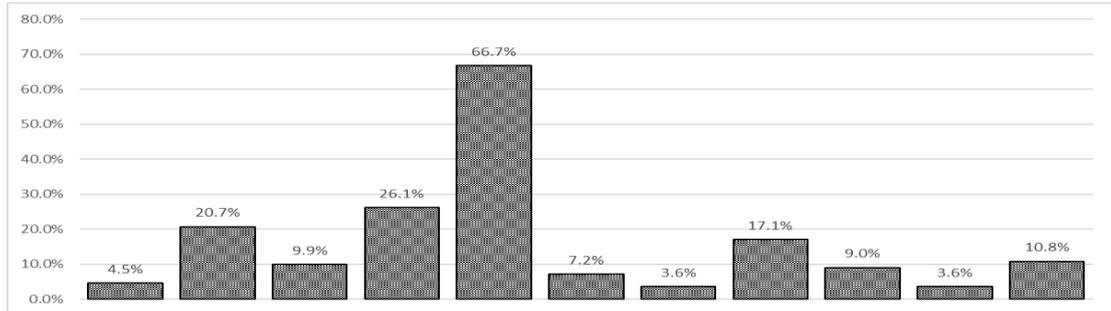


(2) 地域別



□全県 (n=111) ▨一般地域 (n=78) ▩津波危険地域・伊勢市以北 (n=26) ●津波危険地域・鳥羽市以南 (n=4)

(3) 要配慮者の有無別



	全体	最寄りの避難場所や避難所を知らないから	避難場所や避難所までの避難経路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから	自宅が安全だと感じるから	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	ペットを残して避難することに抵抗があるから	感染症が心配だから	面倒だから	その他
全体	n=111	4.5%	20.7%	9.9%	26.1%	66.7%	7.2%	3.6%	17.1%	9.0%	3.6%	10.8%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=62	6.5%	21.0%	6.5%	27.4%	67.7%	1.6%	0.0%	17.7%	8.1%	1.6%	11.3%
要配慮者が同居家族の中にいる	n=46	2.2%	21.7%	15.2%	26.1%	65.2%	15.2%	8.7%	17.4%	10.9%	6.5%	8.7%

- 被害の発生が予測されるような大雨でも「避難しようと思わない」理由について、「自宅が安全だと感じる」が最も高く（66.7%）、次いで「避難所での生活が自宅に比べて不便・不自由と感じる」（26.1%）、「避難場所や避難所までの避難経路が危険」（20.7%）が高くなっています。
- 同居家族中に要配慮者がいる方の場合においても、「自宅が安全だと感じる」（65.2%）、「避難所での生活が自宅に比べて不便・不自由と感じる」（26.1%）、「避難場所や避難所までの避難経路が危険」（21.7%）が回答の多い項目となっていますが、これらに加えて、「体力や健康上の理由から避難することが困難」（15.2%）や「介護が必要等、避難が困難な家族がいる」（15.2%）、「家や家財を残して避難することに抵抗がある」（8.7%）の項目の回答割合が同居家族に要配慮者がいない方と比べて高くなっています。

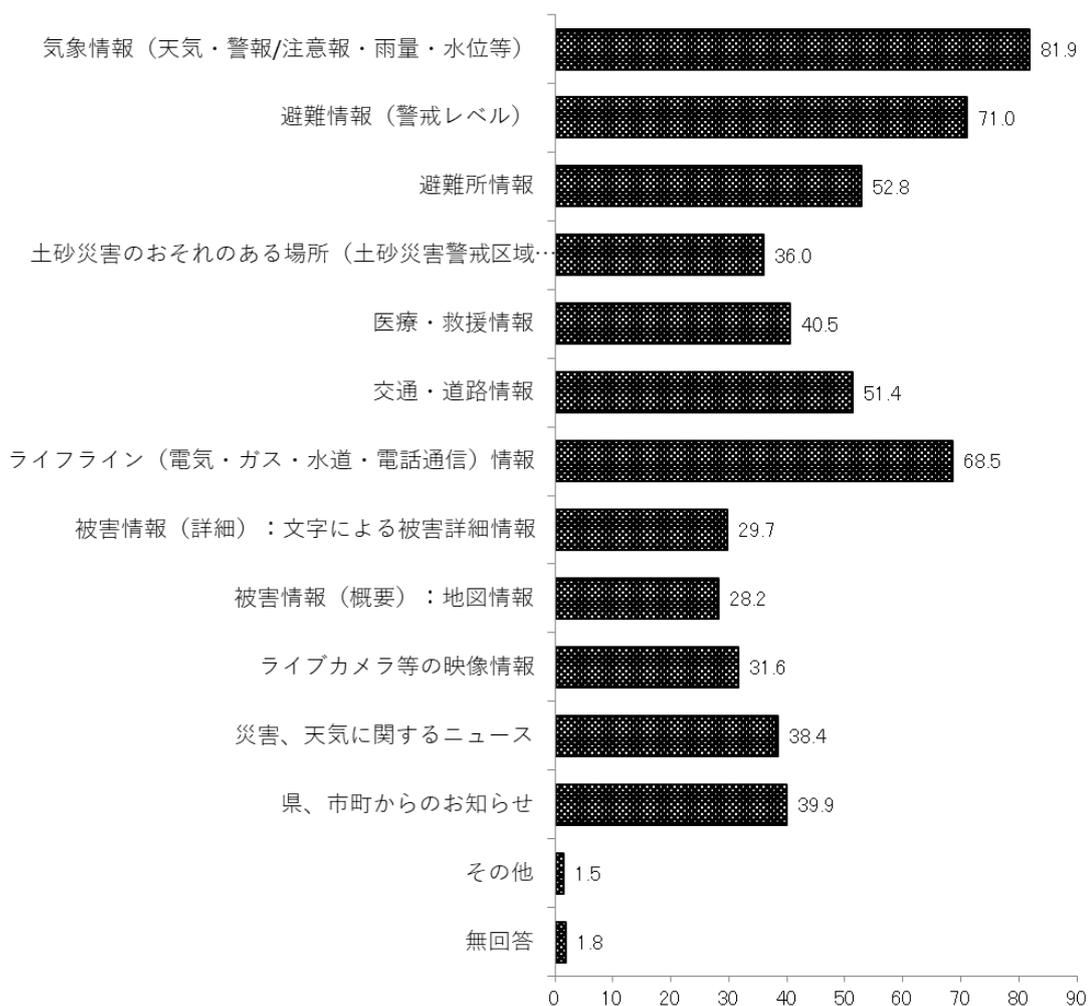
4 災害時の情報収集について

4-1 災害時に知りたい情報

【問10】 災害時にどのような情報をお知りになりたいですか。(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（警戒レベル）
3. 避難所情報
4. 土砂災害のおそれのある場所（土砂災害警戒区域等）
5. 医療・救援情報
6. 交通・道路情報
7. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
8. 被害情報（詳細）：文字による被害詳細情報
9. 被害情報（概要）：地図情報
10. ライブカメラ等の映像情報
11. 災害、天気に関するニュース
12. 県、市町からのお知らせ
13. その他 具体的に

(1) 短銃集計結果



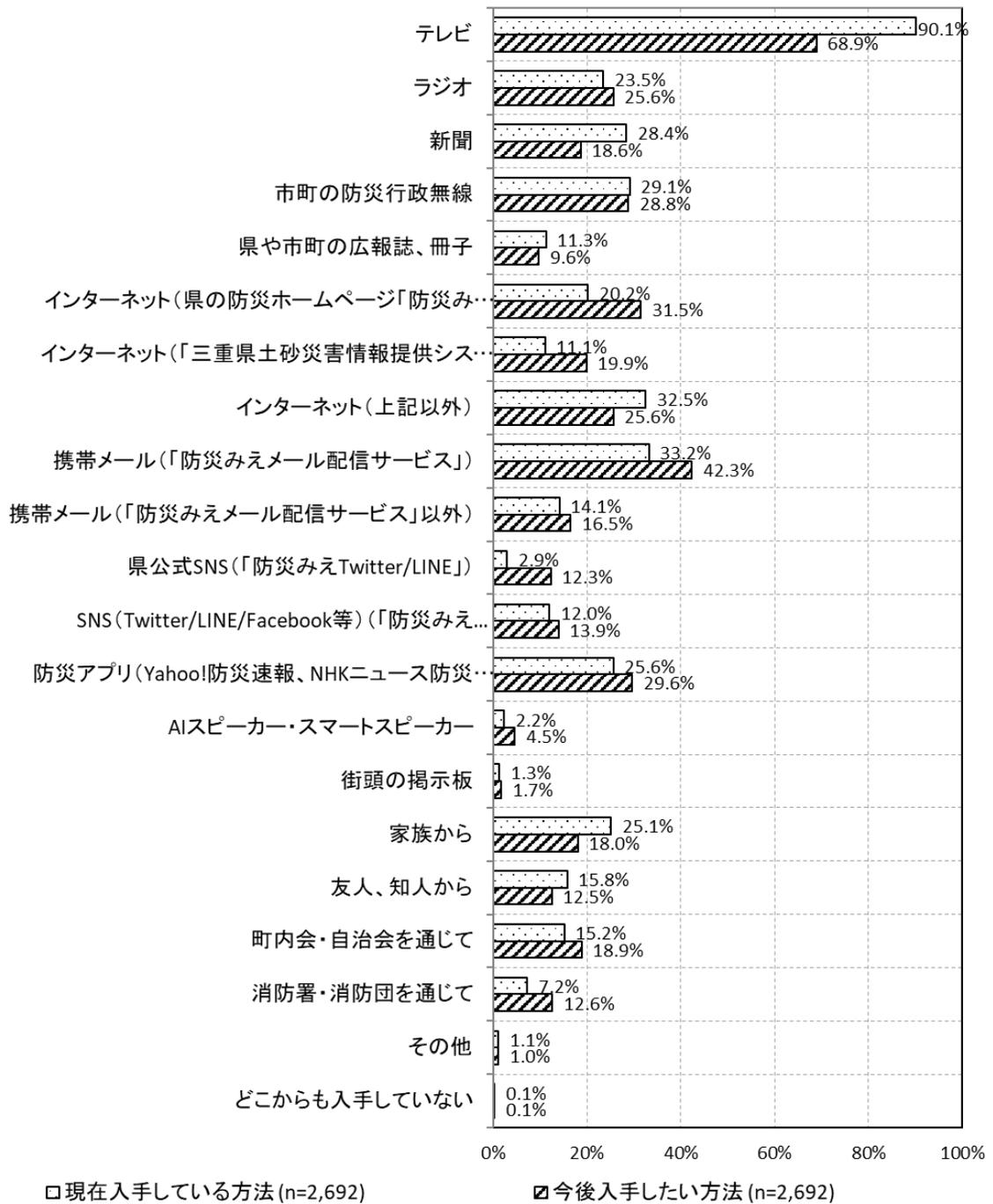
- 災害時に知りたい情報について、「気象情報（天気・警報／注意報・雨量・水位等）」が最も高く（81.9%）、次いで「避難情報（警戒レベル）」（71.0%）、「ライフライン情報（電気・ガス・水道・電話通信）情報」（68.5%）となっています。

4-2 気象・災害情報の入手先

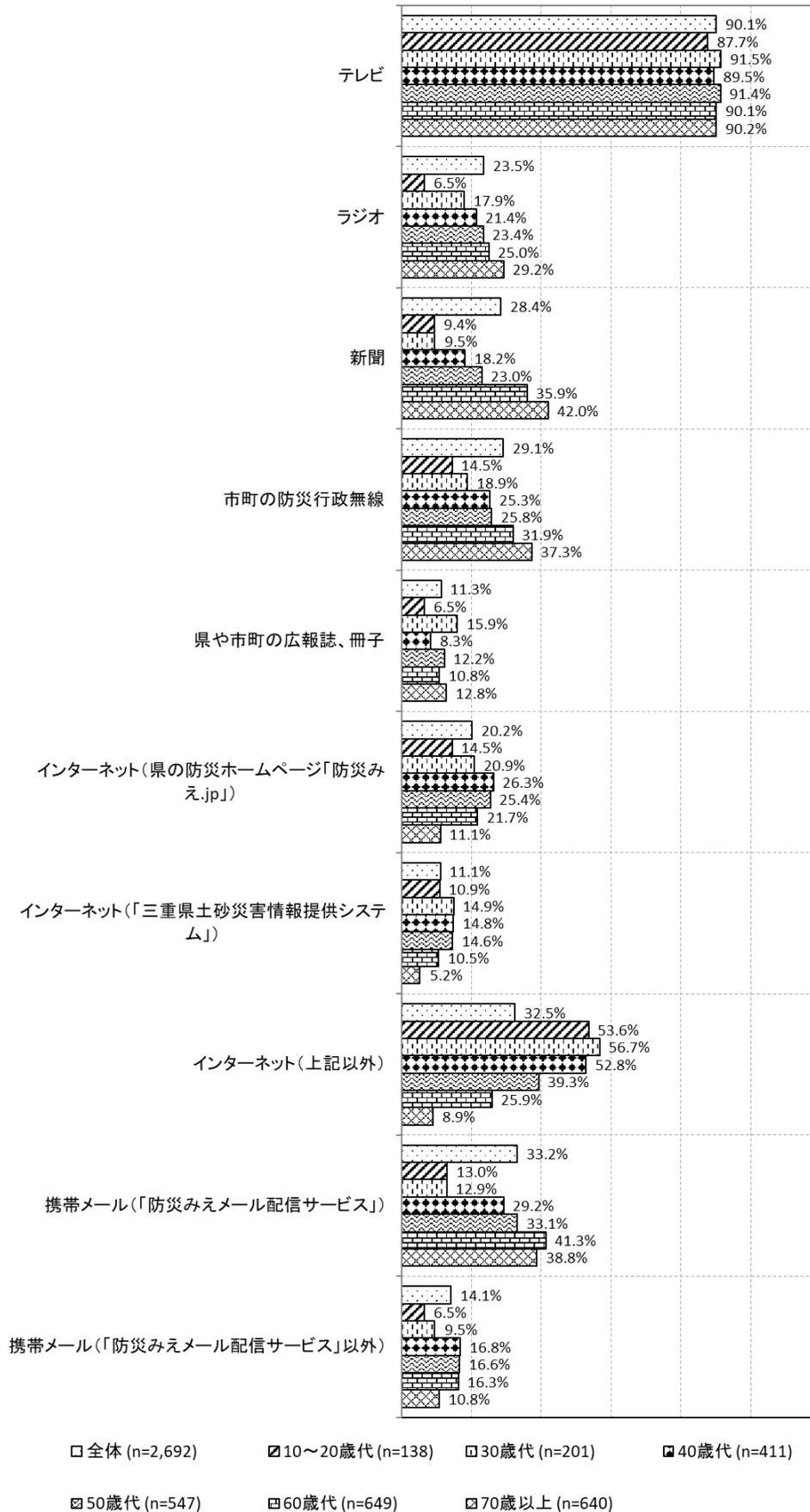
- 【問 11】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。現在どこから入手することが多いかお答えください。（いくつでも○）
- 【問 12】 今後どこから入手したいかお答えください。（いくつでも○）

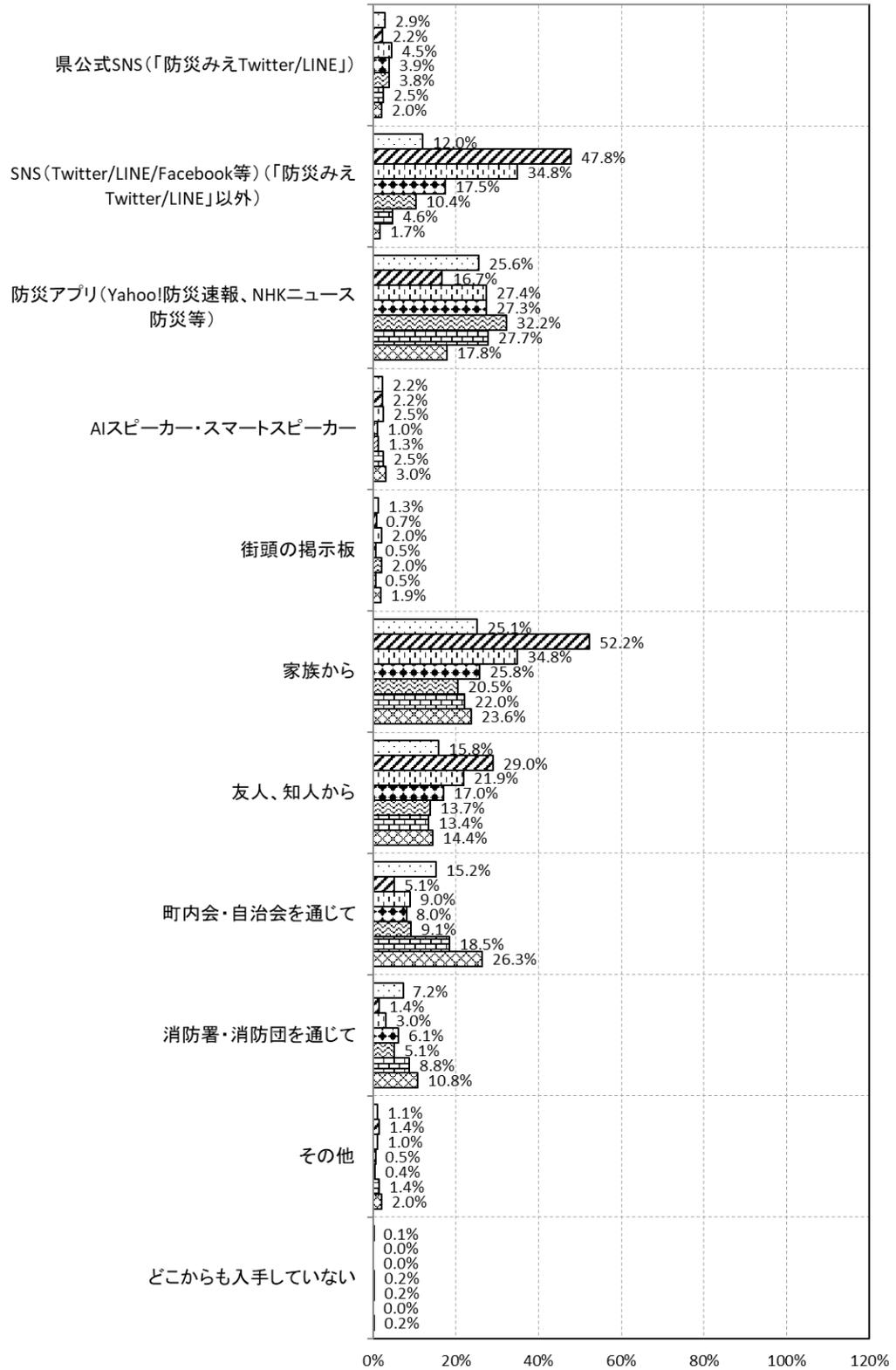
1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 市町の防災行政無線
5. 県や市町の広報誌、冊子
6. インターネット（県の防災ホームページ「防災みえ.jp」）
7. インターネット（「三重県土砂災害情報提供システム」）
8. インターネット（上記以外）
9. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」）
10. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）
11. 県公式 SNS（「防災みえ Twitter/LINE」）
12. SNS（Twitter/LINE/Facebook 等）（「防災みえ Twitter/LINE」以外）
13. 防災アプリ（Yahoo!防災速報、NHK ニュース防災 等）
14. AI スピーカー・スマートスピーカー
15. 街頭の掲示板
16. 家族から
17. 友人、知人から
18. 町内会・自治会を通じて
19. 消防署・消防団を通じて
20. その他（現在、入手している方法）具体的に： （今後、入手したい方法）具体的に：
21. （現在）どこからも入手していない （今後）特に入手したいと思わない

(1) 集計結果



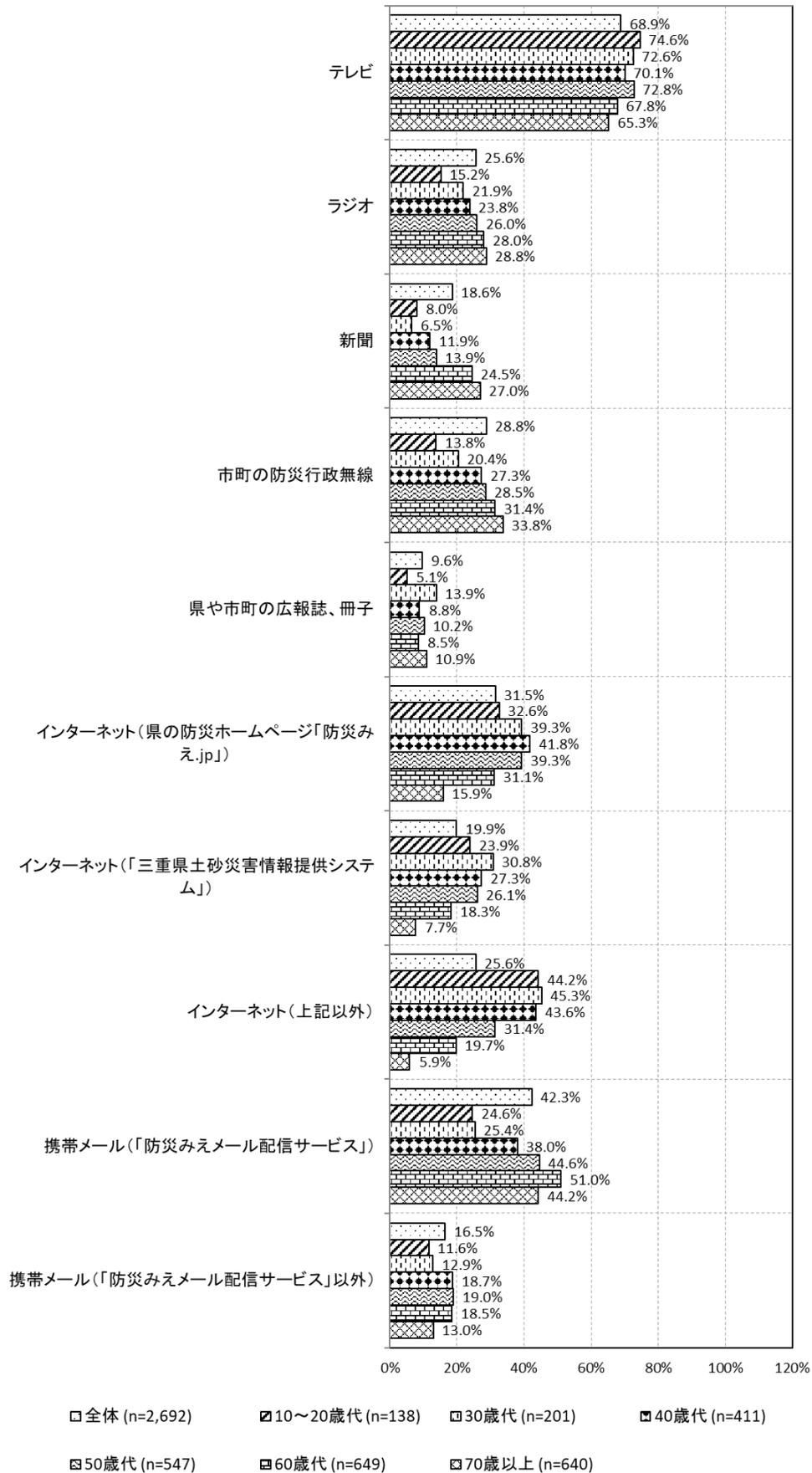
(2) 年齢別 (現在の入手先)

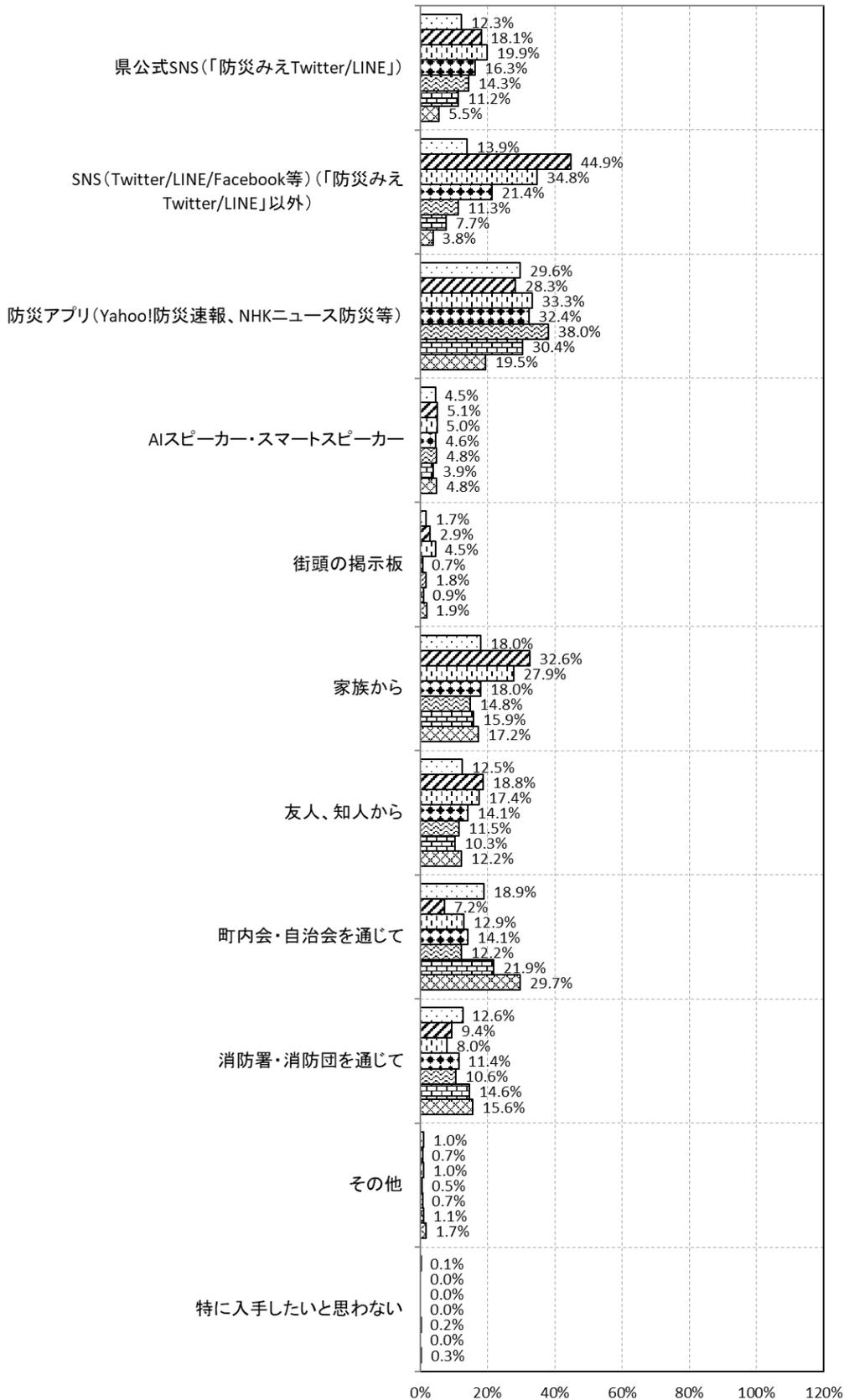




□全体 (n=2,692) ■10~20歳代 (n=138) ▨30歳代 (n=201) ▩40歳代 (n=411)
 ▪50歳代 (n=547) ▫60歳代 (n=649) ▬70歳以上 (n=640)

(3) 年齢別 (今後の入手先)





□ 全体 (n=2,692)

■ 10~20歳代 (n=138)

▨ 30歳代 (n=201)

▩ 40歳代 (n=411)

⊞ 50歳代 (n=547)

▤ 60歳代 (n=649)

▥ 70歳以上 (n=640)

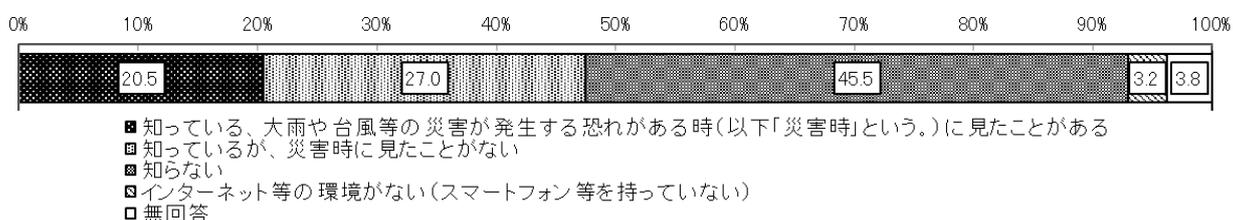
- 気象や災害情報について「現在どこから入手することが多いか」について、「テレビ」が 90.1%と最も高く、次いで「携帯メール（防災みえメール配信サービス）」が 33.2%、「インターネット」（県ホームページ以外）が 32.5%となっています。
- 「今後どこから入手したいか」について、「テレビ」が 68.9%と最も高く、次いで「携帯メール（防災みえメール配信サービス）」が 42.3%、「インターネット」（県の防災ホームページ「防災みえ.jp」）が 31.5%となっています。
- 年齢別に見ると、10～20 歳代の「今後どこから入手したいか」について、「テレビ」が 74.6%と最も高く、次いで SNS（Twitter／LINE／Facebook 等）が 44.9%、「インターネット」（県ホームページ以外）が 44.2%となっています。
70 歳以上の「今後どこから入手したいか」について、「テレビ」が 65.3%と最も高く、次いで、「携帯メール（防災みえメール配信サービス）」が 44.2%、「市町の防災行政無線」が 33.8%となっています。

4-3 県ホームページ「防災みえ.jp」の認知度

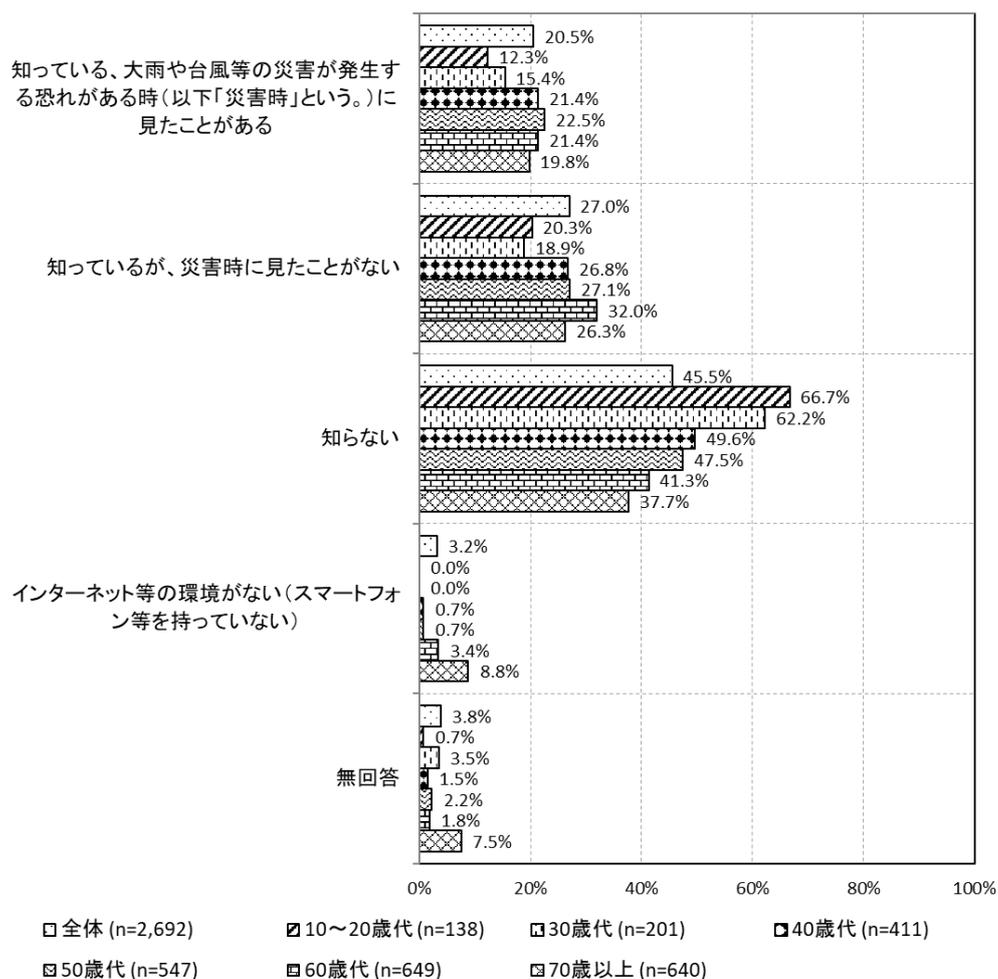
【問 13-1】県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。（一つだけ○）

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない（スマートフォン等を持っていない）

(1) 集計結果



(2) 年齢別



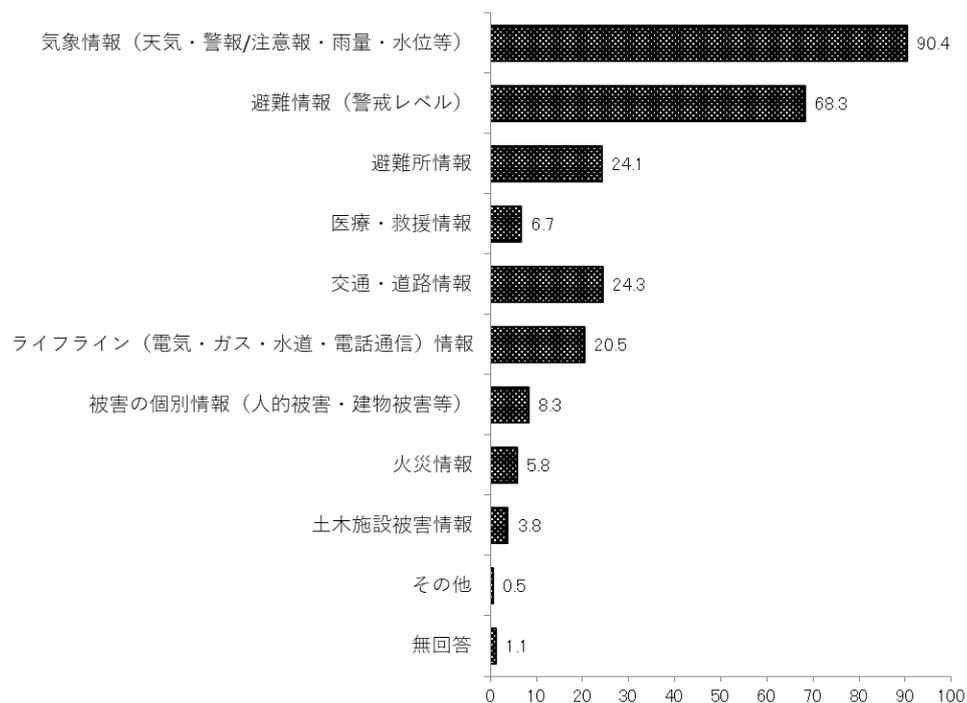
- 県ホームページ「防災みえ.jp」の認知度について、「知らない」と回答した方が45.5%と最も高く、次いで「知っているが、災害時に見たことがない」が27.0%となっています。
- 年齢別に見ると、年代が低くなるにつれて「知らない」と回答した方の割合が高くなっています。

4-4 県ホームページ「防災みえ.jp」で見た情報

【問 13-2】 問 13-1 で、「1. 知っている、災害時に見たことがある」と回答された方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見ましたか。(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（警戒レベル）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害の個別情報（人的被害・建物被害等）
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他 具体的に

(1) 集計結果



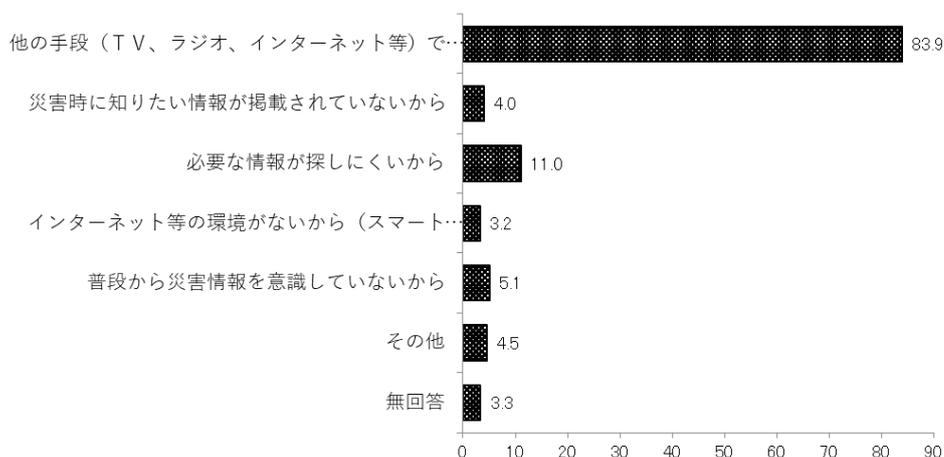
○ 県ホームページ「防災みえ.jp」で見た情報について、「気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）」が最も高く（90.4%）、次いで「避難情報（警戒レベル）」（68.3%）、「交通・道路情報」（24.3%）となっています。

4-5 県ホームページ「防災みえ.jp」を利用しない理由

【問 13-3】 問 13-1 で、「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報が掲載されていないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. インターネット等の環境がないから（スマートフォン等を持っていないから）
5. 普段から災害情報を意識していないから
6. その他 具体的に：

(1) 集計結果



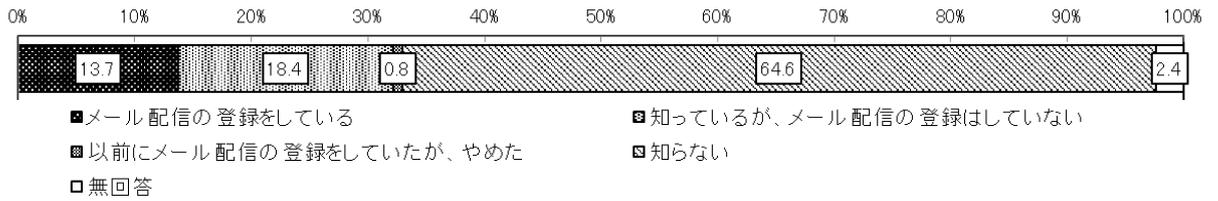
○ 県ホームページ「防災みえ.jp」を利用しない理由について、「他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できる」が83.9%と最も高く、次いで「必要な情報が探しにくい」が11.0%となっています。

4-6 「防災みえメール配信サービス」の認知度

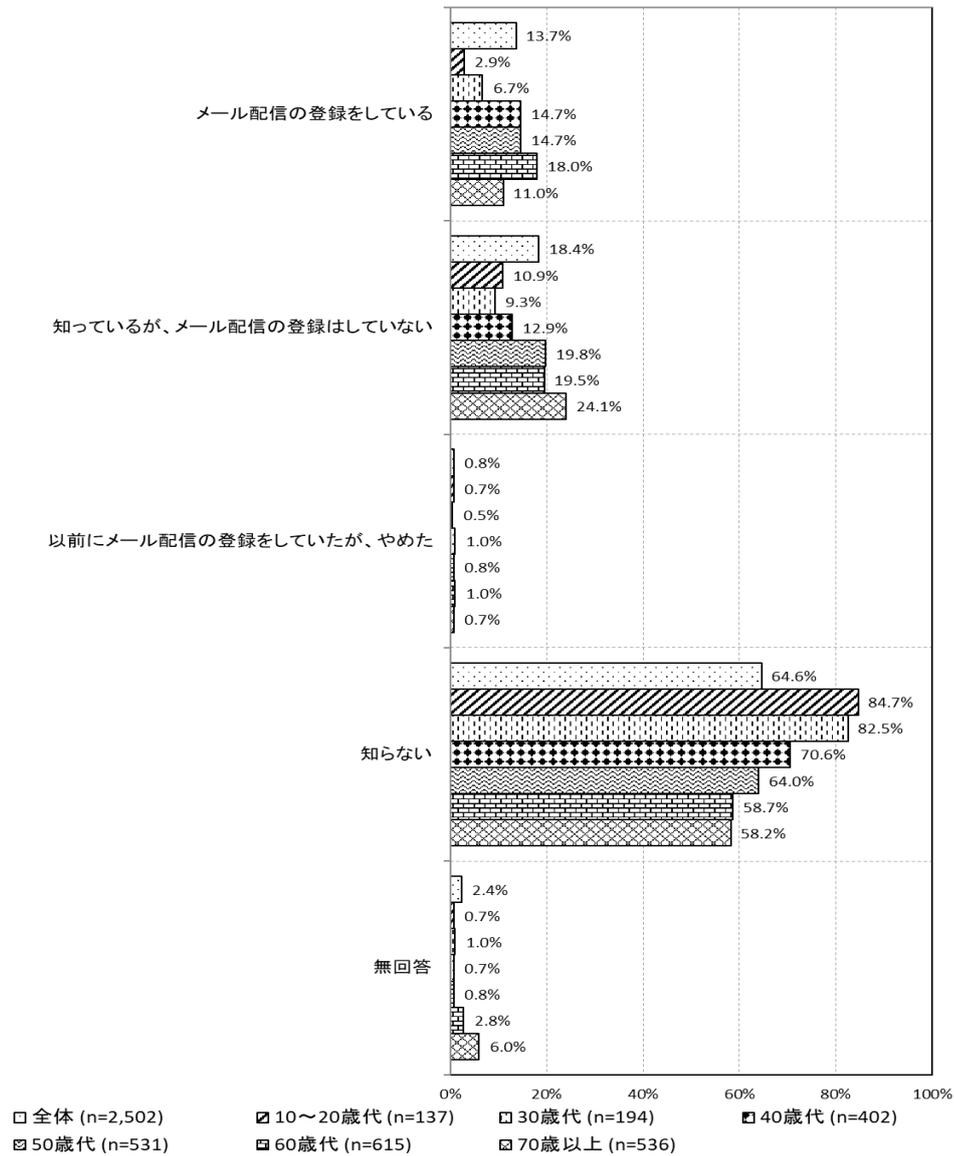
【問 14】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない（理由： ）
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた（理由： ）
4. 知らない

(1) 集計結果



(2) 年齢別



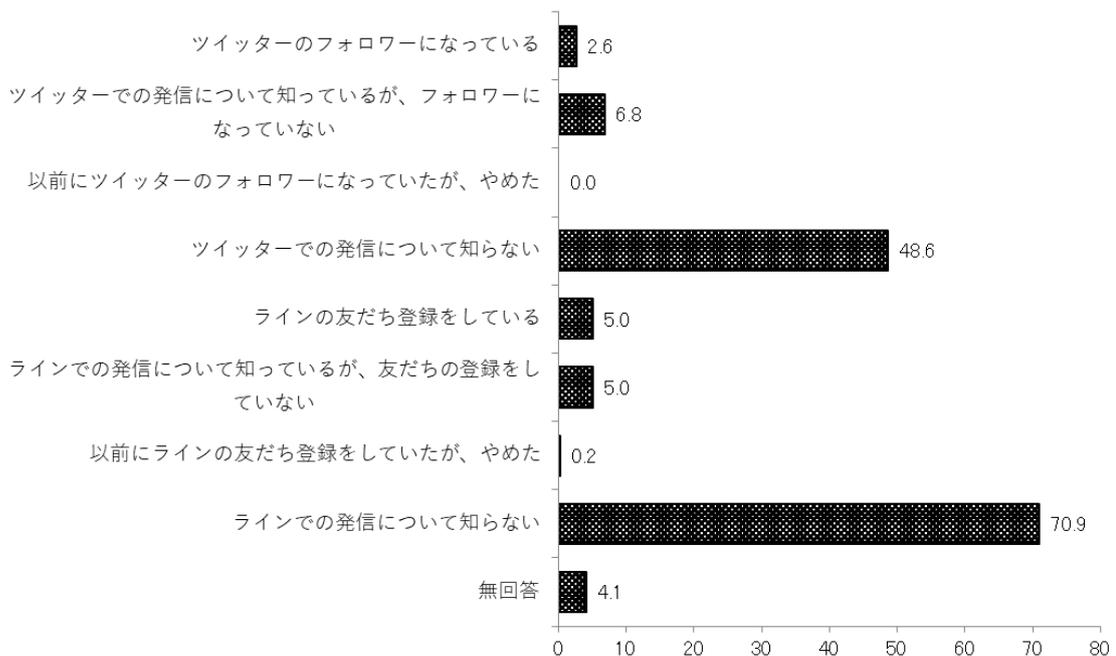
- 「防災みえメール配信サービス」の認知度について、「知らない」が64.6%と最も高く、次いで「知っているが、メール配信の登録はしていない」が18.4%となっています。
- 年齢別に見ると、「知らない」と回答した方の割合が最も高かったのは10~20歳代で84.7%となり、年代が上がるにつれて「知らない」と回答した方の割合は少なくなっています。

4-7 「防災みえ Twitter、LINE」の認知度

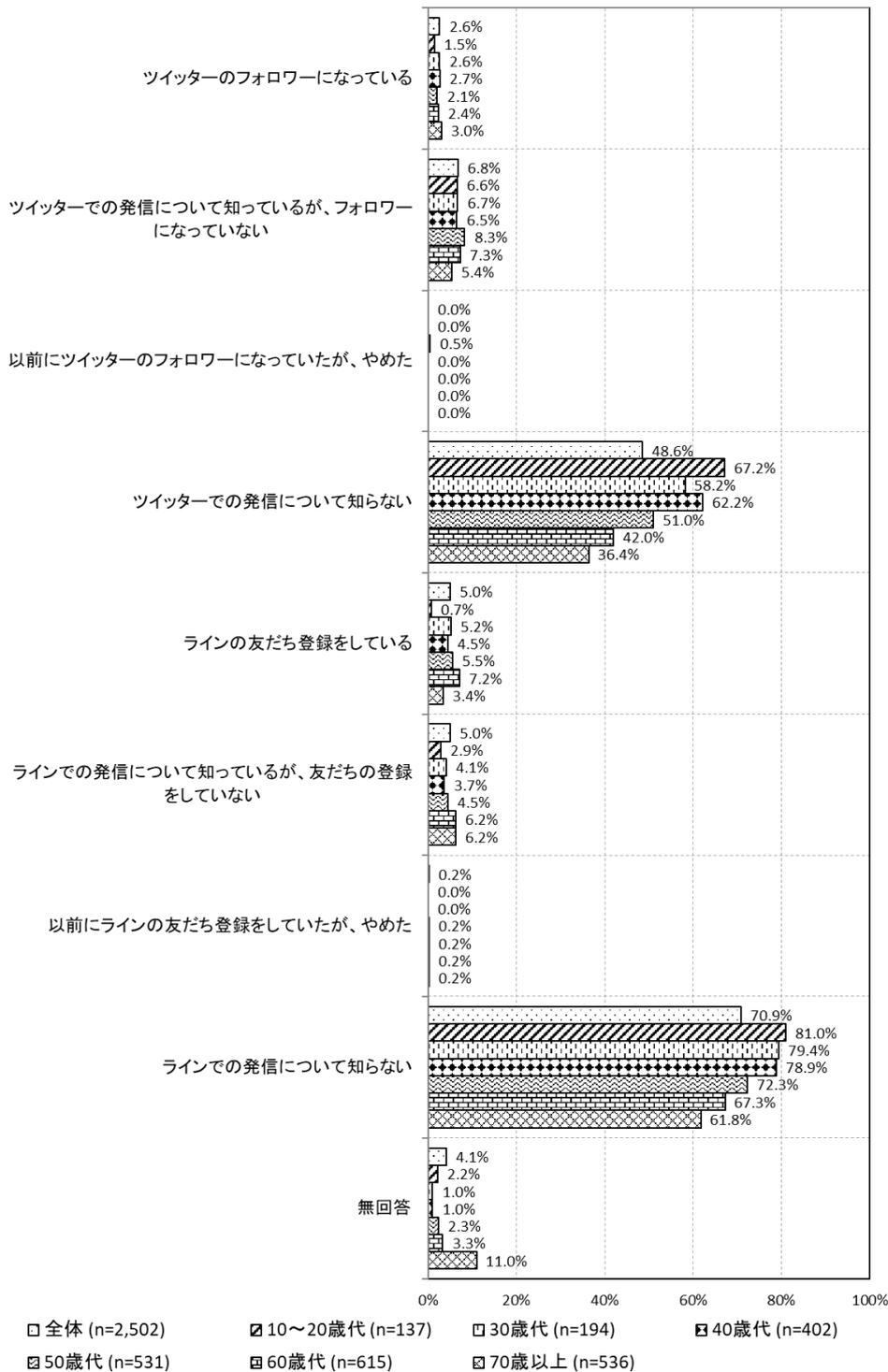
【問 15】 県では、台風の接近に伴う注意喚起等を Twitter（ツイッター）や LINE（ライン）で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。（いくつでも○）

1. ツイッターのフォロワーになっている
2. ツイッターでの発信について知っているが、フォロワーになっていない
(理由:)
3. 以前にツイッターのフォロワーになっていたが、やめた (理由:)
4. ツイッターでの発信について知らない
5. ラインの友だち登録をしている
6. ラインでの発信について知っているが、友だちの登録をしていない
(理由:)
7. 以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた (理由:)
8. ラインでの発信について知らない

(1) 集計結果



(2) 年齢別



- 「防災みえ Twitter、LINE」の認知度について、「ラインでの発信について知らない」が70.9%、「ツイッターでの発信について知らない」が48.6%となっています。
- 年齢別に見ると、年代が低くなるほどライン、ツイッターとも「知らない」と回答した方の割合が増加しています。

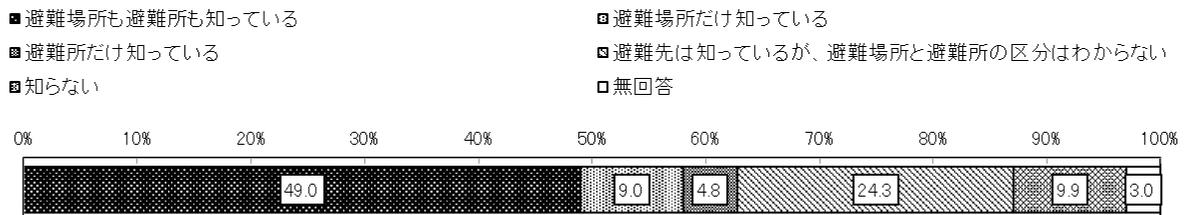
5 避難場所・避難所について

5-1 自宅付近の避難場所・避難所の認知度

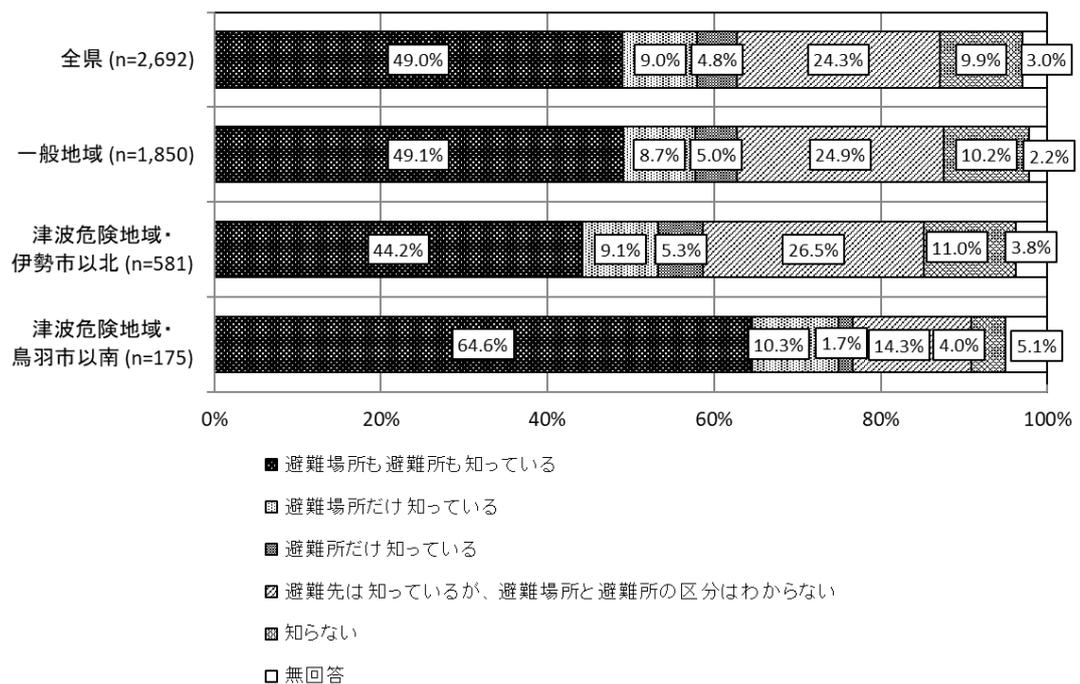
【問 16-1】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。
(一つだけ○)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 避難場所も避難所も知っている |
| 2. 避難場所だけ知っている |
| 3. 避難所だけ知っている |
| 4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない |
| 5. 知らない |

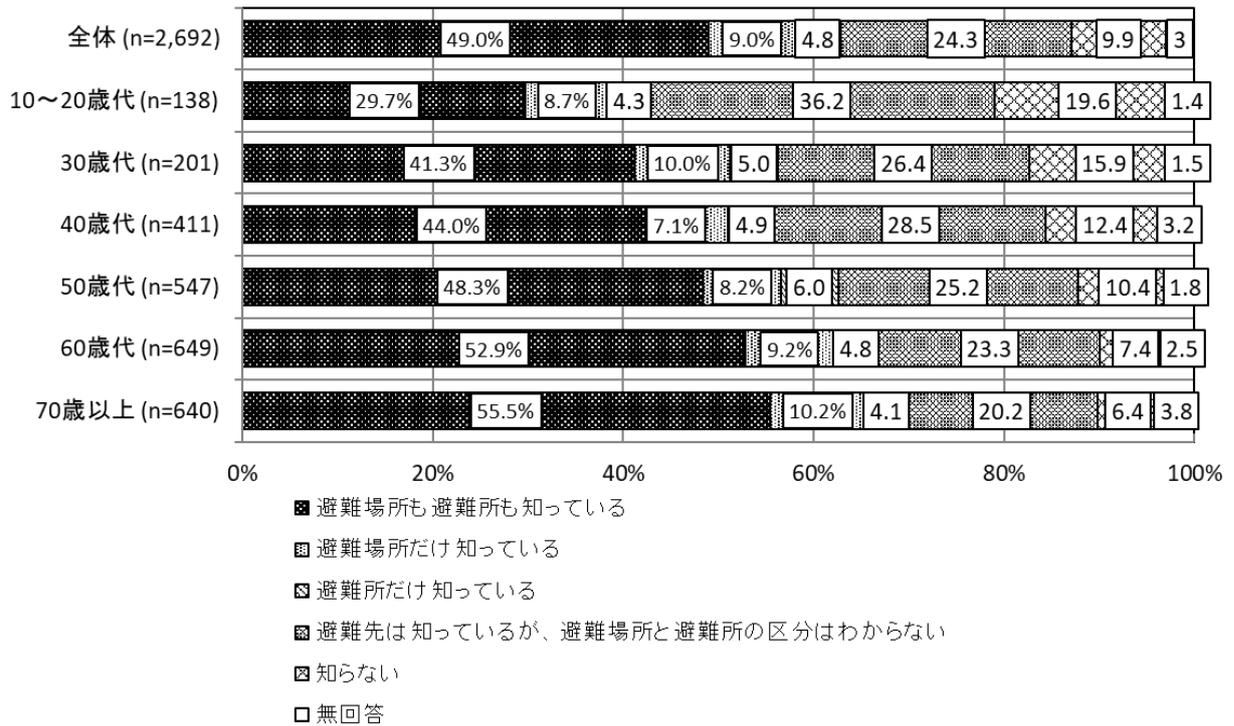
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



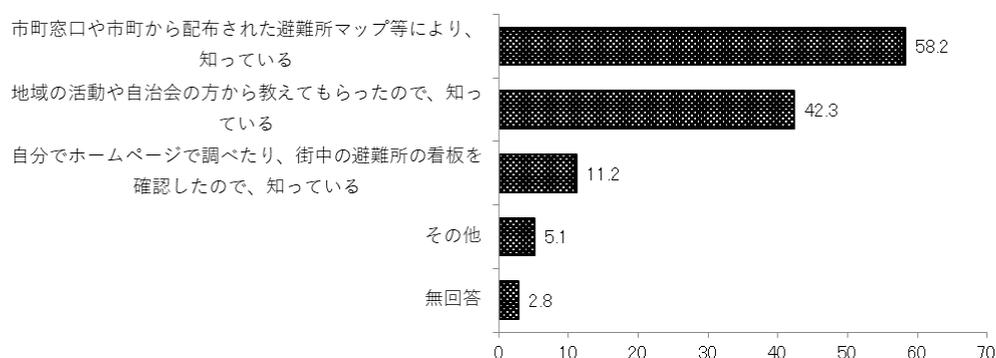
- 自宅付近の避難場所・避難所の認知度について、「避難場所も避難所も知っている」、「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と回答した方はあわせて73.3%となっている一方で、約1割(9.9%)の方が「知らない」と回答しています。
- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域における「避難場所も避難所も知っている」、「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と回答した方は他地域と比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年代が上がるほど「避難場所も避難所も知っている」、「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と回答した方の割合が高くなるとともに、「知らない」と回答した方の割合が低くなっています。

5-2 避難場所・避難所を知ったきっかけ

【問 16-2】 問 16-1 で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」、「4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。あなたは、避難場所や避難所について、何によって知りましたか。
(いくつでも○)

1. 市町窓口や市町から配布された避難所マップ等により、知っている
2. 地域の活動や自治会の方から教えてもらったので、知っている
3. 自分でホームページで調べたり、街中の避難所の看板を確認したので、知っている
4. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 避難場所・避難所を知ったきっかけについて、「市町窓口や市町から配布された避難所マップ等」と回答した方が 58.2%と最も高く、次いで「地域の活動や自治会の方から教えてもらった」が 42.3%となっています。

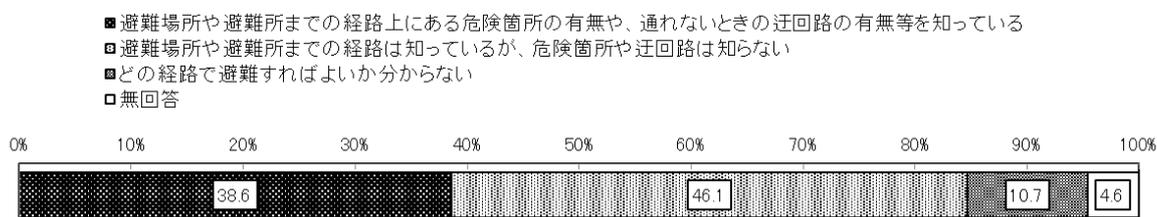
5-3 避難場所・避難所までの経路についての認知度

【問 16-3】 問 16-1 で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」、「4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。

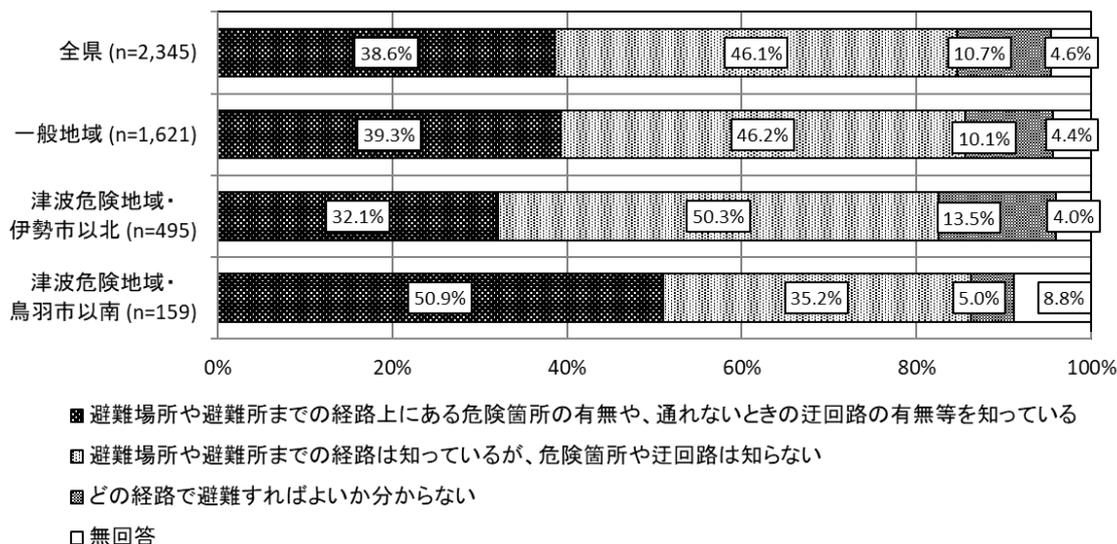
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

(1) 集計結果



(2) 地域別



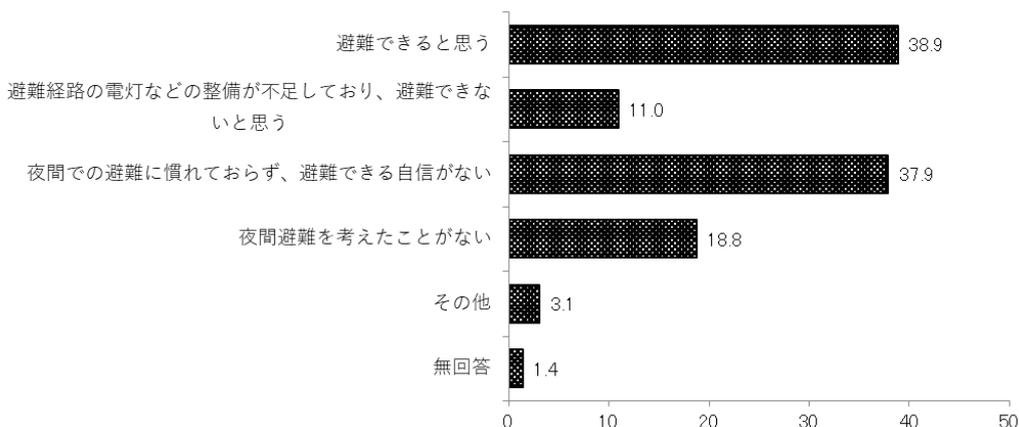
○ 避難場所・避難所までの経路の認知度について、地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域で「どの経路で避難すればよいか分からない」と回答した方の割合(5.0%)は他地域と比べて低い一方で、伊勢市以北の津波危険地域で「どの経路で避難すればよいか分からない」と回答した方の割合(13.5%)は他地域と比べて高くなっています。

5-4 夜間など避難が困難な状況での避難に対する認識

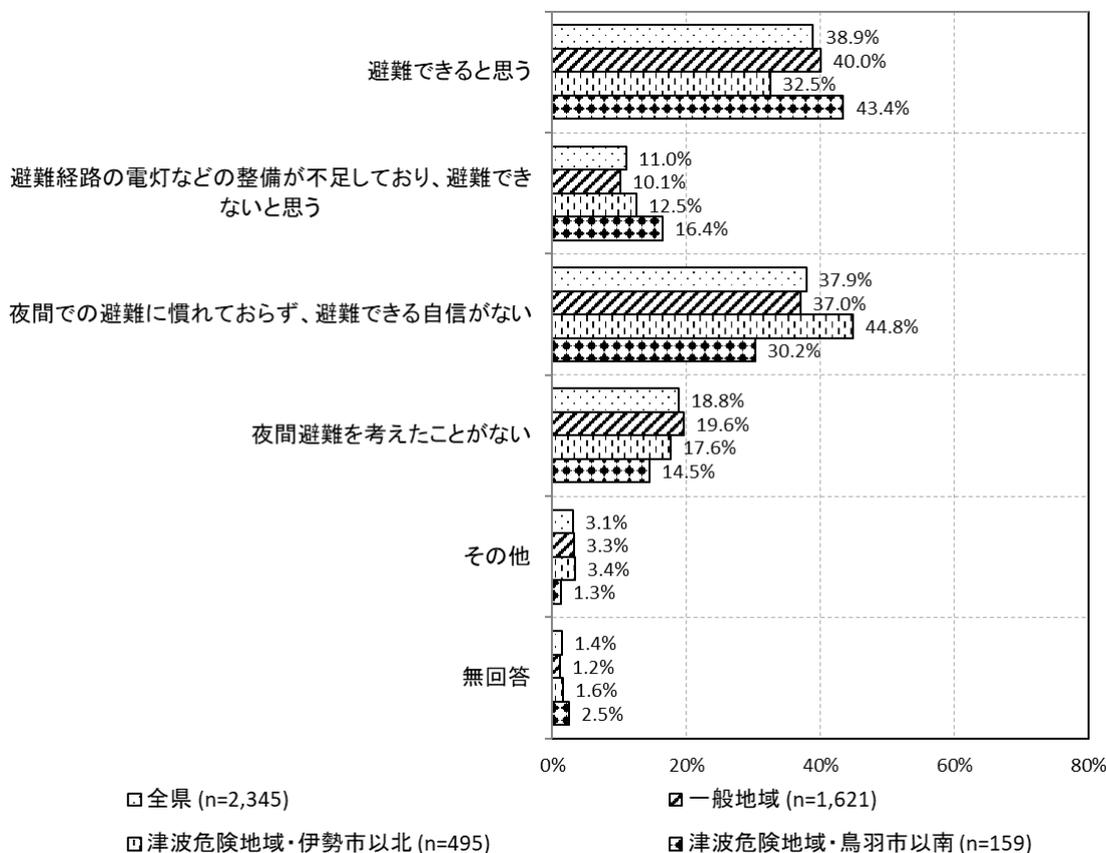
【問 16-4】 あなたは、夜間など避難が困難な状況において災害が発生した場合においても、円滑に避難できると思いますか。(いくつでも○)

1. 避難できると思う
2. 避難経路の電灯などの整備が不足しており、避難できないと思う
3. 夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない
4. 夜間避難を考えたことがない
5. その他 具体的に：

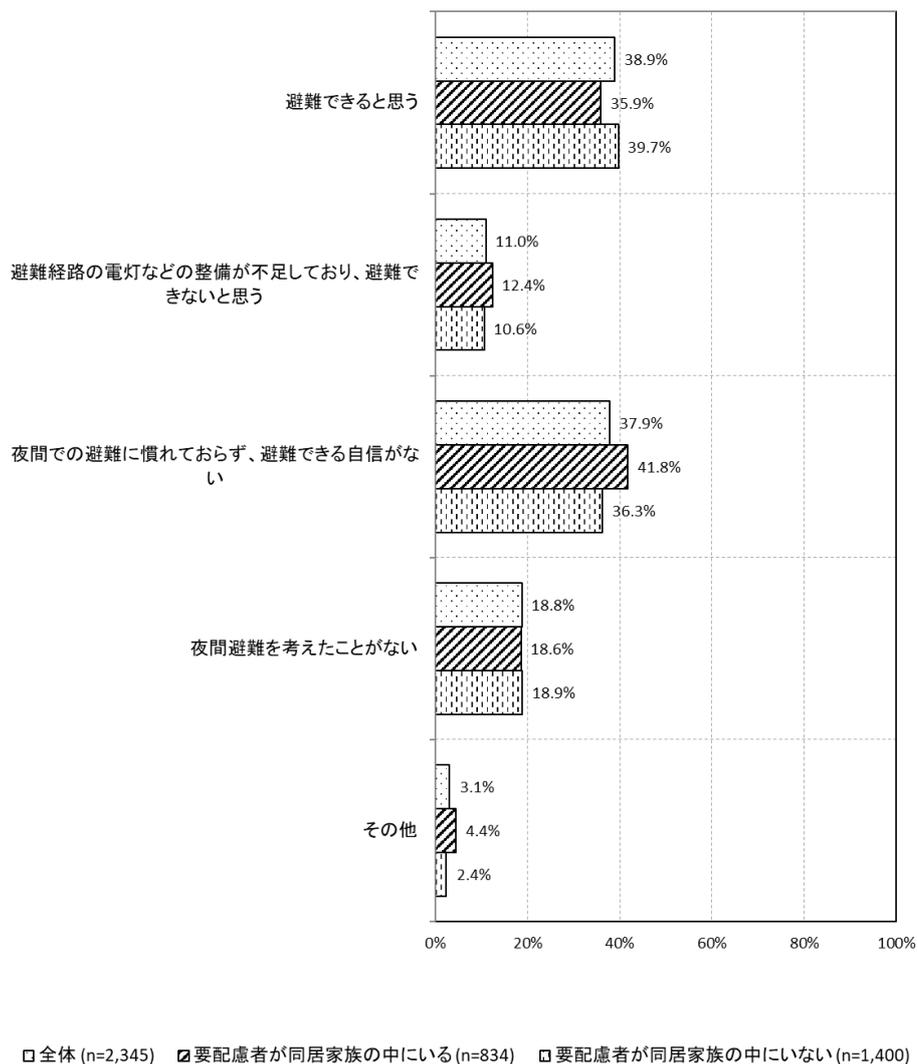
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 要配慮者の有無別



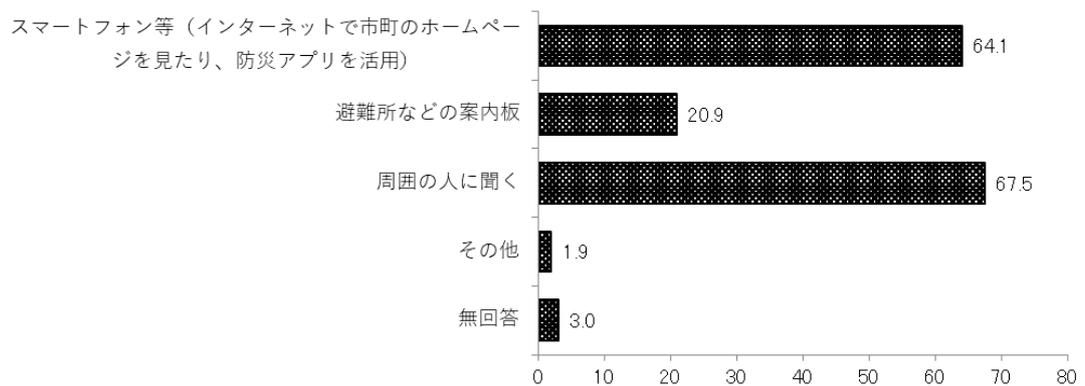
- 夜間など避難が困難な状況での避難について、「避難できると思う」と回答した方は 38.9% となっている一方で、「夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない」が 37.9%、「避難経路の電灯などの整備が不足しており、避難できない」が 11.0% となっています。
- 地域別に見ると、伊勢市以北の津波危険地域において「避難できると思う」と回答した方の割合は 32.5% と他地域と比べて低く、また、「夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない」と回答した方の割合は 44.8% と他地域と比べて高くなっています。

5-5 土地鑑のない場所での避難

【問 17】 あなたは、出先など土地鑑のない場所において災害が発生した場合、何を頼りに避難しようと思いますか。(いくつでも○)

1. スマートフォン等（インターネットで市町のホームページを見たり、防災アプリを活用）
2. 避難所などの案内板
3. 周囲の人に聞く
4. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 土地鑑のない場所で災害が発生した場合に何を頼りに避難しようと思うか、について「周囲の人に聞く」と回答した方が67.5%、「スマートフォン（インターネットで市町のホームページを見たり、防災アプリを活用）」が64.1%、「避難所などの案内板」が20.9%となっています。

6 日頃の防災対策について

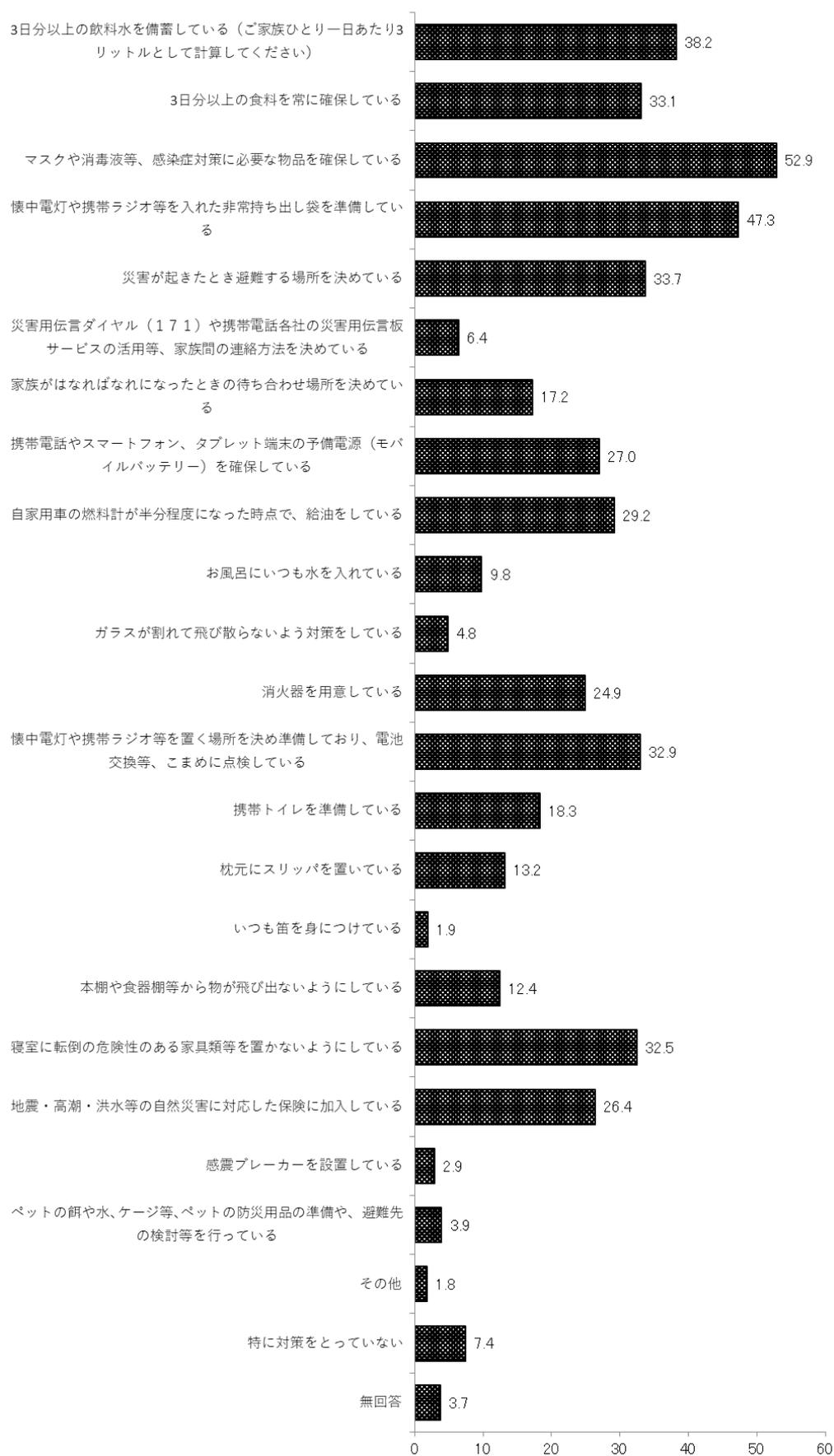
6-1 家庭での防災対策の状況

【問 18】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。
(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源（モバイルバッテリー）を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 携帯トイレを準備している
15. 枕元にスリッパを置いている
16. いつも笛を身につけている
17. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
18. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
19. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
20. 感震ブレーカーを設置している
21. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
22. その他 具体的に：
23. 特に対策をとっていない

※ 感震ブレーカー：地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

(1) 集計結果



○ 家庭での防災対策の状況として、「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」と回答した方が 52.9%と最も高く、次いで「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が 47.3%、「3日以上以上の飲料水を備蓄している」が 38.2%となっています。

6-2 自宅における家具等固定の状況

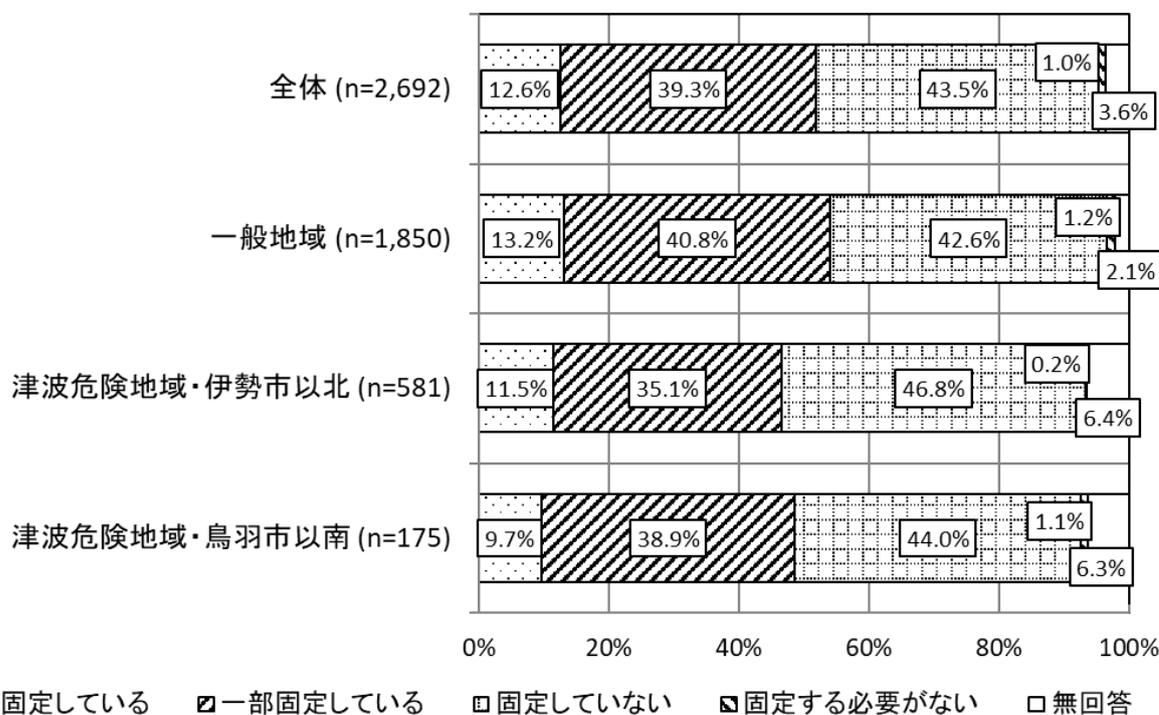
【問 19-1】 あなたのご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ○)

- | |
|--------------|
| 1. 大部分固定している |
| 2. 一部固定している |
| 3. 固定していない |
| 4. 固定する必要がない |

(1) 集計結果



(2) 地域別

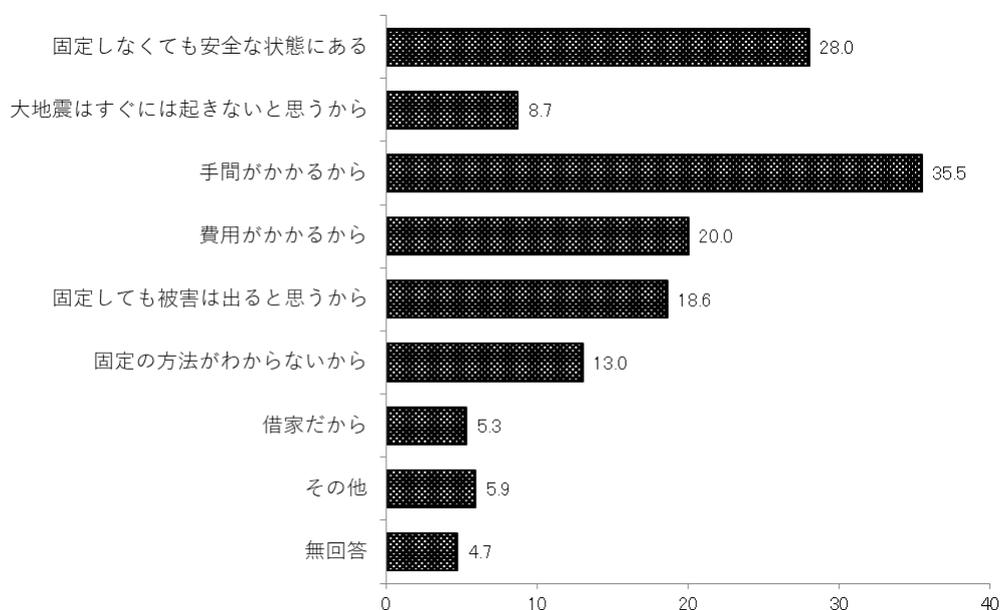


6-3 自宅において家具等固定をしない理由

【問 19-2】 問 19-1 で、「2. 一部固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 固定しなくても安全な状態にある
2. 大地震はすぐには起きないと思うから
3. 手間がかかるから
4. 費用がかかるから
5. 固定しても被害は出ると思うから
6. 固定の方法がわからないから
7. 借家だから
8. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 自宅において家具固定をしない理由について、「手間がかかる」と回答した方が 35.5%と最も高く、次いで「固定しなくても安全な状態にある」が 28.0%、「費用がかかる」が 20.0%となっています。

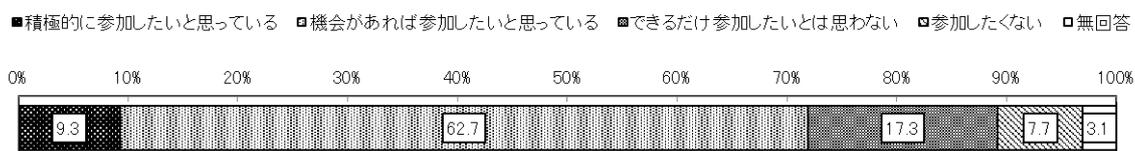
7 地域・職場での防災活動について

7-1 地域の防災活動への参加意識

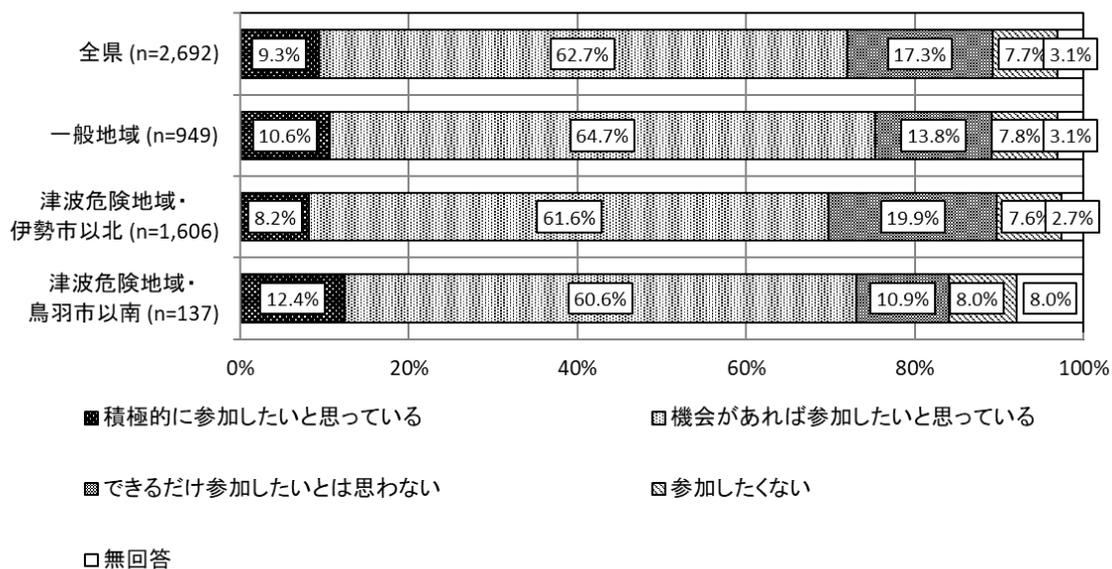
【問 20-1】 あなたは、地域で実施される防災活動（問 20-4 の選択肢参照）に参加しようと思いますか。（一つだけ○）

1. 積極的に参加したいと思っている
2. 機会があれば参加したいと思っている
3. できるだけ参加したいとは思わない
4. 参加したくない

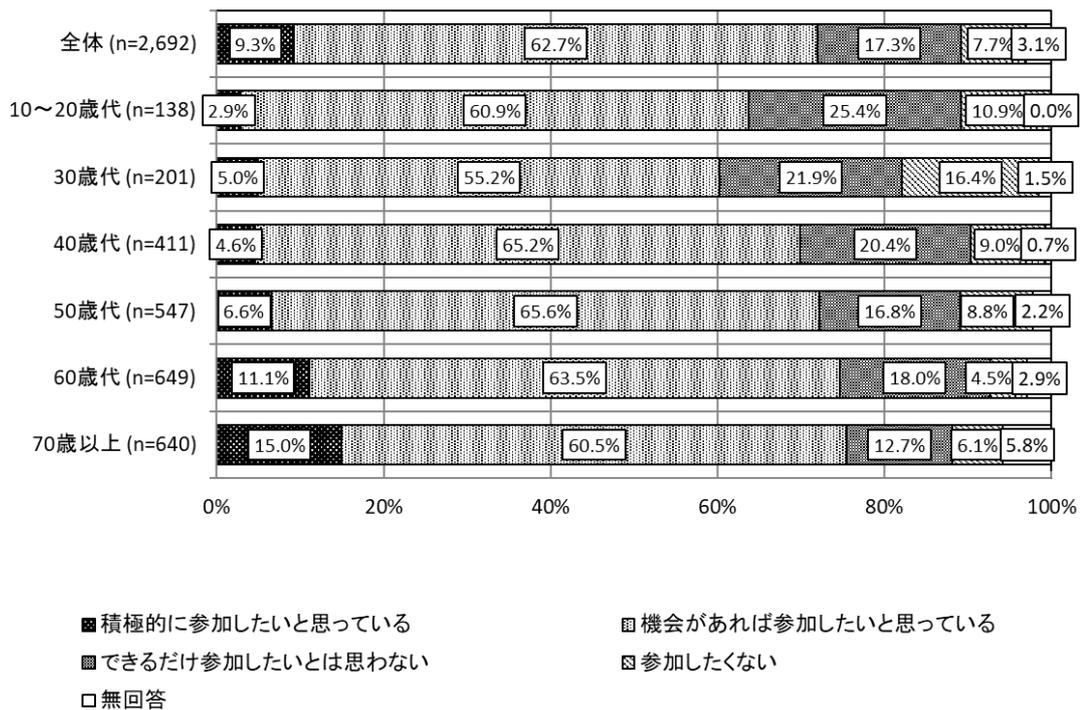
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



- 地域の防災活動への参加意識について、7割以上（72.0%）の方が「積極的に参加したい」、「機会があれば参加したい」と回答している一方で、25.0%の方が「できるだけ参加したいとは思わない」、「参加したくない」と回答しています。
- 年齢別にみると、30歳代が「積極的に参加したい」、「機会があれば参加したい」の合計値が他年代と比べて最も低く（60.2%）、「できるだけ参加したいとは思わない」、「参加したくない」の合計値が他年代と比べて最も高く（38.3%）なっています。

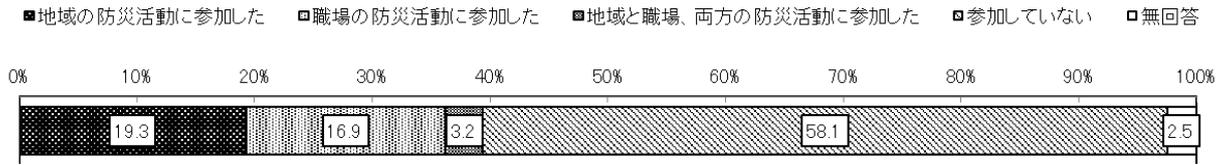
7-2 地域や職場における防災活動への参加状況

【問 20-2】 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 20-4 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

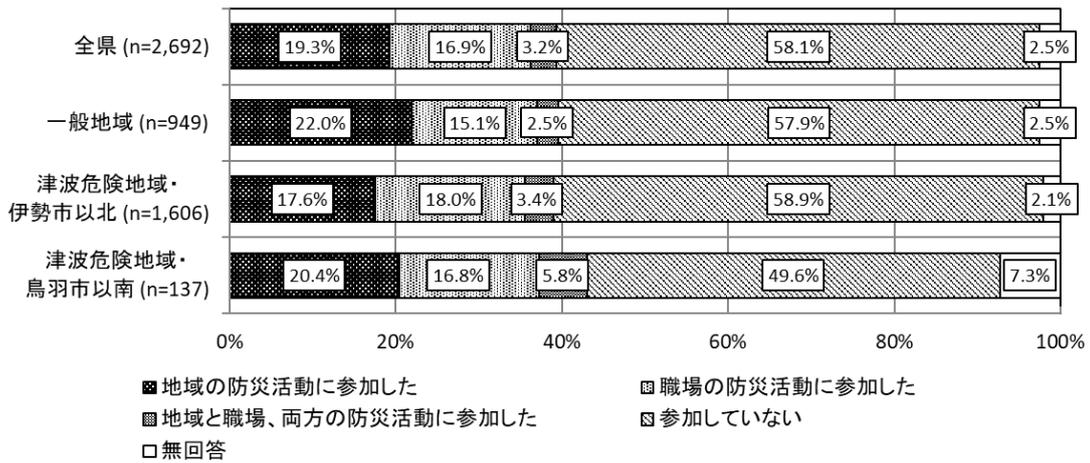
※ 直近で開催される防災活動へ参加する予定がある場合は1～3に○をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

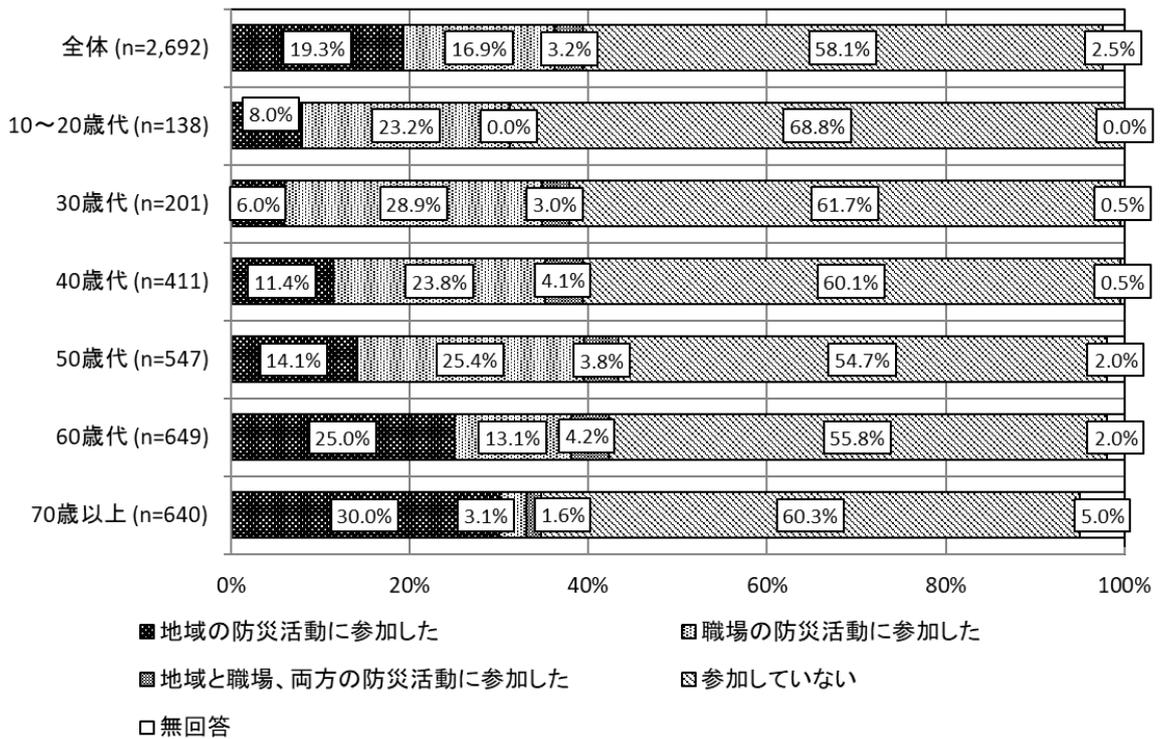
(1) 集計結果



(2) 地域別



(3) 年齢別



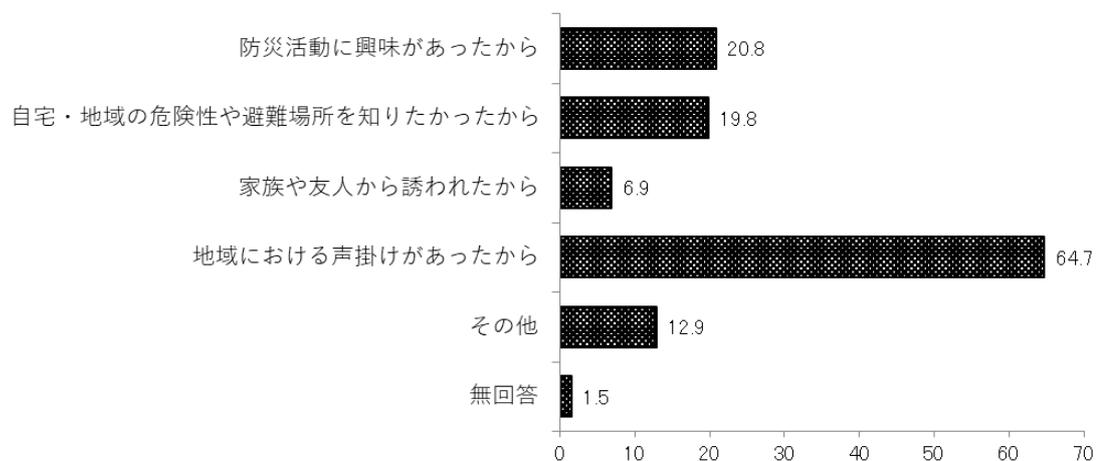
- 過去 1 年間における地域や職場の防災活動への参加状況について、約6割（58.1%）の方が「参加していない」と回答しています。
- 年齢別に見ると、年代が上がるほど「地域の防災活動に参加した」と回答した方の割合が高くなる傾向にあります。

7-3 地域の防災活動へ参加したきっかけ

【問 20-3】 問 20-2 で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。あなたが地域の防災活動に参加したきっかけはなんですか。（いくつでも○）

1. 防災活動に興味があったから
2. 自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから
3. 家族や友人から誘われたから
4. 地域における声掛けがあったから
5. その他 具体的に：

(1) 集計結果



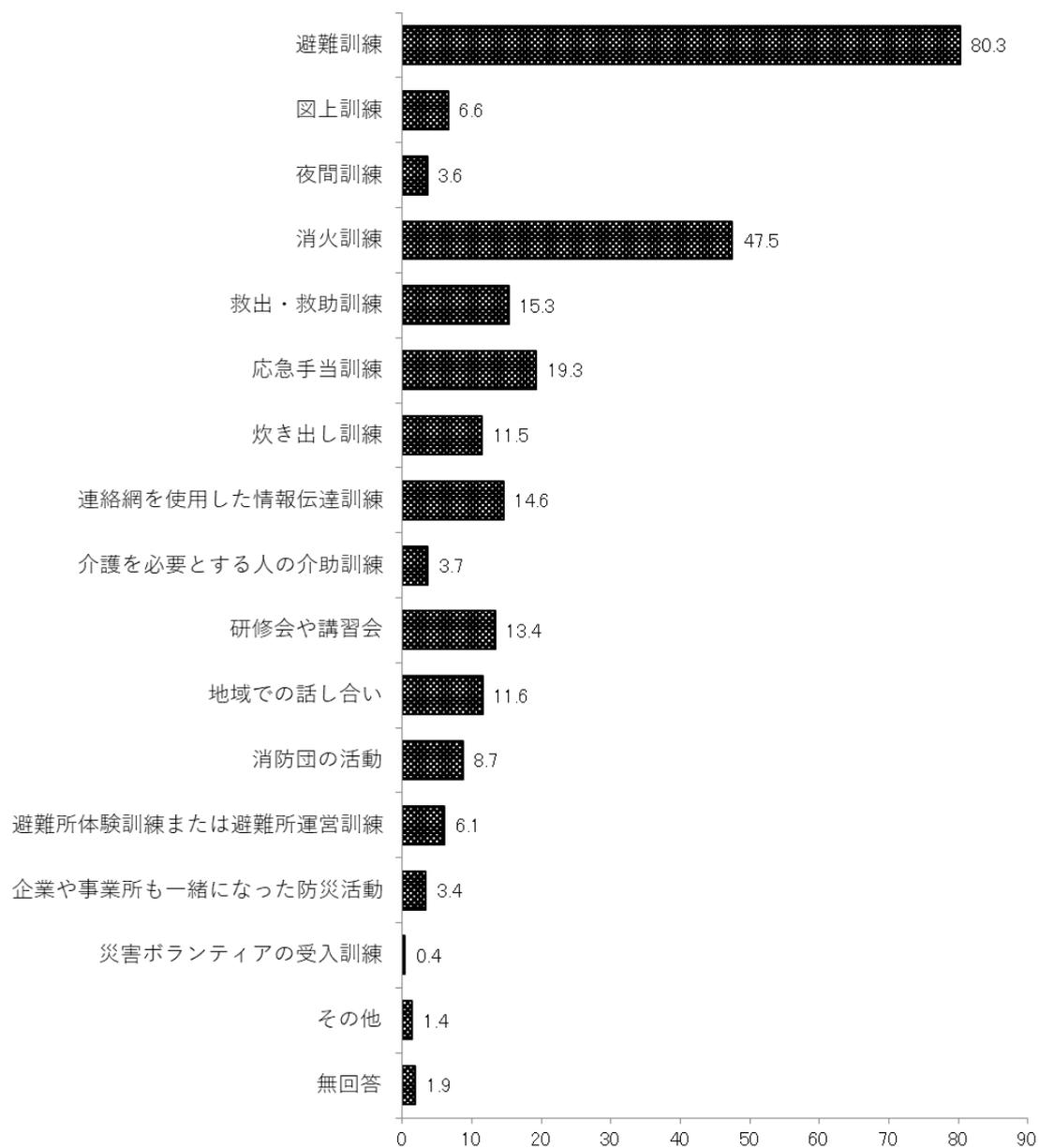
- 地域の防災活動へ参加したきっかけについて、「地域における声掛け」が 64.7%と最も高く、次いで、「防災活動に興味があった」が 20.8%、「自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかった」が 19.8%となっています。

7-4 参加した地域・職場の防災活動の内容

【問 20-4】 問 20-2 で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 消防団の活動
13. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
14. 企業や事業所も一緒になった防災活動
15. 災害ボランティアの受入訓練
16. その他 具体的に：

(1) 集計結果



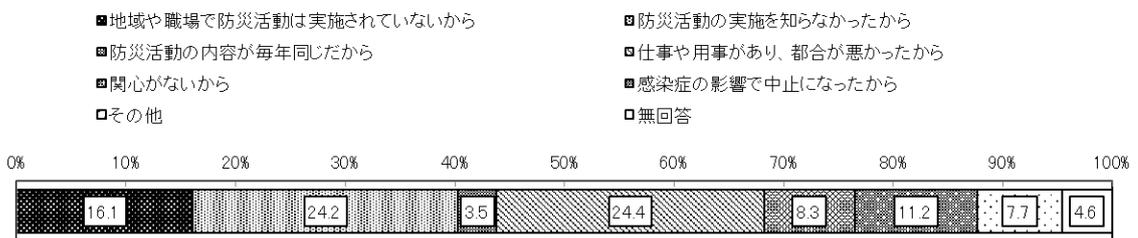
○ 過去1年間に参加した地域や職場の防災活動について、「避難訓練」が80.3%と最も多く、次いで「消火訓練」が47.5%、「応急手当訓練」が19.3%となっています。

7-5 地域・職場の防災活動に参加しなかった理由

【問 20-5】 問 20-2 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。
あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ○)

1. 地域や職場で防災活動は実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. 感染症の影響で中止になったから
7. その他 具体的に：

(1) 集計結果



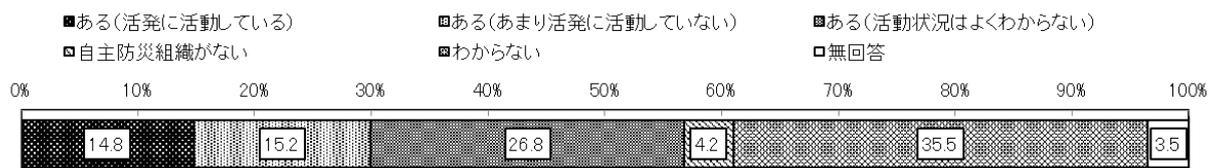
○ 地域や職場の防災活動に参加しなかった理由について、「仕事や用事があり、都合が悪かった」が 24.4%と最も多く、次いで「防災活動の実施を知らなかった」が 24.2%、「職場や地域で防災活動が実施されていない」が 16.1%となっています。

7-6 住んでいる地域における自主防災組織の有無と活動状況

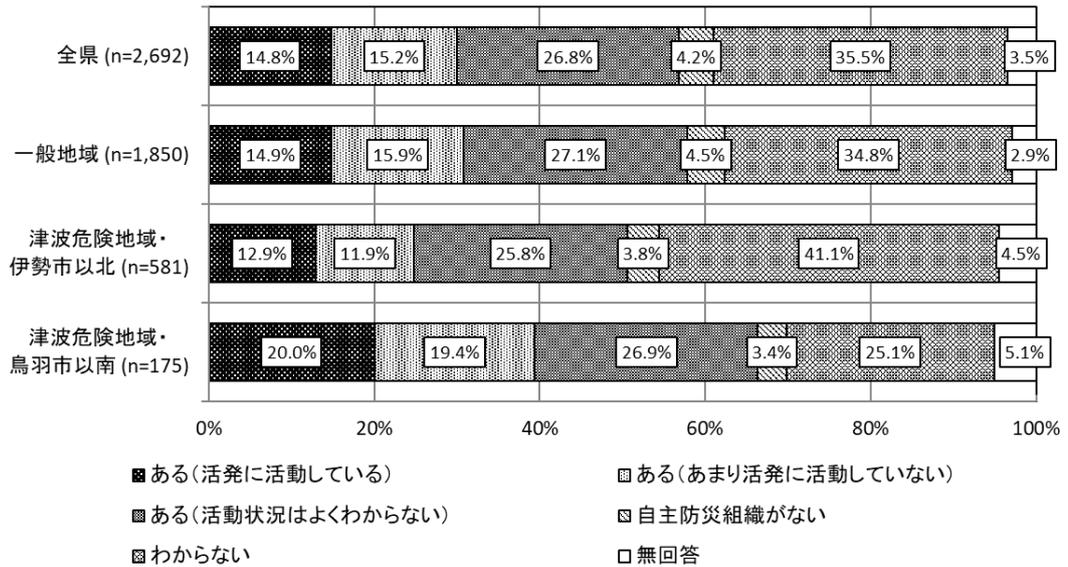
【問 21】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

(1) 集計結果



(2) 地域別



○ 住んでいる地域における自主防災組織の有無と活動状況について、「わからない」と回答した方が 35.5%と最も高く、次いで「ある(活動状況はよくわからない)」が 26.8%、「ある(あまり活発に活動していない)」が 15.2%となっています。

7-7 地域・職場で必要だと思う防災活動

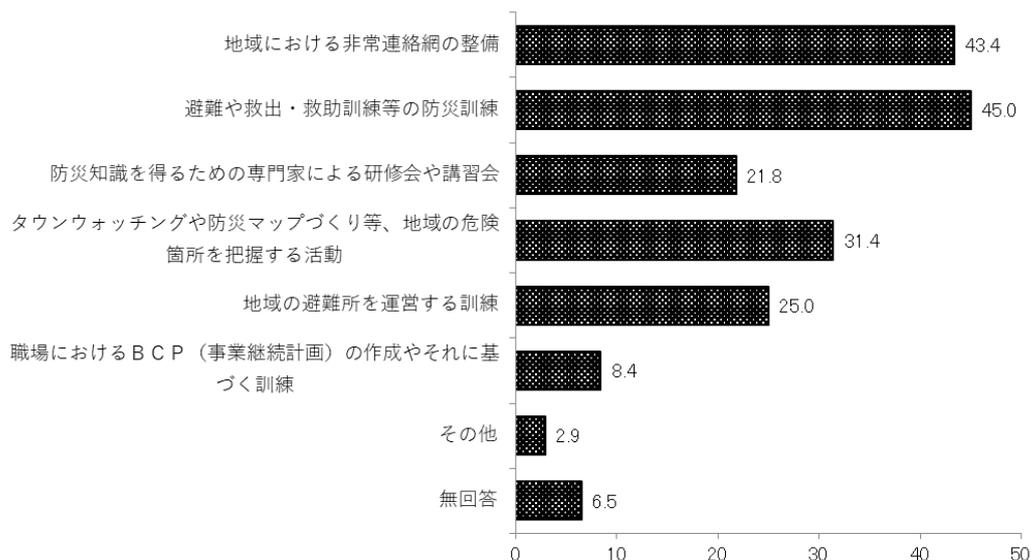
【問 22】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP(事業継続計画)の作成やそれに基づく訓練
7. その他 具体的に：

※ BCP(事業継続計画)：

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

(1) 集計結果



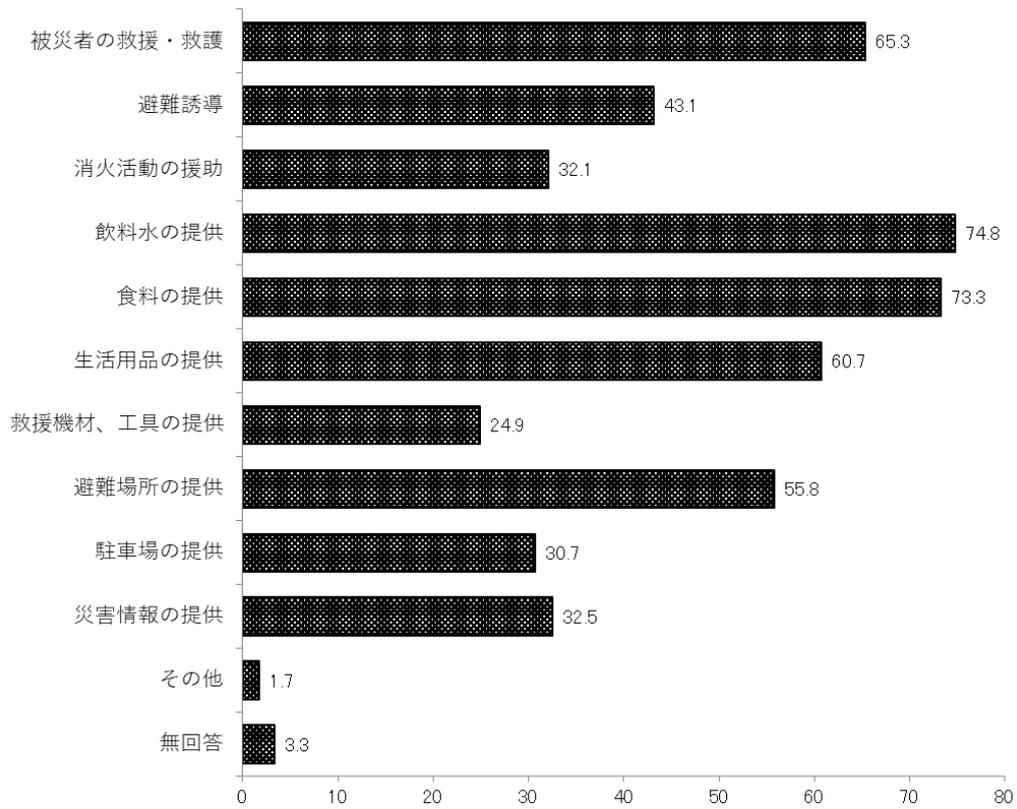
○ 地域や職場で必要だと思う防災活動について、「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」が45.0%と最も高く、次いで「地域における非常連絡網の整備」が43.4%、「タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動」が31.4%となっています。

7-8 地域の企業・事業所に期待する防災活動・防災対策

【問 23】 地域の防災活動や防災対策について、あなたが地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

(1) 集計結果



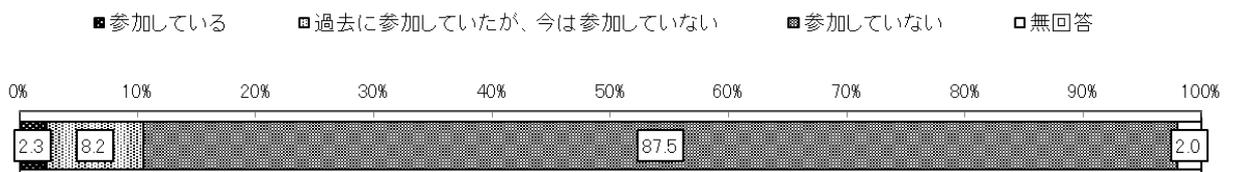
○ 地域の企業・事業所に期待する防災活動・防災対策について、「飲料水の提供」が74.8%と最も高く、次いで「食料の提供」が73.3%、「被災者の救援・救護」が65.3%となっています。

7-9 消防団への参加状況

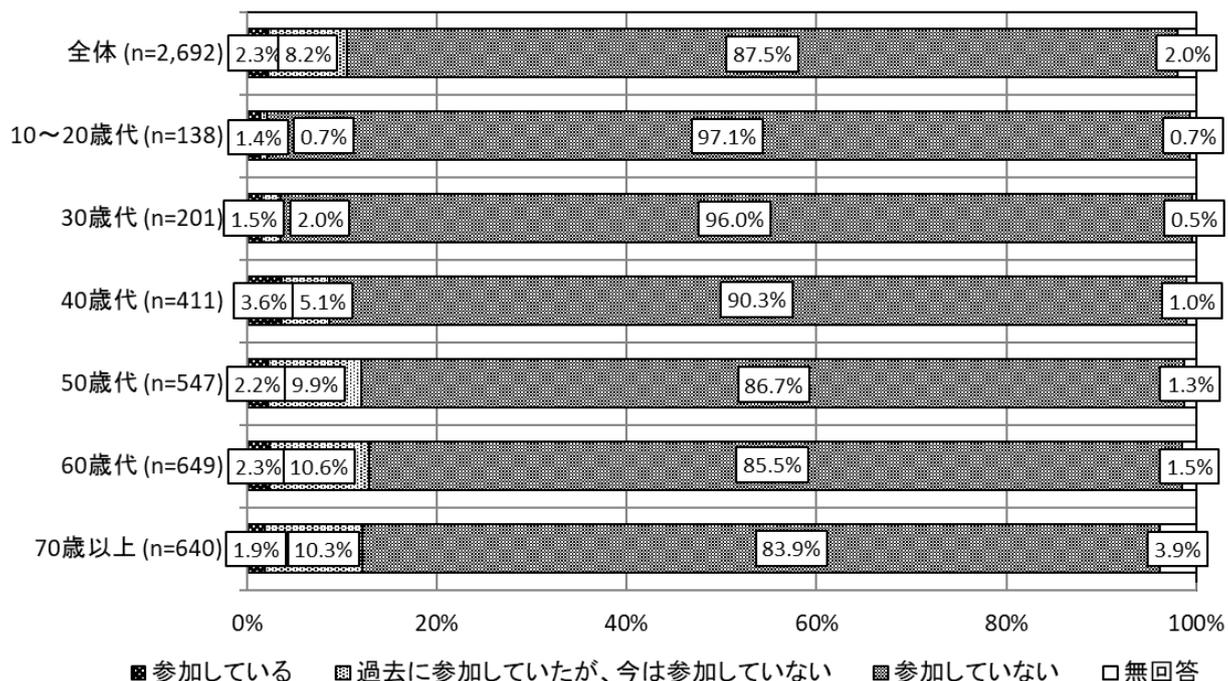
【問 24-1】 あなたはお住まいの地域の消防団に参加していますか。(一つだけ○)

1. 参加している
2. 過去に参加していたが、今は参加していない
3. 参加していない

(1) 集計結果



(2) 年齢別



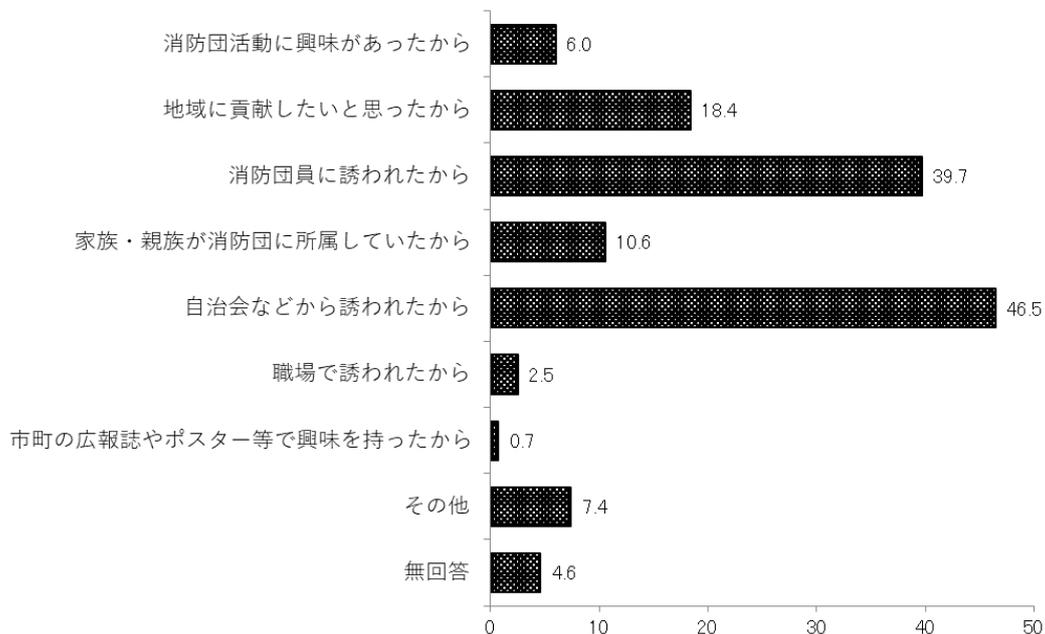
- 消防団への参加状況について、「参加している」、「過去に参加していたが、今は参加していない」と回答した方はあわせて10.5%、「参加していない」と回答した方は87.5%となっています。
- 年齢別に見ると、現在「参加している」と回答した方は、40歳代が最も多く(3.6%)、10～20歳代が最も低く(1.4%)となっています。

7-10 消防団に参加したきっかけ

【問 24-2】 問 24-1 で、「1. 参加している」「2. 過去に参加していたが、今は参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたがお住まいの地域の消防団に参加したきっかけはなんですか。(いくつでも○)

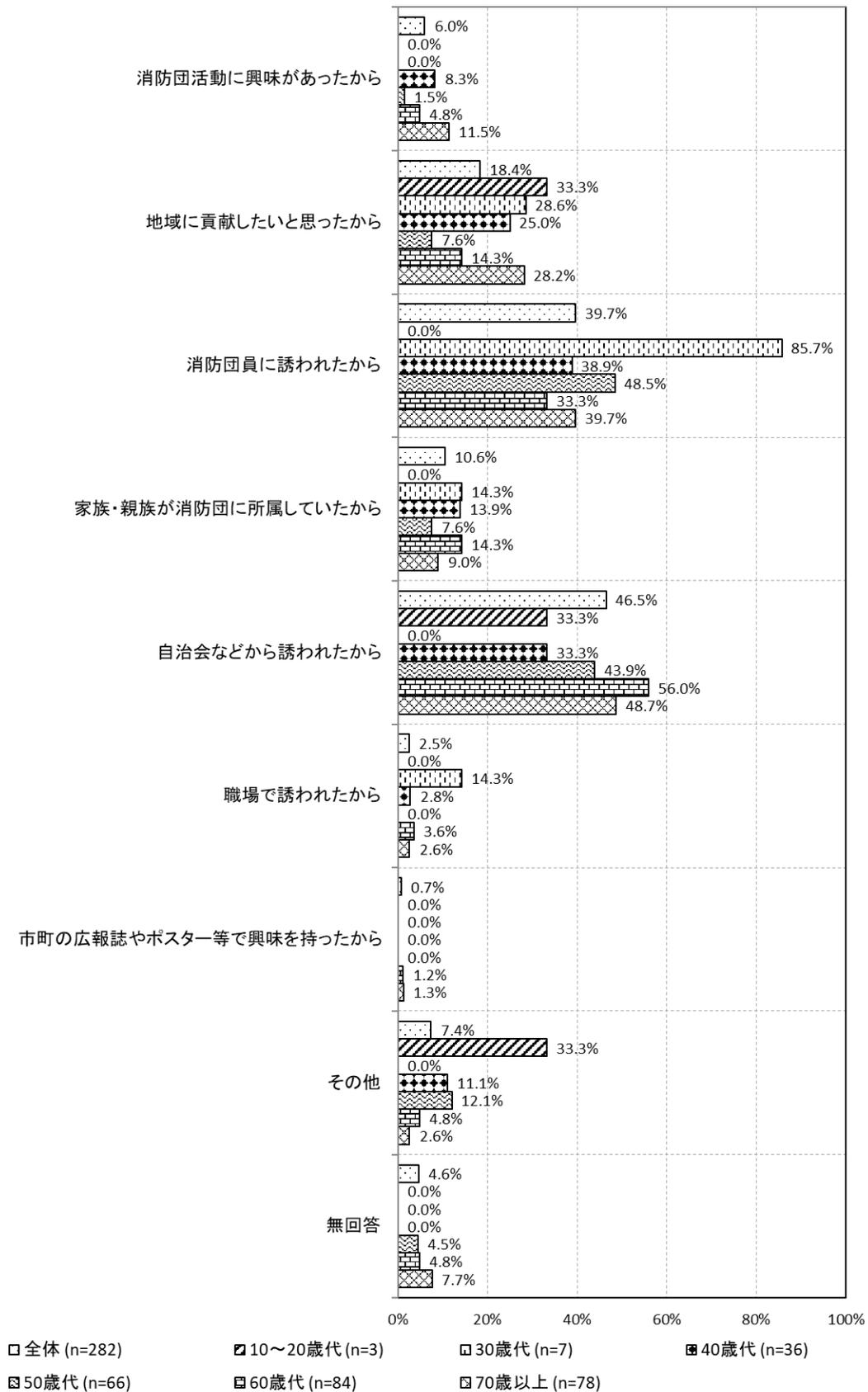
1. 消防団活動に興味があったから
2. 地域に貢献したいと思ったから
3. 消防団員に誘われたから
4. 家族・親族が消防団に所属していたから
5. 自治会などから誘われたから
6. 職場で誘われたから
7. 市町の広報誌やポスター等で興味を持ったから
8. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 消防団に参加したきっかけについて、「自治会などから誘われた」と回答した方が46.5%と最も高く、次いで「消防団員に誘われた」が39.7%、「地域に貢献したいと思った」が18.4%となっています。

【参考】年齢別

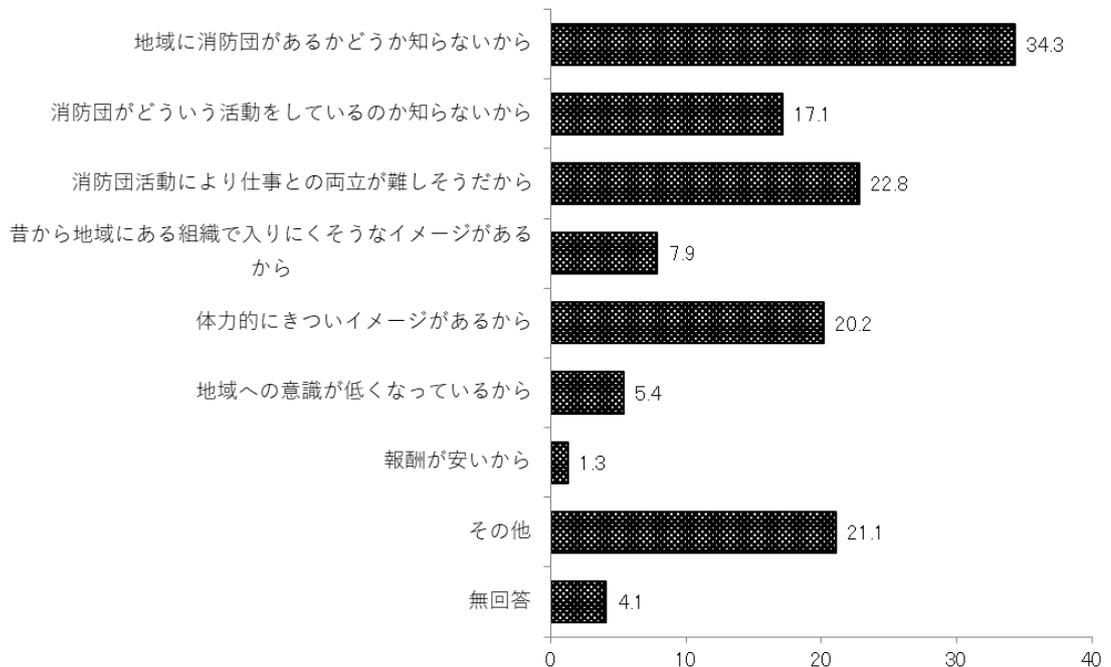


7-11 消防団に参加しない理由

【問 24-3】 問 24-1 で、「3. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。
あなたがお住まいの地域の消防団に参加しない理由はなんですか。
(いくつでも○)

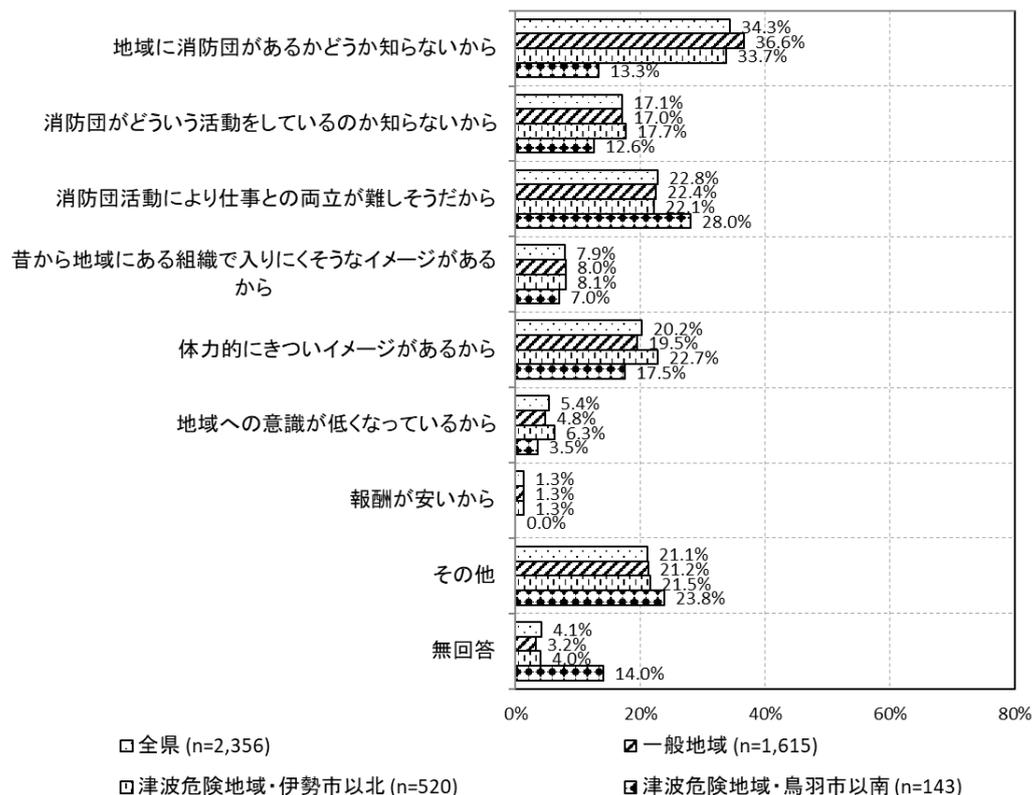
1. 地域に消防団があるかどうか知らないから
2. 消防団がどういう活動をしているのか知らないから
3. 消防団活動により仕事との両立が難しそうだから
4. 昔から地域にある組織で入りにくそうなイメージがあるから
5. 体力的にきついイメージがあるから
6. 地域への意識が低くなっているから
7. 報酬が安いから
8. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 消防団に参加しない理由として、「地域に消防団があるかどうか知らない」が 34.3%と最も多く、次いで「仕事との両立が難しそう」が 22.8%、「体力的にきついイメージがある」が 20.2%となっています。

【参考】地域別



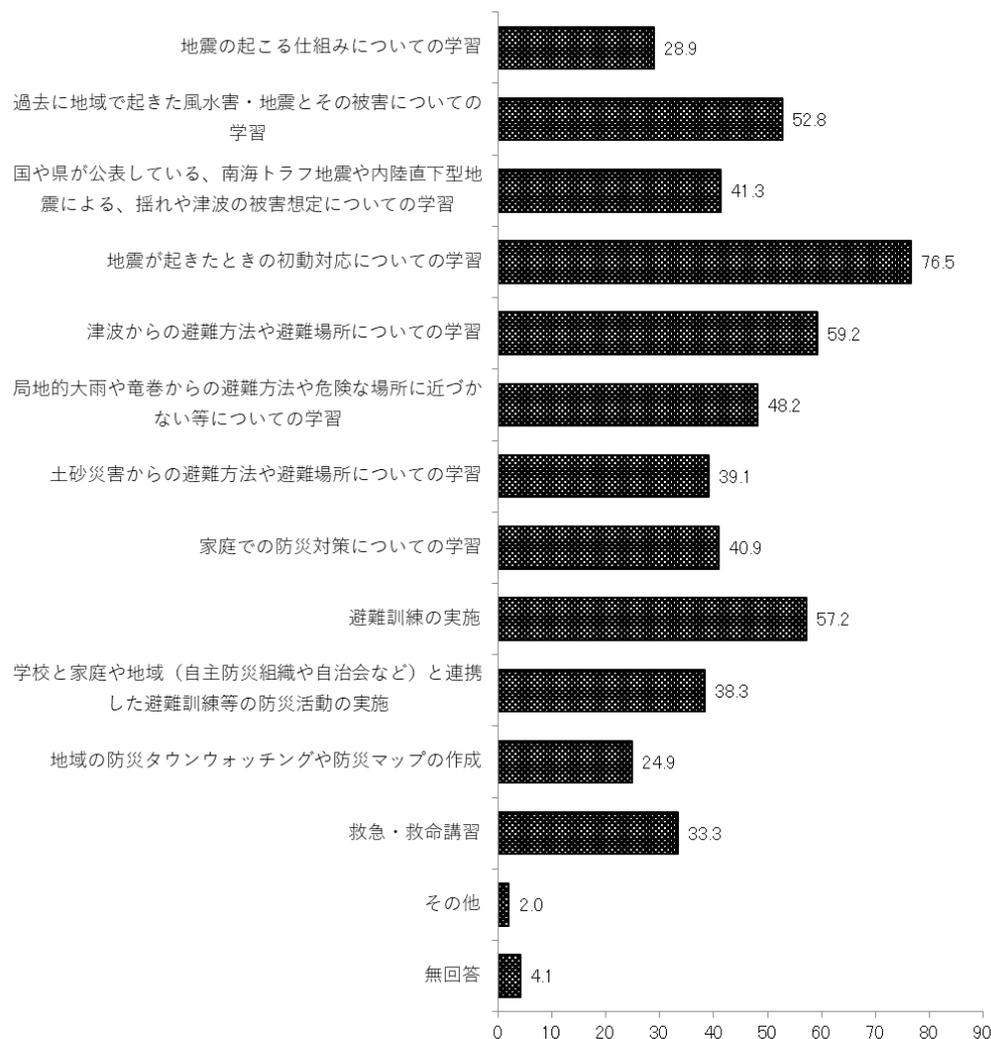
8 学校の防災教育について

8-1 学校において特に力を入れて取り組むことが必要だと思う防災教育

【問 25】 子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一員として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 学校と家庭や地域（自主防災組織や自治会など）と連携した避難訓練等の防災活動の実施
11. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
12. 救急・救命講習
13. その他 具体的に：

(1) 集計結果



○ 学校において特に力を入れて取り組む必要があると思う防災教育について、「地震が起きたときの初動対応についての学習」が76.5%と最も多く、次いで「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が59.2%、「避難訓練の実施」が57.2%となっています。

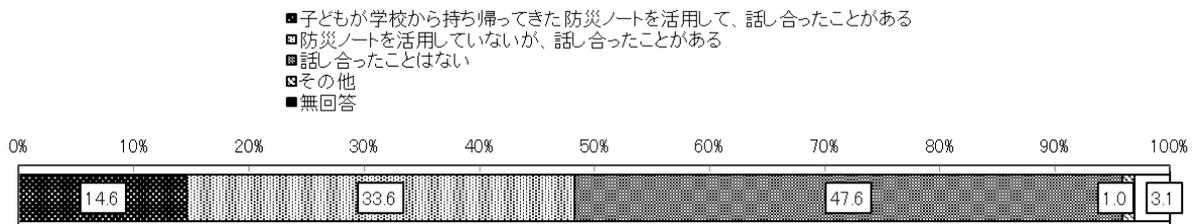
8-2 家庭での防災ノートの活用状況

【問 26】 同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。
防災ノート等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。(一つだけ○)

1. 子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある
2. 防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことはない
4. その他 具体的に：

※ 防災ノート：三重県教育委員会が県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の児童生徒に配布する防災教育用教材。

(1) 集計結果



○ 家庭での防災ノートの活用状況について、「子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある」と回答した方は 14.6%、「防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある」が 33.6%、「話し合ったことはない」が 47.6%となっています。

9 お住まいの耐震化について

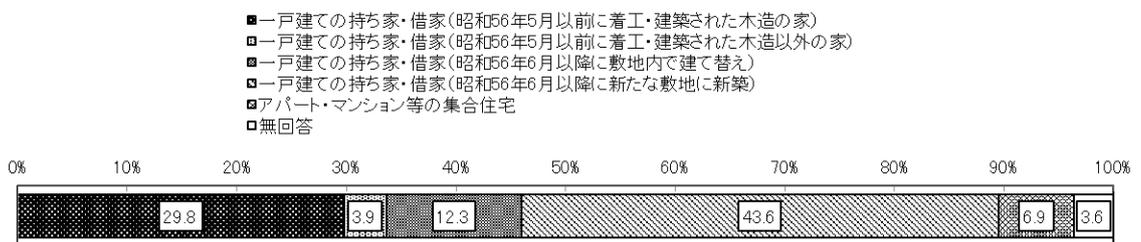
9-1 住まいの状況

【問 27】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）
2. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家）
3. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え）
4. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築）
5. アパート・マンション等の集合住宅

(1) 集計結果

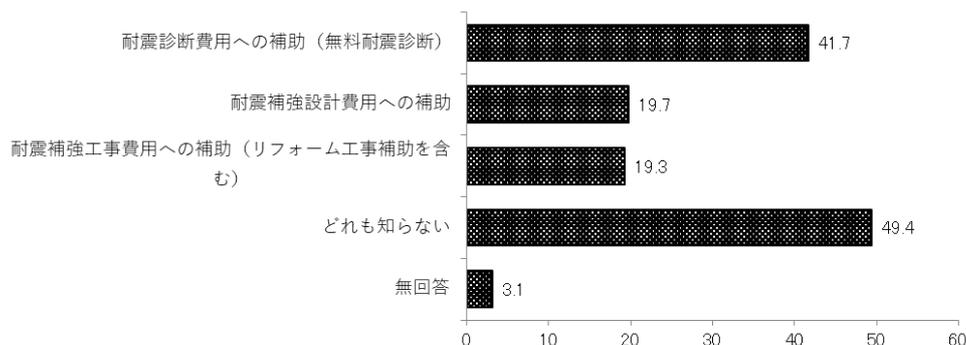


9-2 住宅耐震化に向けた補助制度の認知度

【問 28】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(いくつでも○)

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

(1) 集計結果

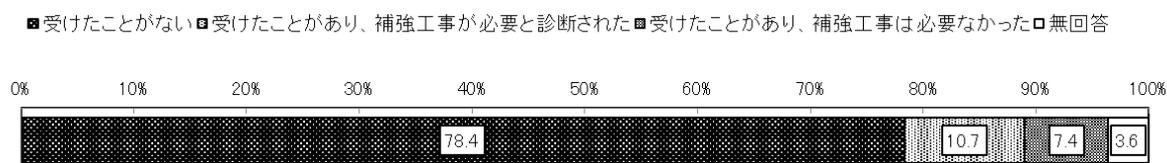


9-3 耐震診断の受診有無と診断結果

【問 29】 あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ○）

1. 受けたことがない
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった

(1) 集計結果

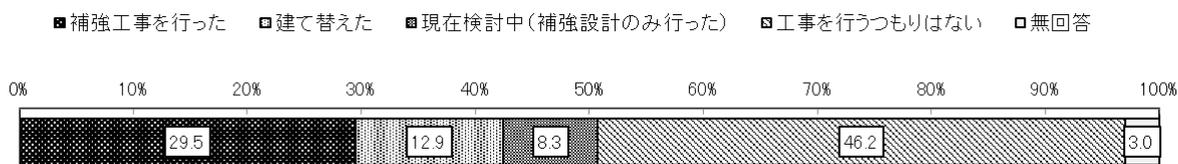


9-4 耐震補強が必要な場合における補強工事の実施状況

【問 30】 問 29 で、「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。（一つだけ○）

1. 補強工事を行った
2. 建て替えた
3. 現在検討中（補強設計のみ行った）
4. 工事を行うつもりはない

(1) 集計結果

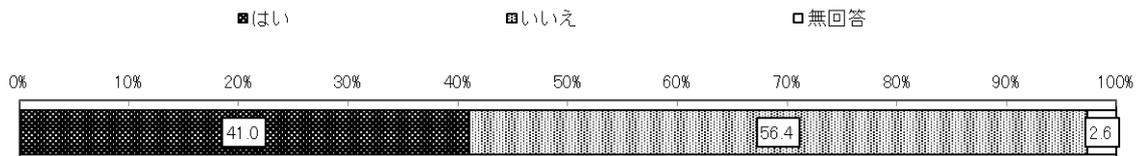


9-5 耐震補強工事実施の際における補助制度の活用有無

【問 31】 問 30 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ○)

1. はい
2. いいえ

(1) 集計結果

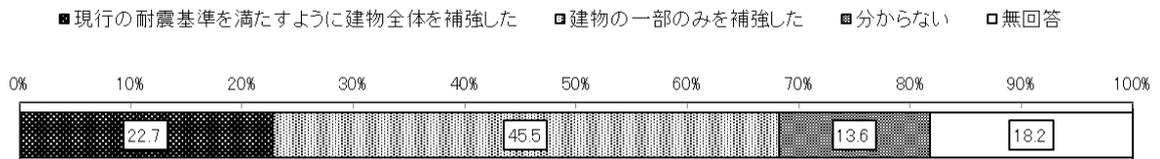


9-6 補助制度を活用せずに耐震補強を実施した際の工事内容

【問 32】 問 31 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない

(1) 集計結果



9-7 実施した耐震補強工事の工事費

【問 33】 問 32 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、
「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 () 万円位

(1) 集計結果

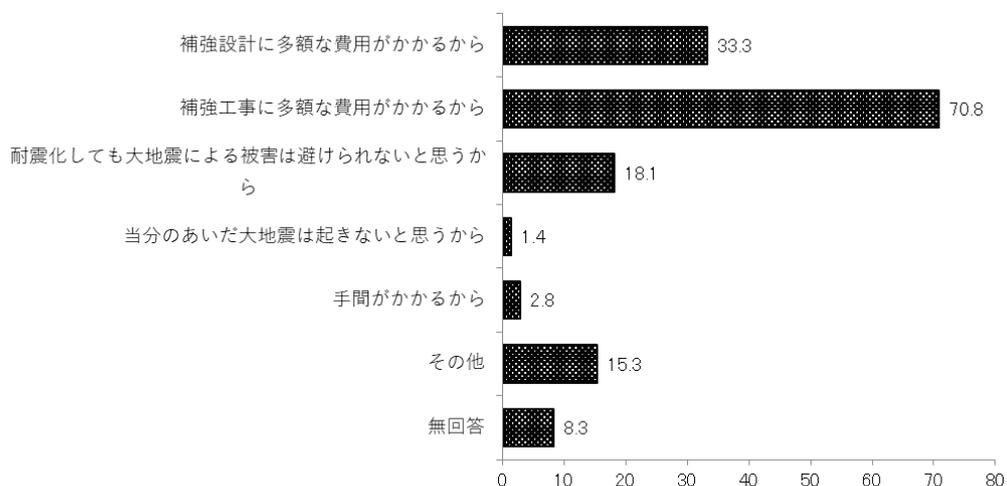


9-8 耐震補強を実施しない理由

【問 34】 問 30 で、「3. 現在検討中 (補強設計のみ行った)」、「4. 工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 補強設計に多額な費用がかかるから
2. 補強工事に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 具体的に：

(1) 集計結果

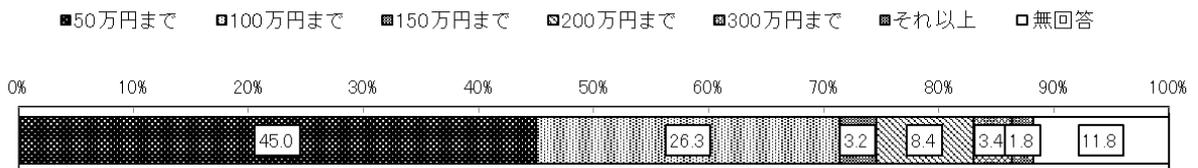


9-9 耐震補強工事にあたって許容できる自己負担額

【問 35】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 (万円まで)

(1) 集計結果



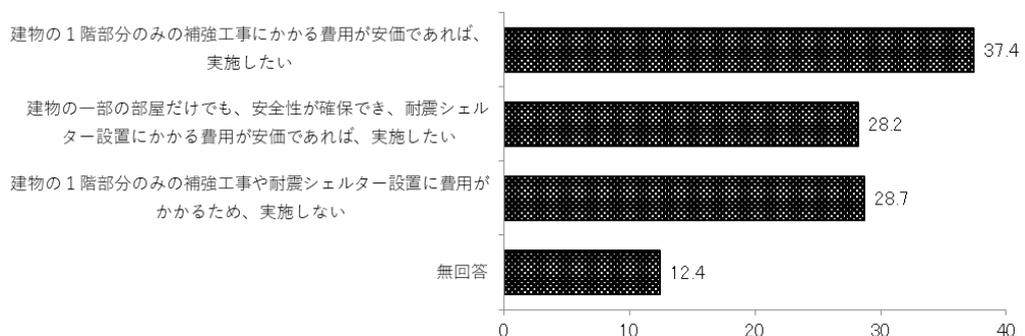
9-10 耐震補強工事の一部実施

【問 36】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルターを設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。(いくつでも○)

1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい
2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば、実施したい
3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない

※ 耐震シェルター：建物内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間を作り、安全性を確保するもの（三重県型耐震シェルター：参考価格 70 万円程度）

(1) 集計結果



資料

○津波危険地域一覽

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富州原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、檜原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、星合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、礪浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贅浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

防災に関する県民意識調査

調査目的

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、令和4年度の「防災に関する県民意識調査」へのご協力をお願いすることになりました。

この調査は、県内市町の選挙人名簿から18歳以上の県民の皆さん5,000人を無作為に抽出し、皆さんの防災に関する意識を把握して、今後の三重県の防災対策に活用することを目的に行います。

平成23年に東北地方を始めとする多数の県に甚大な被害をもたらした東日本大震災、平成28年の熊本地震、さらに平成30年の西日本豪雨、令和2年7月豪雨のように、毎年、全国各地に被害をもたらしている地震や風水害などの自然災害は、私たちが生きていくうえで逃れようのないものです。

このような今後も起こりうる自然災害による被害を最小限に抑えるためには、県民の皆さんを始め、自主防災組織、消防団、事業者、行政等がそれぞれ「自助」・「共助」・「公助」の責務と役割を理解し、お互いに連携して“災害に備える”ために「防災の日常化」をめざすことが大切です。

そのため、三重県では防災対策を県政の最重要課題に掲げ、今後30年以内に70～80%の確率で発生が予想される南海トラフ地震や、年々激化の様相を見せる風水害への“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、今後、三重県が防災施策を適切に進めるにあたって、重要な基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、本調査にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容は、防災に関する県民意識の調査のみを目的に、個人を特定しない統計情報として利用するものであることをお知らせします。

令和4年10月

三重県防災対策部

調査機関 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班 電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp
-------------------	---



一 ご記入にあたってのお願い一

- この調査は、できるだけあて名に「ご本人」がお答えください。(※)
(※)ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方等がご自身の立場で
ご記入いただきますようご協力をお願いいたします。
- 回答は、直接、調査票にご記入ください。
- 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
また、「その他()」に当てはまる場合には、ご面倒ですが詳しく
ご記入ください。
- 回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注意ください。
- 回答いただいた調査票は、10月26日(水)までに同封の返信用封筒に入
れ、**切手を貼らずに**郵便ポストへ投函してください。
- この調査に関するご質問は、下記に記載の連絡先までお問い合わせいた
だきますようお願いいたします。

連絡先 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班 電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp
------------------	---

★地震・津波対策について

【問 1】 あなたの住んでいる地域で、今後 10 年程度の間に大規模な地震が起これると思いますか。(一つだけ○)

1. 思う
2. 思わない

→問 2 へ

【問 2】 三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、あなたは、お住いの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的に知っている
2. ある程度は知っている
3. 知らない

→問 3 へ

※ 「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深 30cm に到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。
三重県地震被害想定調査結果： <https://www.pref.mie.lg.jp/D/BOUSAI/84544007861.htm>

【問 3】 平成 23 年の東日本大震災の発生から 10 年あまりが経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている
(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった

→問 4 へ

【調査票】 防災に関する県民意識調査

★あなた自身とご家族について

最初に、あなたご自身とご家族等についてお尋ねします。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください (F1については市町名をご記入ください)。これらは、回答を統計的に分析するために必要な情報です。無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので、個人の情報が特定されることは一切ありません。ご協力をお願いします。

F 1 ご自宅のある市町は

市町名 ()

F 2 あなたの性別は

1. 男性 2. 女性 3. ()

F 3 お年は

1. 10～20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代
4. 50 歳代 5. 60 歳代 6. 70 歳以上

F 4 あなたの主な職業は何ですか。(一つだけ○)

1. 農林水産業 (※新卒者も含みます) 2. 自営業、自由業 (※家族従業者も含みます)
3. 企業、役所、団体などの正規職員 4. パート、アルバイト、派遣社員など
5. その他、収入のある仕事 6. 学生 (アルバイトなどをしていても含みます)
7. 専業主婦、専業主夫 8. 無職

F 5 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。(○はいくつでも)

1. 乳幼児 2. 小学生 3. 中学生
4. 高校生 5. 75 歳以上の方 6. 介護・介助が必要な方
7. 妊産婦 8. 当てはまる人はいない

★風水害対策について

【問 6】 あなたのお住いの周辺における風水害（高潮や川のはん蓋、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度把握されていますか。(いくつでも○)

1. 高潮による浸水の危険性があること
2. 川のはん蓋による浸水の危険性があること
3. 内水はん蓋による浸水の危険性があること
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあること
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えないこと

→問 7へ

※内水はん蓋：局地的大雨等で下水道溢れや小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに農地や土壌、道路等が浸水する風水害

【問 7】 平成23年の紀伊半島大水害の発生から10年あまりが経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 紀伊半島大水害当時持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
3. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持っていたが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識が高まった。
6. 紀伊半島大水害当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった

→問 8へ

【問 8】 市町が発令する避難情報に5段階の警戒レベルを用いて伝達することとなりますが、この警戒レベルを知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的な内容を知っている
2. 警戒レベルの名称は知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

※警戒レベル：災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「難」を「避」けるため「自らの命は自らが守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。(避難情報が新しくなります <https://www.pref.mie.lg.jp/STAI/SAKU/HP/000249704.html>)

【問 4-1】 大きな地震が発生した場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。(いくつでも○)

1. 地震の揺れが収まったら即座に避難する
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 家の停電やガス、水道の停止
7. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
8. 避難行動を取ることができない(理由:)
9. 避難の必要がない(理由:)
10. 避難しようと思わない
11. その他(具体的に:)

→問 5へ

→問 4-2へ

→問 5へ

【問 4-2】 問 4-1で「10. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 自宅が安全だと感じるから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ベットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 感染症が心配だから
10. 面倒だから
11. その他(具体的に:)

→問 5へ

※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問 5】 南海トラフ地震臨時情報について、地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することとなっておりますが、このことを知っていますか。(一つだけ○)

1. 知っている
2. 名称は知っているが、具体的な内容(何をすべきか)は知らない
3. 知らない

→問 6へ

※「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするものです。(南海トラフ地震臨時情報について <http://www.pref.mie.lg.jp/STAI/SAKU/HP/0009500047.html>)

★災害時の情報収集について

【問 10】 災害時にどのような情報をお知りになりたいですか。(いくつでも○)

1. 気象情報 (天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報 (警戒レベル)
3. 避難所情報
4. 土砂災害のおそれのある場所 (土砂災害警戒区域等)
5. 医療・救援情報
6. 交通・道路情報
7. ライフライン (電気・ガス・水道・電話通信) 情報
8. 被害情報 (詳細)：文字による被害詳細情報
9. 被害情報 (概要)：地図情報
10. ライブカメラ等の映像情報
11. 災害、天気に関するニュース
12. 県、市町からのお知らせ
13. その他 (具体的に)

→問 11へ

【問 9-1】 被害の発生が予測されるような大雨が降っている場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。(いくつでも○)

1. 大雨が見込まれる段階で事前に避難しておく
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 家の停電やガス、水道の停止
7. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
8. 避難行動を取ることができない (理由：)
9. 避難の必要がない (理由：)
10. 避難しようと思わない
11. その他 (具体的に：)

→問 9-2へ

→問 10へ

【問 9-2】 問 9-1 で「10. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。

あなたが避難しない理由は何か。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 自宅が安全だから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 感染症が心配だから
10. 面倒だから
11. その他 (具体的に：)

→問 10へ

※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ、時に避難するための場所
 ※避難所：災害により短期間の避難生活を承継なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物
 (避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問 13-1】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。

(一つだけ○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 知っているが、災害時に見たことがある(以下「災害時」という。)にみたことがある | →問 13-2 へ |
| 2. 知っているが、災害時に見たことがない | →問 13-3 へ |
| 3. 知らない | →問 14 へ |
| 4. インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない) | →問 16-1 へ |

【問 13-2】 問 13-1 で、「1. 知っている、災害時に見たことがある」と回答された方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見ましたか。

(いくつでも○)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 気象情報 (天気・警報/注意報・雨量・水位等) |) |
| 2. 避難情報 (警戒レベル) | |
| 3. 避難所情報 | |
| 4. 医療・救済情報 | |
| 5. 交通・道路情報 | |
| 6. ライフライン (電気・ガス・水道・電話通信) 情報 | |
| 7. 被害の個別情報 (人的被害・建物被害等) | |
| 8. 火災情報 | |
| 9. 土木施設被害情報 | |
| 10. その他 (具体的に | |

→問 14 へ

【問 13-3】 問 13-1 で、「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

- | | |
|--|---|
| 1. 他の手段 (TV、ラジオ、インターネット等) で必要な情報が入手できるから |) |
| 2. 災害時に知りたい情報が掲載されていないから | |
| 3. 必要な情報が探しにくいから | |
| 4. インターネット等の環境がないから (スマートフォン等を持っていないから) | |
| 5. 普段から災害情報を意識していないから | |
| 6. その他 (具体的に: | |

→問 14 へ

【問 11】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。現在どこから入手することが多いかお答えください。

(「現在」欄に、該当するものを、いくつでも○)

→ 「【問 12】 今後どこから入手したいかお答えください。

(「今後」欄に、該当するものを、いくつでも○)

現在	今後
	1. テレビ
	2. ラジオ
	3. 新聞
	4. 市町の防災行政無線
	5. 県や市町の広報誌、冊子
	6. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)
	7. インターネット (三重県土砂災害情報提供システム)
	8. インターネット (上記以外)
	9. 携帯メール (防災みえメール配信サービス)
	10. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」以外)
	11. 県公式 SNS (「防災みえ Twitter/LINE」)
	12. SNS (Twitter/LINE/Facebook 等) (「防災みえ Twitter/LINE」以外)
	13. 防災アプリ (Yahoo!防災速報、NHK ニュース防災 等)
	14. AI スピーカー・スマートスピーカー
	15. 街頭の掲示板
	16. 家族から
	17. 友人、知人から
	18. 町内会・自治会を通じて
	19. 消防署・消防団を通じて
	20. その他 (現在、入手している方法) [具体的に:] (今後、入手したい方法) [具体的に:]
	21. (現在) どこからも入手していない (今後) 特に入手したいと思わない

→問 13-1 へ

★避難場所・避難所について

【問 16-1】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。
(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

→問 16-2へ

→問 17へ

【問 16-2】 問 16-1で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」、「4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。
あなたは、避難場所や避難所について、何によって知りましたか。
(いくつでも○)

1. 市町窓口や市町から配布された避難所マップ等により、知っている
2. 地域の活動や自治会の方から教えてもらったので、知っている
3. 自分でホームページで調べたり、街中の避難所の看板を確認したの
で、知っている
4. その他(具体的に：)

→問 16-3へ

【問 16-3】 問 16-1で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」、「4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。

あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れない
ときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は
知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

→問 16-4へ

【問 14】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の
接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」の
メール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご
存知ですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
- (理由：)
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
- (理由：)
4. 知らない

→問 15へ

【問 15】 県では、台風の接近に伴う注意喚起等を「Twitter (ツイッター) やLINE (ラ
イン) 」で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。(いくつでも○)

1. ツイッターのフォローになって知っている
2. ツイッターでの発信について知っているが、フォロワーになっていない
(理由：)
3. 以前にツイッターのフォロワーになっていたが、やめた
(理由：)
4. ツイッターでの発信について知らない
5. ラインの友だち登録をしている
6. ラインでの発信について知っているが、友だちの登録をしていない
(理由：)
7. 以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた
(理由：)
8. ラインでの発信について知らない

→問 16-1へ

【PR】 県が提供する防災情報をご活用ください！

ホームページ「防災みえ.jp」
気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等を
提供しています。ぜひご利用ください。
URL <http://www.bosaimie.jp/>

メール配信サービス
気象情報や台風・地震に関する情報等をお手持ちの携帯電話や
スマホ、パソコンに配信するサービスです。
a@bosaimie.jp へ空メールを差信して登録してください。

Twitter (ツイッター) 「防災みえ」
気象情報や台風・地震に関する情報、台風の接近に伴う避難の
呼びかけや防災情報を配信しています。
お手持ちのスマホやパソコンで閲覧できます。
URL <https://twitter.com/bosaimie/>

LINE (ライン) 「防災みえ」
台風の接近に伴う避難の呼びかけや防災情報を配信していま
す。お手持ちのスマホで利用できるLINEアプリで閲覧できます。
友だち登録用ID: @bosaimie



★日頃の防災対策について

【問 18】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。
(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している (ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染防止策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源(モバイルバッテリー)を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 携帯トイレを準備している
15. 枕元にスリッパを置いている
16. いつも笛を身につけている
17. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
18. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
19. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
20. 感震ブレーカーを設置している
21. ベットの紐や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
22. その他 (具体的に：)
23. 特に対策をとっていない

※感震ブレーカー：地震を感じると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→ 問 19-1 へ

【問 16-4】 あなたは、夜間など避難が困難な状況において災害が発生した場合において、
も、円滑に避難できると思いますか。(いくつでも○)

1. 避難できると思う
2. 避難経路の電灯などの整備が不足しており、避難できないと思う
3. 夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない
4. 夜間避難を考えたことがない
5. その他 (具体的に：)

→ 問 17 へ

【問 17】 あなたは、出先など土地勘のない場所において災害が発生した場合、何を頼り
に避難しようと思いますか。
(いくつでも○)

1. スマートフォン等(インターネットで市町のホームページを見たり、防災アプリを活用)
2. 避難所などの案内板
3. 周囲の人に聞く
4. その他 (具体的に：)

→ 問 18 へ

★地域・職場での防災活動について

【問 20-1】 あなたは、地域で実施される防災活動（問 20-4 の選択肢参照）に参加しようと思いませんか。（一つだけ○）

1. 積極的に参加したいと思っている
2. 機会があれば参加したいと思っている
3. できるだけ参加したいとは思わない
4. 参加したくない

→問 20-2 へ

【問 20-2】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 20-4 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ○）

※ 直近で開催される防災活動へ参加する予定がある場合は 1～3 に○をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

→問 20-3 へ

→問 20-4 へ

→問 20-3 へ

→問 20-5 へ

【問 20-3】 問 20-2 で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。

あなたが地域の防災活動に参加したきっかけはなんですか。（いくつでも○）

1. 防災活動に興味があったから
2. 自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから
3. 家族や友人から誘われたから
4. 地域における声掛けがあったから
5. その他（具体的に： _____）

→問 20-4 へ

【問 19-1】 あなたのご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。（一つだけ○）

1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 20-1 へ

→問 19-2 へ

【問 19-2】 問 19-1 で、「2. 一部固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。（いくつでも○）

1. 固定しなくても安全な状態にある
2. 大地震はすぐには起きないと思うから
3. 手間がかかると感じるから
4. 費用がかかると感じるから
5. 固定しても被害は出ると感じるから
6. 固定の方法がわからないから
7. 借家だから
8. その他（具体的に： _____）

→問 20-1 へ

【問 22】 あなたは、どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練
7. その他（具体的に： _____）

→問 23へ

※BCP（事業継続計画）：

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合にとどまらず、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

【問 23】 地域の防災活動や防災対策について、あなたが地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他（具体的に： _____）

→問 24-1へ

【問 24-1】 あなたはお住まいの地域の消防団に参加していますか。(一つだけ○)

1. 参加している
2. 過去に参加していたが、今は参加していない
3. 参加していない

→問 24-2へ

→問 24-3へ

【問 20-4】 問 20-2 で「1. 地域の防災活動に参加した」、12. 職場の防災活動に参加した」、13. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 消防団の活動
13. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
14. 企業や事業所も一緒になった防災活動
15. 災害ボランティアの受入訓練
16. その他（具体的に： _____）

→問 21へ

【問 20-5】 問 20-2 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何か。(一つだけ○)

1. 地域や職場で防災活動は実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. 感染症の影響で中止になったから
7. その他（具体的に： _____）

→問 21へ

【問 21】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

→問 22へ

★学校の防災教育について

【問 25】 子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一人として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。(いくつでも〇)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 学校と家庭や地域（自主防災組織や自治会など）と連携した避難訓練等の防災活動の実施
11. 地域の防災タウウンウォッチングや防災マップの作成
12. 救急・救命講習
13. その他（具体的に：）

→問 26へ

【問 26】 (同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。) 防災ノート等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。(一つだけ〇)

1. 子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある
2. 防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことはない
4. その他（具体的に：）

→問 27へ

※防災ノート：三重県教育委員会が県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の児童生徒に配布する防災教育教材。

【問 24-2】 問 24-1で、「1. 参加している」「2. 過去に参加していたが、今は参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたがお住まいの地域の消防団に参加したきっかけはなんですか。(いくつでも〇)

1. 消防団活動に興味があったから
2. 地域に貢献したいと思ったから
3. 消防団員に誘われたから
4. 家族・親族が消防団に所属していたから
5. 自治会などから誘われたから
6. 職務で誘われたから
7. 市町の広報誌やポスター等で興味を持ったから
8. その他（具体的に：）

→問 25へ

【問 24-3】 問 24-1で、「3. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたがお住まいの地域の消防団に参加しない理由は何ですか。(いくつでも〇)

1. 地域に消防団があるかどうか知らないから
2. 消防団がどのような活動をしているのか知らないから
3. 消防団活動により仕事との両立が難しそうだから
4. 昔から地域にある組織で入りにくそうイメージがあるから
5. 体力的にきついイメージがあるから
6. 地域への意識が低くなっているから
7. 報酬が安いから
8. その他（具体的に：）

→問 25へ

【問 32】 問 31 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工
 事を行いましたか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した | →問 33へ |
| 2. 建物の一部のみのみを補強した | |
| 3. 分らない | →質問終了です |

【問 33】 問 32 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の
 一部のみのみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいく
 ら位かかりましたか。(一つだけ○)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 50万円まで | →質問終了です |
| 2. 100万円まで | |
| 3. 150万円まで | |
| 4. 200万円まで | |
| 5. 300万円まで | |
| 6. それ以上 () 万円位 | |

【問 34】 問 30 で、「3. 現在検討中(補強設計のみ行った)」、「4. 工事をううつもりはない」
 と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしな
 い理由は何ですか。(いくつでも○)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1. 補強設計に多額な費用がかかるから | →問 35へ |
| 2. 補強工事に多額な費用がかかるから | |
| 3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから | |
| 4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから | |
| 5. 手間がかかるから | |
| 6. その他(具体的に:) | |

【問 35】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強
 を行いますか。(一つだけ○)

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 50万円まで | →問 36へ |
| 2. 100万円まで | |
| 3. 150万円まで | |
| 4. 200万円まで | |
| 5. 300万円まで | |
| 6. それ以上 () 万円まで | |

★あなたのお住いの耐震化について

【問 27】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

- | | |
|--|---------|
| ※ 埋築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。 | |
| 1. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された
木造の家) | →問 28へ |
| 2. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された
木造以外の家) | →問 29へ |
| 3. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に敷地内で建て替え) | →質問終了です |
| 4. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に新たな敷地に新築) | →質問終了です |
| 5. アパート・マンション等の集合住宅 | |

【問 28】 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された(工工を含む)木造住宅
 の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。
 (いくつでも○)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1. 耐震診断費用への補助(無料耐震診断) | →問 29へ |
| 2. 耐震補強設計費用への補助 | |
| 3. 耐震補強工事費用への補助(リフォーム工事補助を含む) | |
| 4. どれも知らない | |

【問 29】 あなたのご自宅(同じ敷地内で建て替えを行った場合、建て替え前の住宅を含む、
 借家も含む)は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがありますか。
 は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 受けたことがない | →問 35へ |
| 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された | →問 30へ |
| 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった | →質問終了です |

【問 30】 問 29 で、「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された
 方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。
 (一つだけ○)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 補強工事を行った | →問 31へ |
| 2. 建て替えた | →質問終了です |
| 3. 現在検討中(補強設計のみ行った) | →問 34へ |
| 4. 工事をううつもりはない | |

【問 31】 問 30 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工
 事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ○)

- | | |
|--------|---------|
| 1. はい | →質問終了です |
| 2. いいえ | →問 32へ |

○以下の項目に関してご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

今後の参考にさせていただきます。

■地震・津波対策について

■風水害対策について

■避難について

■防災に関する啓発活動について

■その他

(例：地域や企業の防災活動、避難行動要支援者対策、災害時の廃棄物処理等)

★ご協力ありがとうございました。
10月26日(水)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

【問 36】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルター(※)を設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。(いくつでも○)

1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい
2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば、実施したい
3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない

→質問終了です

※耐震シェルター：建物内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間を作り、安全性を確保するもの
(三重県耐震シェルター；参考価格70万円程度)

報告書名 令和4年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 令和5年3月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.lg.jp